

特別史跡

# 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 18

第 60・67・100・106・109 次調査

2 0 2 0

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

## 序 文

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査事業は、昭和42年(1967)の諏訪館跡・湯殿跡・南陽時跡庭園の調査を皮切りに、現在も継続して行われており、昭和46年に山城を含む278haが特別史跡に、平成3年に4つの庭園が特別名勝に、平成19年に出土資料の2,343点が重要文化財に指定され、令和元年5月に一乗谷朝倉氏遺跡等が日本遺産に認定されました。半世紀を超える発掘調査で得られた多種多様な遺構・川土品は、戦国期の生活・文化の様子を明らかにしてきました。

本報告書は、第60・67・100・106・109次の調査成果をまとめたものです。第60次は諏訪館跡庭園と湯殿跡庭園に水を引き込む導水路を確認し、第67次は朝倉館跡外濠の規模を調べました。第100次は土塁に仕切られた武家屋敷群を発見し、第106次でも屋敷跡を確認しました。第109次は朝倉館跡の南西側を調査し、屋敷跡の状況は良くありませんでしたが、陶磁器やサザエの貝殻を廃棄した土坑が見つかり、当時の暮の風景を想起させてくれます。

本報告が、今後の戦国期の城下町の調査・研究を進めるにあたって、一助となれば幸いです。

最後になりましたが、正報告書の刊行が遅くなりましたこととお詫言するとともに、文化庁をはじめ関係機関、地元の皆様から多大なご支援とご協力をいただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。

令和2年3月

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
館長 向出宏二

## 例 言

- 1 本書は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡(福井県福井市)における計画的な発掘調査の結果を報告したものであり、第18目目にあたる。発掘調査事業概要は「I. 事業概要」で報告する。
- 2 本書で報告する調査は、国庫補助事業として、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が昭和62年(1987)度から平成12年(2000)度までに実施したものである。各調査次の発掘調査期間、主な担当者は下記のとおりである。  
第60次 昭和62年(1987) 12月8日～同年12月24日 古岡泰英 水野和雄 月輪泰  
第67次 平成元年(1989) 9月8日～同年10月7日 南洋一郎  
平成2年(1990) 1月10日～同年1月11日 南洋一郎  
第100次 平成9年(1997) 4月1日～同年12月21日 岩田隆 南洋一郎 佐藤圭  
第106次 平成11年(1999) 11月2日～同年12月1日 南洋一郎 佐藤圭  
第109次 平成12年(2000) 11月2日～同年12月20日 佐藤圭 水村伸行 宮永 美
- 3 本書を刊行するための出土遺物整理作業は、平成29年度から令和元年度まで福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館で実施した。
- 4 本書は、当時の発掘調査の記録類をもとに、鈴木篤英(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館主任)が編集・作成を担当した。調査日誌の作成および記録類の再整理等については川越光洋(同館主任)が担当した。
- 5 本書掲載にした各次の発掘調査・整備事業概報(以下、概報と略す)やこれまでの成果発表の中で齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 6 本書の遺構写真撮影は発掘調査担当者による。遺物写真撮影は鈴木が担当した。
- 7 写真図版・挿図・表の遺物番号は符合する。写真の縮尺は不同である。
- 8 本書における水平レベルの表示は海拔高(m)を示し、方位は座標北を用いた。ただし、各調査次の記録類に不備な点が少なくなく、標高や座標の数値が判明したものだけ記載した。挿図の方位は、国土地理院直交座標第VI系を使用している。
- 9 本書で用いた遺構の略記号は次の通りである。  
SA: 土器土坑、SB: 建物、SD: 溝、SE: 井戸、SF: 石積遺構、SK: 土坑、SS: 道路、SV: 石垣・石列、SZ: 暗渠、SX: 石敷遺構
- 10 本書に掲載した遺物と、調査に際して作成した図面・写真は、一括して福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館に保管してある。
- 11 本書の作成にあたり、下記の方々、機関からご指導・ご教示をいただいた。  
岩田 隆 熊谷 透 田中祐二 藤田若菜 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター (五十音順)
- 12 発掘調査では、地元・地権者の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の整理作業員が行った。

# 目 次

I. 事業概要	
1. 調査の目的と経過	1
2. 調査の方法および組織	1
3. 本報告書作成年度における組織および経費	3
II. 調査の概要と経過	
1. 調査の概要	5
2. 調査日誌	7
III. 第60次調査【1区諏訪館跡庭園導水路、2区湯殿跡庭園導水路】	
1. 1区の遺構	9
2. 1区の遺物	11
3. 2区の遺構	14
IV. 第67次調査【朝倉館跡外濠1～5区】	
1. 朝倉館跡外濠	17
2. 館跡外濠1区	18
3. 館跡外濠2区	19
4. 館跡外濠3区	20
5. 館跡外濠4区	22
6. 館跡外濠5区	23
7. 遺物	24
V. 第100次調査【城戸ノ内町字川合殿、藤兵衛川原】	
1. 遺構の概要	29
2. 武家屋敷A群	32
3. 武家屋敷B群	36
4. 武家屋敷C群	39
5. 遺物	42
VI. 第106次調査【城戸ノ内町字瓜割流】	
1. 遺構	73
2. 遺物	75
VII. 第109次調査【城戸ノ内町字新御殿】	
1. 遺構	81
2. 遺物	81
VIII. ま と め	99

## 写真図版目次

- PL. 1 第 60 次調査 諏訪館跡庭園  
 (1) 第 60 次調査 1 区 諏訪館跡庭園下段(北東から)  
 (2) 第 60 次調査 1 区 諏訪館跡庭園上段(東から)
- PL. 2 第 60 次調査 諏訪館跡庭園  
 (1) 庭園上段導水路(北東から)  
 (2) 庭園上段上土垣石垣(西から)  
 (3) 庭園上段導水路(北西から)  
 (4) 庭園上段導水路(北西から)  
 (5) 庭園上段導水路(南東から)  
 (6) 庭園上段導水路(南東から)
- PL. 3 第 60 次調査 湯殿跡庭園  
 (1) 第 60 次調査 2 区 湯殿跡庭園(南から)  
 (2) 第 60 次調査 2 区 遺構全景(北東から)
- PL. 4 第 60 次調査 湯殿跡庭園  
 (1) 庭園導水路(北から)  
 (2) 庭園導水路(北東から)  
 (3) 庭園導水路(北東から)  
 (4) 庭園導水路口手前屈曲部(東から)  
 (5) 庭園導水路口(北東から)
- PL. 5 第 67 次調査 朝倉館跡外濠  
 (1) 第 67 次調査区 朝倉館跡外濠遠景(北西から)  
 (2) 館跡外濠 1 区(南東から)  
 (3) 館跡外濠 1 区(南東から)
- PL. 6 第 67 次調査 朝倉館跡外濠  
 (1) 館跡外濠 2 区(北東から)  
 (2) 館跡外濠 3 区石垣(北東から)  
 (3) 館跡外濠 4 区(東から)  
 (4) 館跡外濠 4 区石垣(南西から)  
 (5) 館跡外濠 4 区山上笠石(南から)  
 (6) 館跡外濠 5 区唐門前石垣(北西から)  
 (7) 館跡外濠 5 区唐門前石垣(北西から)
- PL. 7 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 A 群  
 (1) 第 100 次調査区遠景(北東から)  
 (2) 第 100 次調査区遺構全景(南東から)
- PL. 8 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 A 群  
 (1) 第 100 次調査区東側遺構全景(北東から)  
 (2) 第 100 次調査区西側遺構全景(北東から)
- PL. 9 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 A 群  
 (1) SB4634(南西から)
- (2) 武家屋敷 A 群北端遺構全景(南東から)  
 (3) 武家屋敷 A 群北東隅遺構全景(南西から)  
 (4) 武家屋敷 A 群南東側遺構全景(北西から)  
 (5) SD4644、SS4684、SX4692(南東から)  
 (6) SE4684(南東から)  
 (7) 東側土垣石垣 SA4632(南西から)
- PL. 10 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 A 群  
 (1) 北側土垣石垣 SA4631(南東から)  
 (2) 南側土垣石垣 SA4633(南東から)  
 (3) 東側土垣石垣 SA4632 内 S14668(北西から)
- PL. 11 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 A 群  
 (1) 東側土垣石垣 SA4632、SD1439(北西から)  
 (2) SD1439(南東から)  
 (3) SF4652(南西から)  
 (4) SF4653(南東から)  
 (5) SF4654・4656(南東から)  
 (6) SE4651、SF4657(南西から)  
 (7) SS1425、SD1439、SE1455・4651、SF4657(北東から)
- PL. 12 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 A 群  
 (1) 東側土垣石垣 SA4632、下層遺構 SF4662・1474(南から)  
 (2) 東側土垣石垣 SA4632、下層遺構 SF4663(南西から)  
 (3) SF4658～4661(南から)  
 (4) 東側土垣石垣 SA4632、下層遺構 SF4663・1475(南東から)
- PL. 13 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 B 群  
 (1) 武家屋敷 B 群遺構全景(北東から)  
 (2) 武家屋敷 B 群遺構全景(南西から)
- PL. 14 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 B 群  
 (1) SB4635、SX4697(南東から)  
 (2) SB4634、SX4699(南東から)
- PL. 15 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
 武家屋敷 B 群  
 (1) SB4637、SE4649(南東から)  
 (2) SB4637、SF4666、SX4708(北東から)  
 (3) SK4672(東から)  
 (4) SF4666(北東から)  
 (5) SB4649(南東から)

- PL. 16 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 C 群
- (1) 武家屋敷 C 群遺構全景(南西から)
  - (2) SE4650(南東から)
  - (3) SX4707(南東から)
  - (4) SX4706(南東から)
- PL. 17 第 106 次調査 城戸ノ内町字瓜割流
- (1) 第106 次調査区遺構全景(北西から)
  - (2) 調査区遺構全景(南から)
  - (3) 調査区北東隅遺構全景(西から)
  - (4) 調査区南西隅遺構全景(西から)
- PL. 18 第 109 次調査 城戸ノ内町字新御殿
- (1) 第 109 次調査区遺構全景(南西から)
  - (2) 第 109 次調査区遺構全景(南東から)
- PL. 19 第 109 次調査 城戸ノ内町字新御殿
- (1) 第 109 次調査区遺構全景(北西から)
  - (2) SA4952(南西から)
  - (3) 調査区南西隅遺構全景(南東から)
  - (4) S14953(南東から)
  - (5) SA4954(南東から)
  - (6) SX4958(北東から)
  - (7) SX4959(北東から)
- PL. 20 第 109 次調査 城戸ノ内町字新御殿
- (1) SX4956・4957(北東から)
  - (2) SA4960(西から)
  - (3) SF4961(北東から)
  - (4) SF4962(北東から)
  - (5) SF4963(南東から)
  - (6) SK4967(北西から)
  - (7) SE4955(南東から)
- PL. 21 第 60・67 次調査 出土遺物
- (1) 第 60 次調査出土陶磁器類、石製品
  - (2) 第 67 次調査出土陶磁器類、石製品
- PL. 22 第 67 次調査 出土遺物
- (1) 第 67 次調査出土木製品
- PL. 23 第 100 次調査 武家屋敷 A 群出土遺物
- (1) 武家屋敷 A 群包含層出土陶磁器類
- PL. 24 第 100 次調査 武家屋敷 A 群出土遺物
- (1) SA4631 出土越前焼摺鉢
  - (2) SA4632 出土陶磁器類
  - (3) SP4653・4658 出土陶磁器類
  - (4) SS4684 出土土師器小皿
  - (5) SK4669 出土越前焼大甕・壺・捏鉢
- PL. 25 第 100 次調査 武家屋敷 A・B 群出土遺物
- (1) SP4660 出土越前焼摺鉢
  - (2) SK4683 出土越前焼大甕
  - (3) SK4678 出土陶磁器類
  - (4) 武家屋敷 B 群 SP4649 出土越前焼摺鉢
  - (5) 武家屋敷 B 群 SK4672 出土陶磁器類
- PL. 26 第 100 次調査 武家屋敷 A・B 群出土遺物
- (1) SE4646 出土青磁輪花皿
  - (2) SD4644 出土土師器小皿
  - (3) SD4642 出土青磁盤・皿、白磁碗・皿、牛耳製大日鏡
  - (4) SX4692 出土土師器小皿・4695 出土朝鮮白磁碗
  - (5) 武家屋敷 B 群包含層出土越前焼鉢類
  - (6) 武家屋敷 B 群包含層出土土師器小皿
- PL. 27 第 100 次調査 武家屋敷 B 群出土遺物
- (1) 武家屋敷 B 群包含層出土陶磁器類
- PL. 28 第 100 次調査 武家屋敷 B 群出土遺物
- (1) 武家屋敷 B 群包含層出土陶磁器類
  - (2) SB4635 出土越前焼大甕、白磁皿、染付皿
  - (3) SA4632 出土染付皿
  - (4) SF4663 出土土師器小皿
  - (5) SF4664 出土陶磁器類
  - (6) SK4671 出土灰輪小皿
- PL. 29 第 100 次調査 武家屋敷 B 群出土遺物
- (1) SK4672 出土越前焼大甕
- PL. 30 第 100 次調査 武家屋敷 B・C 群出土遺物、その他遺物
- (1) SK4672 出土越前焼大甕
  - (2) 224 押印文
  - (3) SK4672 出土越前焼壺、武家屋敷 C 群出土陶磁器類・土製品
  - (4) 第 100 次調査出土金属器
  - (5) 第 100 次調査出土勾玉
  - (6) 第 100 次調査出土石製品
- PL. 31 第 106 次調査 出土遺物
- (1) 第 106 次調査出土陶磁器類
  - (2) 第 106 次調査出土金属器
  - (3) 第 106 次調査出土石製品
- PL. 32 第 109 次調査 出土遺物
- (1) 包含層出土陶磁器類
- PL. 33 第 109 次調査 出土遺物
- (1) SK4967 出土越前焼壺・鉢類・土師器小皿
- PL. 34 第 109 次調査 出土遺物
- (1) SK4967 出土陶磁器類
  - (2) SP4955 出土土師器小皿・羽釜
  - (3) SK4967 出土貝殻
  - (4) 第 109 次調査出土石製品
  - (5) 第 109 次調査出土金属器
  - (6) 第 109 次調査出土銭貨

## 挿図目次

第 1 図	特別史跡—栗谷朝倉氏遺跡調査地点 …… 2	第 31 図	武家屋敷 B 群 …… 37
第 2 図	第 60・67・100・106・109 次調査位置図 …… 6	第 32 図	武家屋敷 B 群 SA4632、SX1527、SK4672 …… 38
第 3 区	第 60 次調査 1・2 区位置図 …… 10	第 33 図	武家屋敷 C 群 …… 40
第 4 区	第 60 次調査 1 区諏水路遺構図 …… 折込	第 34 図	武家屋敷 A 群包含層出土陶磁器類 …… 43
第 5 区	第 60 次調査 1 区諏水路遺構図 …… 折込	第 35 図	武家屋敷 A 群包含層・遺構出土陶磁器類 …… 44
第 6 区	第 60 次調査 1 区出土遺物 …… 12	第 36 図	武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類 …… 45
第 7 区	第 60 次調査 2 区湯殿跡庭園図 …… 折込	第 37 図	武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類、B 群遺構 出土陶磁器類 …… 46
第 8 区	第 60 次調査 2 区遺構全体図 …… 折込	第 38 図	武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類 …… 47
第 9 区	第 60 次調査 2 区諏水路・排水路遺構図 …… 15	第 39 図	武家屋敷 A 群包含層出土陶磁器類 …… 48
第 10 区	第 67 次調査朝倉館跡外濠 1～5 区位置図 …… 17	第 40 図	武家屋敷 B 群包含層出土陶磁器類 …… 49
第 11 区	館跡外濠 1 区平面図 …… 18	第 41 図	武家屋敷 B 群包含層・遺構出土陶磁器類 …… 50
第 12 区	館跡外濠 1 区土塁石垣 …… 18	第 42 図	武家屋敷 B 群遺構出土陶磁器類 …… 51
第 13 区	館跡外濠 1 区断面図 …… 19	第 43 図	武家屋敷 B 群遺構出土陶磁器類 …… 52
第 14 区	館跡外濠 2 区平面図・断面図 …… 20	第 44 図	武家屋敷 B・C 群出土陶磁器類、第 100 次 調査出土土製品、金属器、石製品 …… 53
第 15 区	館跡外濠 3 区平面図・断面図 …… 21	第 45 区	第 100 次調査出土銭貨 …… 54
第 16 区	館跡外濠 4 区平面図 …… 22	第 46 区	第 106 次調査区と周辺の調査区 …… 73
第 17 区	館跡外濠 4 区土塁石垣・断面図 …… 22	第 47 区	第 106 次調査区遺構全体図 …… 74
第 18 区	館跡外濠 5 区平面図 …… 23	第 48 区	第 106 次調査区南北・東西遺構断面図 …… 75
第 19 区	館跡外濠 5 区断面図 …… 23	第 49 区	第 106 次調査出土陶磁器類、金属器 …… 76
第 20 区	第 67 次調査出土陶磁器類、石製品 …… 24	第 50 区	第 106 次調査出土石製品 …… 77
第 21 区	第 67 次調査出土木製品 …… 26	第 51 区	第 109 次調査区遺構全体図 …… 82
第 22 区	第 67 次調査出土木製品 …… 27	第 52 区	第 109 次調査包含層出土陶磁器類 …… 83
第 23 区	第 100 次調査区と周辺の調査区 …… 30	第 53 区	第 109 次調査包含層出土陶磁器類 …… 84
第 24 区	第 100 次調査遺構全体図 …… 折込	第 54 区	第 109 次調査包含層・遺構出土陶磁器類 …… 85
第 25 区	第 100 次調査南北・西東遺構断面図 …… 折込	第 55 区	第 109 次調査遺構出土陶磁器類 …… 86
第 26 区	第 100 次調査グリッド配置図 …… 31	第 56 区	第 109 次調査遺構出土陶磁器類、金属器、 石製品、銭貨 …… 87
第 27 区	武家屋敷 A 群 …… 32		
第 28 区	武家屋敷 A 群 SF4654・4656、SD4641 …… 33		
第 29 区	武家屋敷 A 群 ST4668 …… 34		
第 30 区	武家屋敷 A 群・第 31 次調査区 …… 35		

## 表 目 次

第 1 表	第 60 次調査出土遺物観察表 …… 13	第 5 表	第 100 次調査出土遺物観察表 …… 55
第 2 表	第 67 次調査出土遺物観察表 …… 24	第 6 表	第 106 次調査出土遺物観察表 …… 78
第 3 表	第 67 次調査出土遺物木製品観察表 …… 28	第 7 表	第 109 次調査出土遺物観察表 …… 88
第 4 表	第 100 次調査主要遺構観察表 …… 41		

## I. 事業概要

### 1. 調査の目的と経過

戦国大名越前朝倉氏の拠点である特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡は、朝倉館を中心として山城、城戸、武家屋敷、町屋、寺院等の遺構が一体となって保存されており、国の歴史を知るうえで欠くことのできない国民共有の文化遺産として、永久に保存するため、特別史跡に指定して公有地化を進めている。

発掘調査で明らかになった遺構は保護するだけにとどまらず、その調査成果を広く公開し、歴史認識の醸成に活用されることを重視している。来園者が遺跡の中に身を置いて「歴史と生きた対話」ができる史跡公園の完成を目指している。

既に、一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査と整備に着手して半世紀以上を経た、地道な調査の積み重ねが一乗谷の町並みの規模や構造、そこで生きる人々の暮らしぶりを多彩な角度から解明してきたと自負している。

計画的かつ連続的に進めた発掘調査の成果に基づいて環境整備が実施され、適切な維持管理のもとに遺跡を公開するという基本理念は今日まで貫いているところである。

一乗谷朝倉氏遺跡の計画的な調査は、昭和42年度から旧足羽町教育委員会を事業主体として始め、昭和46年度からは、福井県教育委員会が発掘調査と環境整備事業実施し、福井市が用地取得と遺跡の管理を担当して事業を進めてきた。同年7月に278haという広大な区域が国の特別史跡に格上げ指定されると、県・福井市は昭和47年(1971)3月に「朝倉氏史跡公園基本構想」を策定し、さらに「基本構想」に基づく事業遂行の指導体制の万全を期すため、「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査研究協議会」を発足させた。同年3月に福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所を設置し、以後5ヶ年計画を策定して、継発掘調査と環境整備を継続的に実施し、昭和56年(1980)4月に研究所は福井県立朝倉氏遺跡資料館に改組し、平成4年4月、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館に改称した。

発掘調査は「計画調査」と「現状変更に伴う調査」に対応しており(第1図)、計画調査は複数年にわたる調査区の遺構が一定の面積にまとまる毎に、報告書を刊行してきた。現状変更を前提とした道路・河川整備事業や中山間事業等に伴う発掘調査については、事業別に報告書を刊行してきた。

また、史跡内の個人宅地の新・改築等に伴う発掘調査については、各年度の「発掘調査整備事業概報」で報告を行ってきた。それらの成果については平成29年度に『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告14』を刊行した。本書については、計画調査として実施した第60・67・100・106・109次の調査成果について報告するものである。

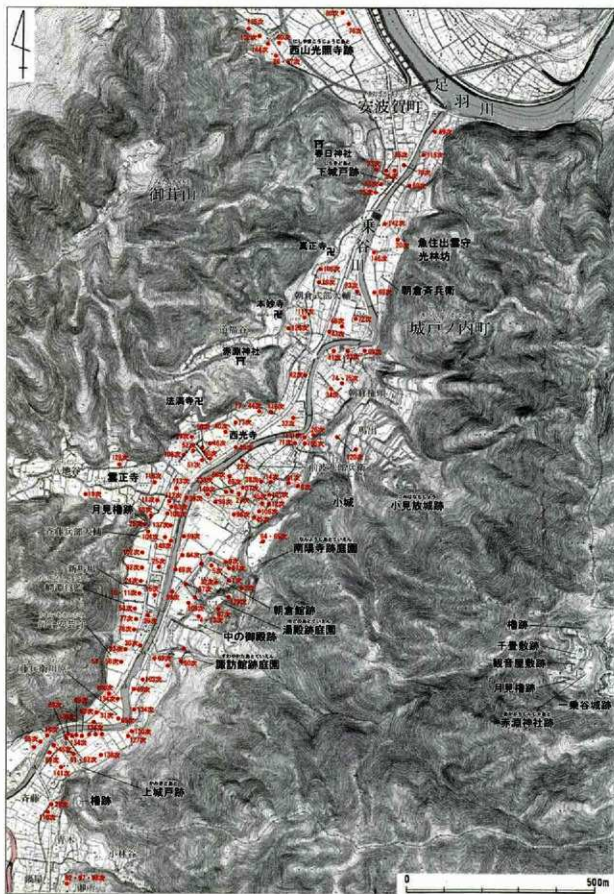
### 2. 調査の方法および組織

一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査・環境整備は、国庫補助事業として県が直接行っており、その実施機関として、福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所(昭和47年4月1日～昭和56年8月19日)、福井県立朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月20日～平成3年3月31日)、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館(平成4年4月1日～現在、以下、資料館に略)が設置され、組織を改変して今日に至る。

平成24年度に、県の機構改革によって、資料館は教育庁から知事部局に移管されたため、発掘調査、遺物整理は、一時、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが朝倉氏遺跡グループを設置して対応したが、平成29年度に発掘調査・遺物整理は再び資料館の業務となった。なお、資料館の業務については、「朝倉氏史跡公園基本構想」に基づいて設置された研究協議会(旧福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会)から適切な指導と助言を得て進めている。



1. 事業概要



第1図 特別史跡—乗谷朝倉氏遺跡調査地点(縮尺 1/10,000)

## 3. 本報告書作成年度における組織および経費

## 平成29年～令和元年度

## 朝倉氏遺跡研究協議会

- 会長 小野正敏 (国立歴史民俗博物館名誉教授・中世考古学)  
 副会長 高妻洋成 (奈良文化財研究所理蔵文化財センター長・保存科学)  
 委員 池上裕子 (成蹊大学名誉教授・中世史)  
 委員 久保智康 (京都市立博物館名誉館員・美術工芸)  
 委員 富島義幸 (京都大学大学院准教授・建築史)  
 委員 小野健古 (和歌山大学教授・遺跡整備)  
 委員 小浦久子 (神戸芸術工科大学教授・都市計画)  
 委員 杉本 宏 (京都造形芸術大学教授・庭園整備)  
 委員 神吉紀世子 (京都大学大学院教授・環境計画)  
 委員 岸田 清 ((社)朝倉氏遺跡保存協会長)  
 委員 網谷克彦 (元福井県陶芸館長・考古)  
 委員 古田 智 (福井県教育博物館長・歴史)

(※各委員の任期は平成30年1月24日まで、杉本委員の任期は同年1月25日から)

## 福井県立一乗谷朝倉氏資料館

平成29年度	平成30年度	令和元年度(6月より)
館長 向出宏二(事務)	館長 向出宏二(事務)	館長 向出宏二(事務)
副館長 月輪 泰(考古)	副館長 月輪 泰(考古)	副館長 月輪 泰(考古)
次長 下山淳子(事務)	次長 下山淳子(事務)	次長 下山淳子(事務)
主任 川越光洋(考古)	主任 川越光洋(考古)	主任 鈴木篤英(考古)
主任 宮永一美(歴史)	主任 宮永一美(歴史)	(併任) 福井県文化財調査センター)
主任 田中祐二(考古)	主任 田中祐二(考古)	主任 川越光洋(考古)
主査 木村孝 郎(考古)	主任 有馬香織(歴史)	主任 宮永一美(歴史)
(併任) 福井県文化財調査センター)	主査 松本泰典(考古)	主任 宮崎 聡(考古)
主査 松本泰典(考古)	主査 熊谷 透(建築)	主任 田中祐二(考古)
主査 熊谷 透(建築)	主査 藤田若菜(庶務)	主任 有馬香織(歴史)
学芸員 藤田若菜(庶務)	学芸員 石川美咲(歴史)	主任 熊谷 透(建築)
学芸員 徳清 悠(歴史)	学芸員 渡邊英明(保存科学)	主査 藤田若菜(庶務)
(併任) 福井県文化財調査センター)	学芸員 大竹桃子(史跡整備)	学芸員 石川美咲(歴史)
学芸員 石川美咲(歴史)	(兼務) 藤井亜衣(事務)	学芸員 渡邊英明(保存科学)
学芸員 渡邊英明(保存科学)	(福井県常設文化館員)	学芸員 大竹桃子(史跡整備)
学芸員 大竹桃子(史跡整備)	非常勤嘱託 花川洋介(事務)	(兼務) 藤井亜衣(事務)
(兼務) 福井県常設文化館員)	非常勤嘱託 眞保弘恵(事務)	(史跡文化財部)
(併任) 西村任代	非常勤嘱託 富阪昌代(事務)	非常勤嘱託 花川洋介(事務)
(兼務) 福井県文化財調査センター)		非常勤嘱託 眞保弘恵(事務)
非常勤嘱託 花川洋介(事務)		非常勤嘱託 富阪昌代(事務)
非常勤嘱託 眞保弘恵(事務)		
非常勤嘱託 富阪昌代(事務)		
(併任) 福井県文化財調査センター)		

**経 費**

平成 28 年度 発掘調査費 3,150 千円（報告書遺物整理）

平成 29 年度 発掘調査費 3,109 千円（報告書遺物整理）

令和 元 年度 発掘調査費 855 千円（報告書刊行）

発掘作業には、地元の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業については、資料館整理作業員が行った。

## II. 調査の概要と経過

### 1. 調査の概要(第2回)

**第60次調査**【1区諏訪館跡庭園導水路、2区湯殿跡庭園導水路】 第60次調査は1・2区合計で70㎡を対象とした。調査期間は昭和62年(1987)12月8日～同年12月24日である。1区の諏訪館跡は城戸ノ内町字上蛇谷に所在し、朝倉館跡から南へ約200m隔てた山林中腹に立地し、標高67～69mを測る。庭園は上・下段で構成され、昭和5年(1930)に湯殿跡、南陽寺跡、朝倉館跡と共に史跡・名勝に指定された。諏訪館跡は5代朝倉義景の大人である少少将の居館と伝えられ、昭和42年(1967)に旧奈良国立文化財研究所が調査を行い、庭園は池泉回遊式の庭園と位置付けられた。第60次調査では、上段庭園の山側で庭園導水路を検出し、導水路は諏訪館跡の西側土塁石垣を切って構築されていた。

2区の湯殿跡は城戸ノ内町字水谷に所在し、朝倉館跡から南東へ40m隔てた山林中腹に立地し、標高63～66mを測る。調査の結果、庭園南東側の山際において、開渠で構築した延長23mの導水路を検出した。庭園南西側では排水路も検出した。

**第67次調査**【朝倉館跡外濠1～5区】 調査区は城戸ノ内町字新御殿に所在し、朝倉館跡を囲む外濠330㎡を対象とした。調査期間は平成元年(1989)9月8日～同年10月7日、同2年(1990)1月10日～同年1月11日である。館跡の外濠は昭和48年(1973)の第9次調査で得根の駒をはじめとする多種多様な遺物が出土した。

第67次調査は、外濠の規模を把握するために実施し、外濠の四隅と唐門前に1～5区の調査区を設定した。北東隅の外濠1区では、館跡の土塁石垣を検出した。北西隅の外濠2区では外濠外側の岸は確認できなかった。外濠3区では、西濠外側の岸を部分的に確認し、西濠外側から一乗谷川に向かって幅5.0mの濠が新たに存在することを確認した。外濠4区では土塁石垣と朝倉館跡南門に架かる橋脚柱2を検出した。外濠5区では西濠外側の岸と、底面で門橋に対応する橋の石列らしき遺構を確認した。

**第100次調査**【城戸ノ内町川合殿、藤兵衛川原】 調査区は城戸ノ内町字川合殿、藤兵衛川原に所在し、一乗谷川左岸平地2,600㎡を対象とした。調査期間は、平成9年(1997)4月1日～同年12月21日である。武家早敷は北からA～C群に区分され、北側は第57・58次の調査区、東側は第31次調査区と接合する。A群は北側を幅1.8m、東側を幅1.8mの土塁石垣で区画し、南側を幅1.0mの土塁石垣で区画して、B群との境としていた。C群はB群の南西に位置し、北側を幅5.0～6.0mの通路で区画していると考えられる。第100次で検出した遺構は、土塁石垣の他に、礎石建物、掘立柱建物、石積遺構、井戸、石敷遺構、土坑等が検出され、前後の切り合い関係から、上層(Ⅲ期)、下層(Ⅱ・Ⅰ期)に区分することができた。遺物は、包含層と遺構から陶磁器を主体とする遺物が豊富に出土し、戦国期の城下町の実態を解明する良好な資料を得た。

### 第106次調査【城戸ノ内町瓜割流】

調査地点は、城戸ノ内町字瓜割流に所在し、朝倉館跡から北へ約160m隔てた瓜割清水の東側宅地225㎡を対象とした。調査期間は、平成11年(1999)11月2日～同年12月1日である。礎石建物と通路が検出されたが、屋敷跡は近世～近代に属すると考える。遺物は若干の陶磁器類、石製品等が出土した。

### 第109次調査【城戸ノ内町新御殿】

調査地点は、城戸ノ内町字新御殿に所在し、朝倉館跡の外濠を挟んだ南西の平地2,000㎡を対象とした。調査期間は、平成12年(2000)11月2日～同年12月20日である。大きな屋敷跡の土塁石垣と門跡、石敷遺構が検出されたが、屋敷跡自体は大規模に削平されていた。不定形の大型土坑から大量の土師器小皿、陶磁器が出土し、サザエの貝殻も多く含まれていた。



## 2. 調査日誌

## 第60次調査 昭和62年(1987)

- 12月8日 1区諏訪館跡庭園 庭園導水路の検出作業開始。滝口の石付付近を中心に精査。2段の石垣検出。
- 12月10日 1区諏訪館跡庭園 1/1,000地形図と調査区を照合。土塁を切って確認した噴出導水路を検出。
- 12月11日 1区諏訪館跡庭園 下段石垣精査。石垣構築面から青銅鍍、鉛鉛、白磁磁器等が出た。導水路精査。2区湯殿跡庭園 湯殿跡庭園導水路検出作業開始。導水路は庭園溝から南へ20m直線状に残存。
- 12月12日 1区諏訪館跡庭園 導水路の上流部を調査。後世の石列による破壊を確認。2区湯殿跡庭園 湯殿跡庭園導水路を20m精査。
- 12月15日 1区諏訪館跡庭園 写真撮影。新たに1区にトレンチを設定したが、導水路の延長は確認できず。2区湯殿跡庭園 滝口から南へ約23m進んだ地点で導水路は消失。
- 12月18日 1区諏訪館跡庭園 諏訪館の導水路の延長を最終確認すべく、上流部に第5・6トレンチを設定。2区湯殿跡庭園 導水路の南端は空堀で削平された可能性を検討する。写真撮影。
- 12月19日 1区諏訪館跡庭園 諏訪館の導水路の第5トレンチで地中に伴う石垣検出。2区湯殿跡庭園 撤収準備。
- 12月22日 1区諏訪館跡庭園 第6トレンチにおいて深さ50cmの位置で焼土面と石を検出。第6トレンチの奥に第7トレンチを設定。2区湯殿跡庭園 排水溝調査後、調査終了。
- 12月24日 1区諏訪館跡庭園 第6・7トレンチ写真撮影を行い調査終了。

## 第67次調査 平成元年(1989)

- 9月8日 華合線跡北門前の外濠に1区、外濠北西隅に2区を設定。
- 9月9日 外濠南西隅に3区を設定。表土除去後、炭化面の展開を確認。炭化層は新明焼側から外濠側へ流れ込んでいることを確認。近世以降のゴミを含む。
- 9月11日 2・3区掘削。3区b-b'間断面の北側で河原石を斜めに集めたような状態の石列確認。石列下層は砂利層となり、これを地山と判断。砂利層を切り外濠が掘削されたことと推定。
- 9月12日 1~3区の掘削。2区a-a'間断面を観察。外濠外側の傾斜面は水道管有段で覆蔽。外濠の傾斜面は不明。b-b'間断面北側において、列状に2~3段で埋まっている川原石の石列検出。石列而上までの埋土には室町時代~近世の遺物が混在。
- 9月21日 朝倉跡南門前の外濠に4区を設定。1区と同様、土塁面のa-a'間断面で2段以上の割石積みみの石垣確認。
- 9月25日 4区掘削。表土下から、b-b'間断面の南側で、中の築路調査時に埋没したと考えられる川原石を多く確認。1区掘削。c-c'間断面を濠の外側に1m拡張したところ、口田中氏宅の便所跡らしき壁柱と黄色の粘土層土を検出。
- 9月26日 2区掘削。北側に追加トレンチを設定。表土下50cmで円環と水甕畔の石列確認。夕栗、水野九右衛門氏の遺構。

- 9月27日 1区b-b'間断面の上層石垣を精査。濠の外側(北側)の傾斜面は不明。小野玉敏氏来訪。2区掘削終了。
- 9月28日 丙丁中止。園路の除草作業。
- 9月29日 1区のa-a'間断面の上層石垣を精査。北門直下にかかる箇所は石垣は伏見型。4区のa-a'間断面の上層石垣精査終了。石垣は、1区と同様、巨石を垂直に2段以上積み上げた割石積み。石垣の上層は攪乱で残存せず。裏込め石を確認。
- 10月3日 外濠の傾斜面を確認するため、1区c-c'間断面の北側部分を西に向かって大きく拡張。
- 10月5日 4区のb-b'間断面の外濠外側斜面で劣谷石の石材検出。写真等の記録後、更に下層掘削。朝倉滅亡時期の濃埋土の確認と深の傾斜面の検出を行う。外濠外側で柱礎2本確認。表土下2m付近で傾斜面と埋土の境界確認。
- 10月6日 1区a-a'間断面において外濠外側の傾斜面を確認。文化庁上野孝氏調査官来訪。本日で調査を終了。

## 第100次調査 平成9年(1997)

- 4月1日 発掘調査準備。旧地割を利用し、北からU・V・WのA地区を設定。最終的に武家屋敷A・B・C群にはほぼ相当した。
- 4月11日 調査区北側0~K19~31表土剥ぎ作業。
- 5月6日 ベルトコンベア設置。J-F19~30表土剥ぎ作業。
- 5月7日 0~H24~29の表土剥ぎ完了。
- 5月13日 F25で炭土が混在する包含層から土師部小組が多く出土。
- 5月19日 大地区U・Vの境となるBグリッドまで表土剥ぎ完了。0~G17~20表土剥ぎ作業開始。
- 5月29日 0~G17~20表土剥ぎ完了。
- 5月30日 地形が複雑で、遺構の配列がU・V・W大地区と異なっていることから、北側の57次や東側の31次調査グリッドとは関連しない、任意グリッドを設定。
- 6月2日 20列で東側土垣石垣SA4832を検出。B21で右放遺構SK1527検出。
- 6月9日 25列で耕作土10cm下から遺構面確認。N25で焼石列SK4717、126でSK4892検出。
- 6月13日 調査区北西部で武家屋敷A群の遺構面を検出。北側で確認した土型石垣SA4631は基底石のみが残存。SD4641を伴う。その内側で井戸SK4646や石積土造SF4654・4656、砂利敷遺構SK4716を確認。
- 7月7日 調査区北西部の遺構面検出作業。表土下より炭化粒・焼土層を確認。最上層は削りを受けたと推定。29~31列の遺構精査。上層の土層が破壊された後で検出され、下層の遺構面と判断。
- 7月15日 床土(黄褐色土)を除去後、炭化粒・焼土を含む敷地土を確認。M30で井戸SK4647、130で井戸SF4648、N29で石積遺構SF4655検出。山際寄り側面は上層が覆蔽削平されたことと推定。
- 7月16日 調査区北西部の遺構面検出。切り合いから、028のSF4656~N29の石積遺構SF4655の前後関係、028のSF4656~溝SD4643→北側土垣石垣SA4631の構築

	順が判明。武家屋敷A群には3期の遺構が存在することを確認。床土下の遺構帯で礎石の抜き取り穴や土坑SK4674・4675検出。配平を受けていることが判明。	<b>第106次調査 平成11年(1999)</b>	
7月18日	M27で大室井戸SK4646検出。大室石は抜かれ、礎石混在する覆土が粗雑に充填されていた。H・I25で建物を取り巻く砂利敷通路SK4684検出。	11月2日	調査開始。瓜巻清水の周辺に排水口の防落柵設置、排水口と公有地境界線確定。
7月25日	F-125~30遺構精査。I・I25で溝SK4644検出。覆土は鏝が混在する灰褐色土。E列で東西に延びる南側土塁石坑SA4633確認。	11月4日	表土は約20cmの厚さで、表上下に宅地解体時のゴミが20~30cm前後堆積。調査区南側に近接した消防ポンプ車小屋は、第46次調査の対象地であり、過去に石列、溝、井戸等を検出。
7月28日	G26の土坑SK4689、H28の土坑SK4677、F26の石積遺構SK4695精査。周辺に礎石が展開。	11月5日	表1は砂利を含む黒褐色土。高腐多し。調査区に層位を観察するため、南北にa-a' 間断面、東西にb-b' 間断面を設定。4分割した区画に東西隔から時計回りにA~D区設定。
7月29日	F-125~30遺構精査。25列で砂利敷通路遺構SK4684に付随する溝SK4644検出。	11月9日	A・D区の表土剥ぎ。A・D又D'にて東西方向に延びる道路状の砂利敷SK4877検出。C・D区では近世〜近代の陶磁器出土。C区で十坑SK4873検出。
7月30日	K-025~28遺構精査。床土直下で南北方向の礎石列SK4717検出。SK4717直下約20cmで下層遺構の井戸SF4646、石積遺構SK4690検出。	11月10日	表土下40cmまで掘削して黄色粘質土塊。その下位に近世以降の建物の構造物の断面を確認。
7月31日	M26で石積遺構SF4652確認。	11月11日	A・D区の遺構精査。C・D区で近世の遺構である黄色粘土層精査。礎石建物SK4917は近世〜近代の土坂家の居敷跡と推定。
8月4日	O-G19~22遺構精査。O-M28~31遺構精査を博物館実習生7名が担当。M29の石積遺構SF4656から光形の土師器小皿1点出土。M29で土師器小皿の口縁部を入り込みに重ねた地蔵の痕跡を確認。	12月1日	調査終了
8月6日	東側土塁石坑SA1553・4632検出。N21で第31次調査で確認した石積遺構SF4653再検出。	<b>第109次調査 平成12年(2000)</b>	
8月7日	I9・20列の遺構検出。20列で南北に延びる東側土塁石坑SA1553・4632。I20で門跡SF4698、R21で石敷遺構SK4527確認。	8月18日	発掘調査開始
8月8日	F列の南側土塁石坑SA4633精査。E23の石積遺構SF4693はSA4633を切って構築。	8月22日	西側を区画する十屋石坑SA4932検出。
8月19日	O-B17~19遺構精査。第31次調査との接続部を調査。	9月5日	土塁石坑SA4932検出。
8月20日	武家屋敷A群の東側土塁石坑SA1553・4632の上半分は後生の積み直しと判断。基底石~2段目の石坑は朝倉邸の石垣と判断。土塁石坑の下層で石積遺構SF4662・1474。H・G19で礎石建物SF4640検出。	9月14日	十屋石坑SA4932検出。
8月21日	O-G17~20遺構精査。東側十屋石坑SA4632に接してI~K19で石積遺構SF4658・4659・4660・4661検出。石積遺構SF4669の上層はI3131埋平。	10月24日	重機投入、表土剥ぎ続行。
8月28日	北側土塁石坑SA4631検出。	11月7日	遺構検出。
9月11日	東側土塁石坑4632の内部、F-J21において石垣基礎石検出。2~3段の石垣列確認。	11月13日	井戸SF4956、礎石検出。
9月12日	南側土塁石坑SA4633精査。	11月14日	G・H5・6で炭化樹検出。遺物少量。O8では十師器小皿やサザニの貝殻検出。O7で鉄釘7~8枚出土。
9月18日	武家屋敷A群南側、C-F19~30遺構検出。	11月16日	G・H9~11の礫を除去。溝中に多量の土師器小皿と少量のIIを含む。礫除去後、不定形な土坑SK4967確認。作業員等の履物検出。
10月1日	武家屋敷C群(大地区)の表土剥ぎ開始。	11月20日	G11~13での炭化樹が混在する包合層から土師器小皿が多量に出。白磁、天目、越前焼も含む。上層の遺構面に伴う遺物と判明。
10月9日	武家屋敷C群は遺構・遺物密度希薄。伊勢と推定されるSK4706・4707、井戸SF4650確認。山景の表土中から硬玉製白玉1点発見。	11月24日	土坑SK4967精査。下層遺構面より更に30cm程度掘削。
10月17日	武家屋敷H群、S-T21~27で礎石建物SK4637確認。	11月28日	土坑SK4967精査。B15の4トレンチ付近で石列を検出。礎石ではないが、朝倉館跡南門に関連する可能性を検出。
10月21日	武家屋敷B群、V-I25~27で礎石展開。下層から礎石建物SK4636、道徳館で砂利敷遺構SK4710確認。	11月29日	調査区北東隅精査。遺物僅少。土垣らしき石列検出。朝倉館南門跡に直ぐ直列に並ぶ。I5の井戸SF4955精査。土師器小皿、越前焼検出出土。
10月23日	武家屋敷B群SK4636の北西で土師器小皿多く出土。B群南側に地盤が広く展開。	12月1日	掘削の北隅と想定される調査区北東隅精査。2・3トレンチ設定。明確な遺構は確認できず。
11月7日	武家屋敷B群越前焼大窯を基設したSK4672精査。	12月4日	井戸SF4956、石積遺構SF4962・4963精査。
11月12日	写真撮影終了。	12月5日	朝倉館跡南門にかかる橋の遺構確認のため2~4トレンチ設定。掘削、カワラケ出土。
12月21日	調査終了	12月6日	2トレンチ南側で朝倉館跡南門にかかる橋柱と考えられる柱穴確認。
		12月7日	C-D4で1~2段の石垣検出。
		12月12日	SK4967で十師器小皿が大量に出土。その他貝殻、瀬戸・美濃天目茶碗、越前焼鉢等出土。
		12月20日	器材洗浄、整理作業して調査終了

### Ⅲ. 第60次調査【1区諏訪館跡庭園導水路、2区湯殿跡庭園導水路】

朝倉館跡の南方には、一乗城山の小扇状地及び牛堀を削った河岸段丘が発達して広がり、今回報告する第60次調査の諏訪館跡庭園、湯殿跡庭園の他、標高を同じくして第4・13次調査の中の御殿跡などが蛇谷地区に近在する。後述する第109次調査の屋敷跡も朝倉館跡南東に位置し、中の御殿跡の西側直下に立地しており、遺構群を検討する上で各調査区が一定のまとまりを見せている(第3㉙)。

ここで一乗谷朝倉氏遺跡の調査の軌跡を振り返ると、福井県のみならず、国の歴史を語る重要な文化財として、公的に朝倉館跡と庭園の価値が認識されたのは、昭和5年(1930)7月8日朝倉館跡、湯殿跡、諏訪館跡、南陽寺跡を含む1.4haが国の史跡と名勝に指定されたことを嚆矢とする。

昭和42年(1967)、文化財保護委員会の黒坂昌夫、吉川善、牛川喜幸の3氏と足羽町長、同町教育長、同町文化財保護委員が「朝倉氏遺跡整備事業委員会」を結成し、同年8月、同庫補助の措置を受けて、旧足羽町から依頼を受けた旧奈良国立文化財研究所が実施した、湯殿跡、諏訪館跡、南陽寺跡の3庭園を対象にした調査をもって本格的な発掘調査のはじまりとなった(文1)。

昭和43年(1968)には、朝倉館跡東南部を調査して庭園、花壇を発見し、我が国初の戦国大名居館調査として注目され、整備の中で露出展示を導入したことは日本の史跡整備の手本となった。同44年(1969)には、朝倉館跡東北部を調査して会所(常御殿)、台所、風呂を発見した(文2)。昭和45年(1970)からは調査主体が福井県となって足利義昭を迎えた伝承をもつ御所・安養寺を調査した。遺跡の保護と開発で揺籃期はあったものの、地元理解を得て、昭和46年(1971)7月29日に西川光照寺を含めた278haが国の特別史跡になり、名称も「一乗谷朝倉氏遺跡」となった。同年に朝倉館跡土塁の調査を実施し、これを果が上体となって着手した第1～3次調査(文1)と位置づけ、以降、環境整備事業と並行して取り組んできた経緯がある。

第60次調査(文3)は、国の特別名勝に指定されている諏訪館跡庭園と湯殿跡庭園の導水路を検出することを目的として実施し、ここでは便宜上、諏訪館跡庭園を1区、湯殿跡庭園を2区として報告する(第3㉚)。両庭園にとって57年ぶりの発掘調査になり、調査期間は、昭和62年(1987)12月8日から12月24日を要した。

#### 1. 1区の遺構(Ⅲ-1-2 第3～5㉚)

1区(諏訪館跡)は、城戸ノ内町字上蛇谷に位置し、朝倉館跡から南へ約200m隔てた山林中腹に立地する(第3㉚)。一乗谷朝倉氏遺跡の中で最も大きな規模を誇る庭園であり、標高は67～69m、比高約9mを測る。諏訪館跡は、5代朝倉義景の夫人である小少将の館跡と伝えられ、昭和42年度(1967)に庭園に主眼をおいた調査によって、上段・下段からなる庭園であることが明らかになった。

調査の結果から、庭園上段の底石を敷いた泉状の石組から溢れた水が、長径14～40cm大の平石を敷き詰めた曲水部を伝い、滝石組から下段の庭園に流れる構造を採用した整備が実施された。下段は汀の出入りが変化に富む凹池となり、暖岸石は上面が平坦で丸みを帯びた巨岩を据えていた。

滝石組右方の礎石は高さ4mを測り、右に朝倉館跡庭園の滝副石の2倍の規模を有していた。北側の池尻には石橋が掛けられ、排水路との境になっていた(文2)。

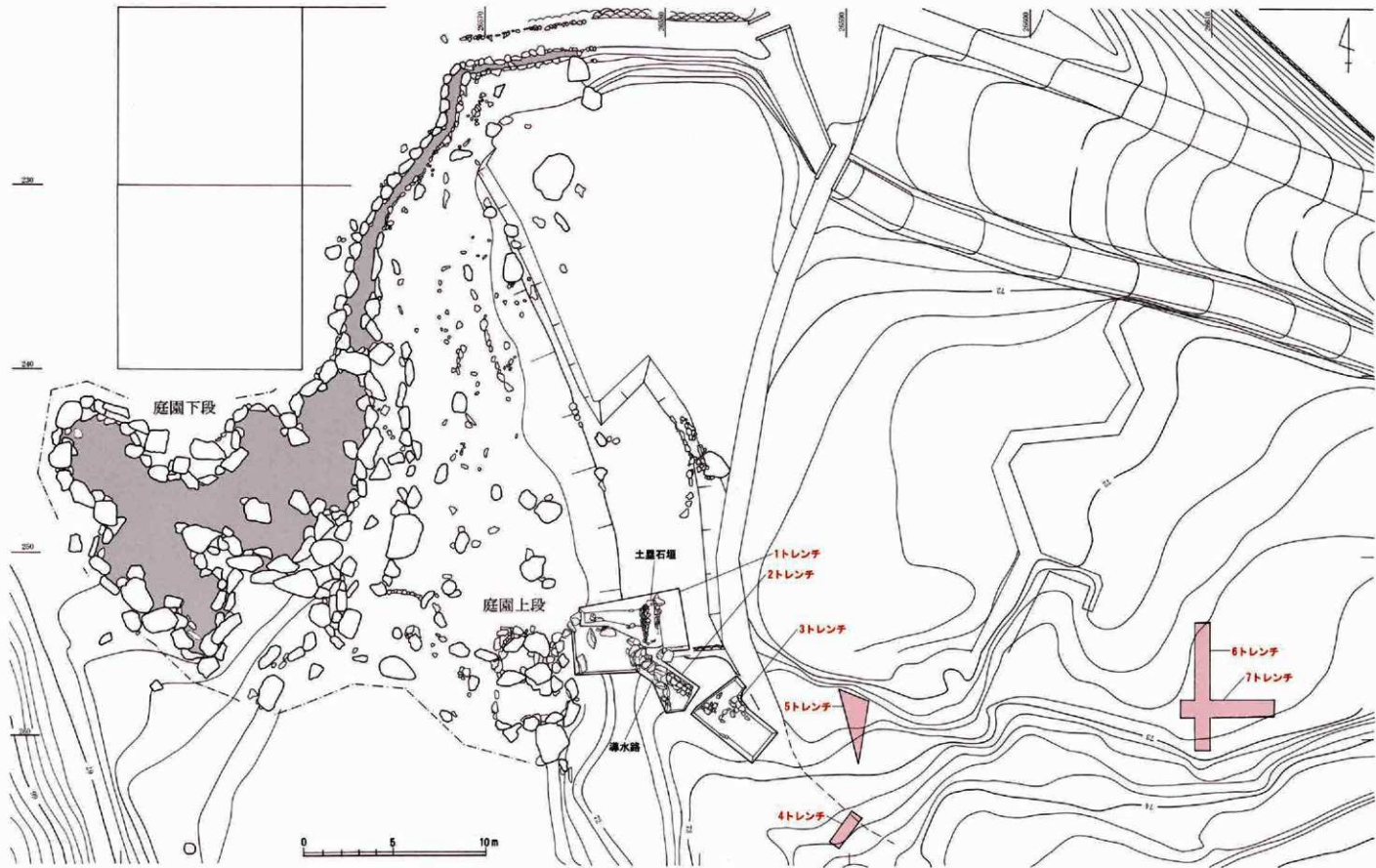
今回の調査では、谷川から庭園に給水するための導水路を検出することを目的とし、上段の奥まった頂にある滝石組付近から谷川までの間に1～7のトレンチを設定して状況を観察した(第4㉚)。

その結果、導水路は、滝口付近から2.0m分は削平されていたが、さらに山側に設定した1・2トレンチにおいて、内寸幅約0.3m、内寸高0.2m、内寸長6.0m規模の石組の溝を検出した(第5㉚)。

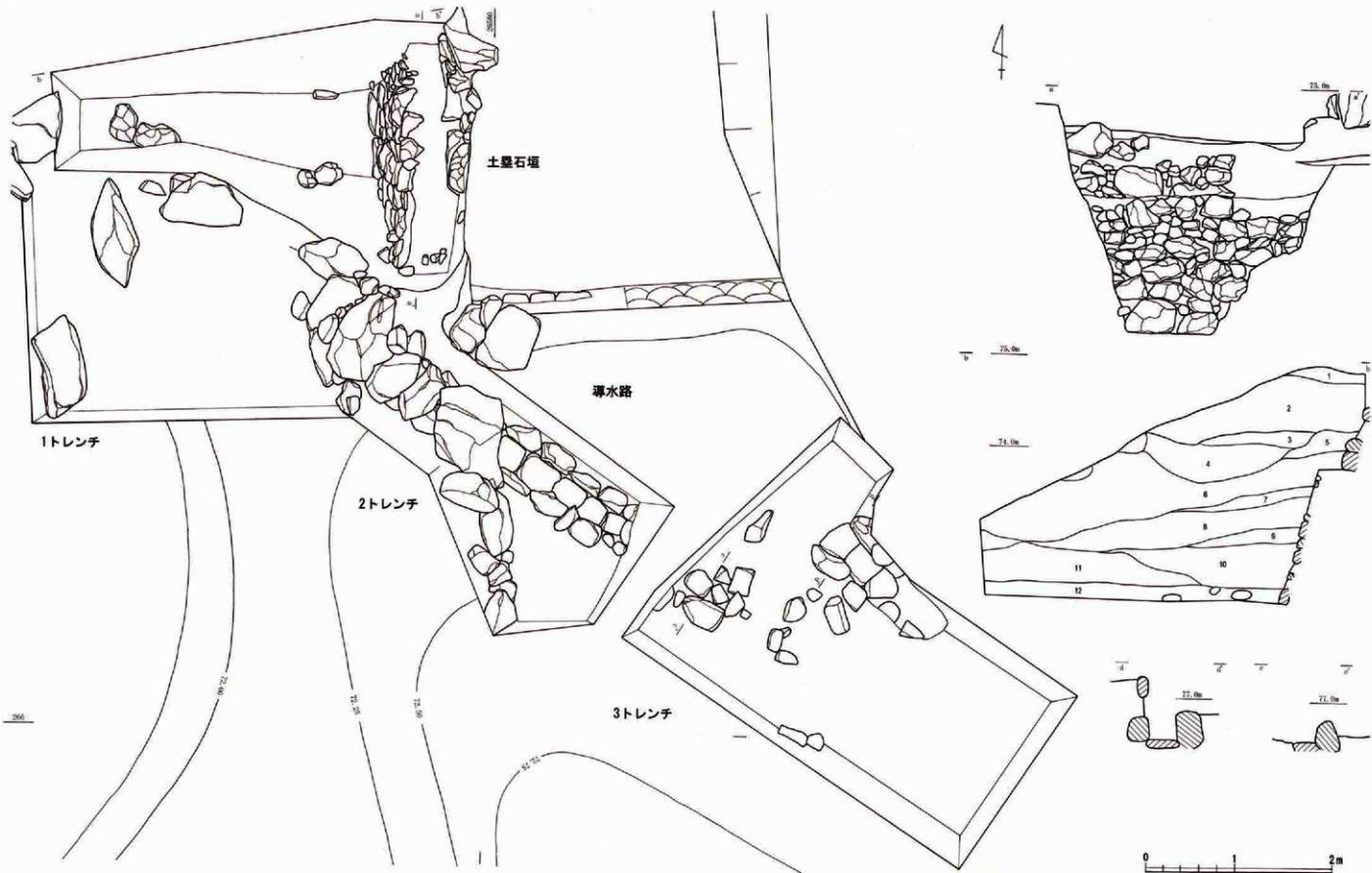




第3図 第60次調査1・2区位置図(縮尺1/1,000)



第4図 第60次調査1区諏訪館跡庭園図(縮尺1/200)



第5図 第60次調査1区排水路遺構図(縮尺1/40)

溝の底面には20～40cm大の平石が一列に敷かれており、滝口側から2.8mの範囲は暗渠構造となっており、60～100cm大の面長の石を蓋石として横間に架けた礫石を5つ検出した。

石組の溝は庭園への導水路と考えられ、N56°W方向に向き、勾配は、約20度38分と急な傾斜角で据えられていた。蓋石がない部分は厚さ約0.6mの山土で埋められていた。これは、庭園の石橋を通り、上蛇谷へ登る山道として利用された時に整地されたことが原因と考える。

3トレンチでは導水路の続きが若干検出されたが、大部分が消失していた。北側で同規模の別の石組の溝を検出したが、導水路より後世に構築されたものとする。導水路からさらに山側に4～7トレンチを設定した。第5トレンチで畑地の石垣、第6トレンチで深さ50cmの位置で焼土面と石を検出したが、導水路に関連する遺構は確認できなかった。

1トレンチ北側において暗渠構造の導水路の下層を調査すると、2段階みの階段状の土塁石垣を検出した。上塁石垣の基底石はN0°方向に延び、上段庭園滝口より約0.6m深く据えられ、基底面は固く締まった砂利層であった。

土塁石垣1段目の高さは1.45m、2段目は0.7mを測り、主に30～50cm大の礫石を用いて、野面積みの工法でほぼ垂直に構築していた。2段目は0.25m程奥まって構築され、この上塁石垣を覆って導水路を構築していることが明らかになった(第5図)。

諏訪館は、本来、土塁石垣を巡らせた館であったが、その後、庭園を作庭する際に上塁石垣を完全に埋め、築山の中を暗渠で導水したと判断した。

## 2. 1区の遺物(PL2) 第6図 第1表)

1区の遺物は、陶磁器類として越前焼鉢・甕・鉢、土師器小皿、青磁碗・皿が出土し、石製品として石盤、バンドコ、砥石が出土した。

**越前焼** 1～5は摺鉢片である。1～3は、1トレンチ導水路下層の土塁石垣基底部から出土し、4・5は2トレンチ導水路暗渠の上から出土した。6～9は越前焼の大甕片であり、6・8は6トレンチで出土し、7・9は2区導水路暗渠の上から出土した。10は底が深い半球形の鉢であり、手水鉢と考える。口径26.4cm、高さ12.0cmを測る。1区土塁石垣基底部から出土した。

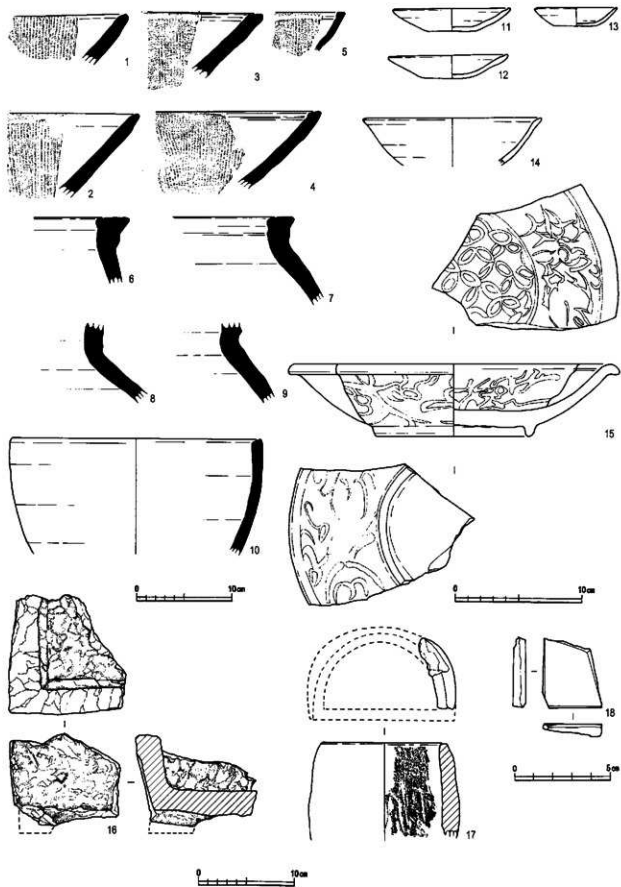
**土師器小皿** 11～13は1トレンチ土塁石垣基底部から出土した。11・12は口径9.2～9.5cm、器高1.8～1.9cm、底径3.5～3.7cmを測る。底部は平底である。13は口径6.4cm、器高1.5cm、底径3.2cmの小皿型であり、口縁部にスス附着する。

**青磁** 14は青磁碗であり、6トレンチから出土した。口径14.0cmを測る。口端部はやや外方へ屈曲して口唇部は丸く収める。15は青磁皿であり、1トレンチ上塁石垣基底部から出土した。口径26.0cm、器高5.7cm、底径12.2cmを測る。口縁部はやや内湾して外方に立ち上がる。口端部は外方下へ屈曲し、口唇部は丸く収める。内外面に精緻な陰刻花文が施された優品である。

**石盤** 16は平面が方形を呈す石盤である。笏谷石製。1トレンチ土塁石垣基底部から出土した。厚さは3.3cmを測る。内面はタタキで調整し、底部に方形の脚部を有す。内面および断面は被熱してススが附着している。

**バンドコ** 17は平面形がD形を呈すと推定。笏谷石製。5トレンチから出土した。外面は平滑で内面にタタキ度が残る。全体が被熱している。

**砥石** 18は薄い板状を呈す。赤茶色の凝灰岩製。6トレンチから出土した。表裏面、左側面、下端面に砥面が残る。



第6図 第60次調査1区出土遺物(縮尺1/3、1/4)

第1表 第60次調査出土遺物観察表(PL.21第6図)

陶磁器類(PL.21 第6図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
1	罐前焼 楕鉢	焼: 良好 色: 灰褐色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口縁部 内側に地面をもつ/口唇部は丸く収める	外:ナデ 内:ナデ 内面に幅2.9cm・9条の節目	1トレンチ土層台地下
2	罐前焼 楕鉢	焼: 良好 色: コグ茶色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口縁部 内側に地面をもつ/口唇部外側はやや 深く凹む/口唇部は丸く収める	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 内面に幅3.0cm・8条の節目	1トレンチ土層石域下
3	罐前焼 楕鉢	焼: 良好 色: 淡茶色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口唇部 は深く凹む/口唇部外側はやや深く凹 む	外:強いヨコナデ 内:ヨコナデ 内面に幅2.5cm・9条の節目	1トレンチ土層石域下
4	罐前焼 楕鉢	焼: 良好 色: 淡橙褐色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:ゆるやかに内湾して外方へ開 く/口唇部は平坦/口唇部内側はシヤ ーブな波をもつ	外:ヨコナデ 内:ナデ 内面に幅3.4cm・13条の節目	2トレンチ土層階上
5	罐前焼 楕鉢	焼: 良好 色: 淡茶色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:半位でゆるやかに進退して外 方へ開く/口唇部は平坦/口唇部内側 は凹状の残をもつ	外:ヨコナデ 内:ナデ 内面に幅2.5cm・8条の節目	2トレンチ土層階上
6	罐前焼 突	焼: 良好 須恵質 色: 淡灰色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:内傾して立ち上がる/口唇部 は平坦/口唇部外端・内縁は突出し、 直下に条線をもつ	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	6トレンチ
7	罐前焼 突	焼: 良好 色: 淡灰色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:内傾して立ち上がる/口唇部 は平坦/口唇部外端は突出し、直下に 浅い凹面をもつ/口唇部内側に強い凹 線をもつ	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	2トレンチ土層階上
8	罐前焼 突	焼: 良好 色: 弱赤茶色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:内傾して立ち上がる/口唇部 欠損しているが口唇部外端は突出し、 直下に浅い凹面をもつ	外:ヨコナデ 内:頸割ナデ、ヘリナデ	6トレンチ 外側に自然熱
9	罐前焼 突	焼: 良好 色: 灰白色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口唇部:内傾して立ち上がる/口唇部 欠損しているが口唇部外端は突出し、 直下に浅い凹面をもつ	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	2トレンチ土層階上 外側に自然熱
10	罐前焼 鉢	口: 26.6 高: 12.0 底: 良好 色: 赤褐色	微砂粒 白色粒子 数粒 1/10以下	口縁部:内湾して立ち上がる/口唇部 は平坦	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	1トレンチ土層石域下 断面粗い
11	土師器 小皿	口: 9.2 高: 1.8 底: 3.7 底: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	1トレンチ土層石域下 口唇部ス付着
12	土師器 小皿	口: 9.5 高: 1.9 底: 3.5 底: 良好 色: 淡橙褐色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ/体部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	1トレンチ土層石域下 底部割離
13	土師器 小皿	口: 6.4 高: 1.5 底: 3.2 底: 良好 色: 淡橙褐色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	1トレンチ土層石域下 口唇部ス付着
14	青磁 壺	口: 14.0 高: 4.0 焼: 良好 色: 透灰緑色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は外方へやや屈曲する/口 唇部は丸く収める 底部:平底		6トレンチ
15	青磁 壺	口: 20.0 高: 5.7 底: 12.2 底: 良好 色: 透灰緑色	精緻 1/5	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は外方へ屈曲する/口唇 部は丸く収める 底部:高台断面は丸く収める/断面六 角で接地 内外面に捺刷花文		1トレンチ土層石域下 底部:外面輪ハダ 捺刷花文

石製品(PL.21 第6図)

単位:cm

No	器種	法量(最大値)				残存	石材 色調 材質	調整・特徴	備 考	出土地点
		長	幅	高	厚					
15	石盤	12.7	12.3	9.6	3.3	1/10	筋状石 淡緑灰色 軟質	内面:タタキ 底面に1脚の方形脚部あり	内面および背面換熱・ スス付着	1トレンチ上層石垣下
17	バンドコ	13.0	(9.6)	10.2	1.8	1/10	筋状石 淡緑灰色 軟質	外面:平滑 内面:タタキ	上面の型 全体痕跡	5トレンチ
18	底石	3.5	3.5		0.6	1/2	凝灰岩 赤灰色 硬質	東西・表裏面、右側面、下 端面		6トレンチ

### 3. 2 区の遺構(PL.3・4 第7～9図)

2 区の湯殿跡庭園は、城戸ノ内町字水谷に位置し、朝倉館跡から南東へ40m 隔てた山林中腹に立地する(第3図)。一乗谷朝倉氏遺跡の中で最も古い庭園と考えられ、標高は63～66m、比高約12mを測る。湯殿跡は朝倉館全体を囲む外濠の内側に含まれ、朝倉館を南東から俯瞰する高台にある。

昭和42年度の旧奈良国立文化財研究所が実施した調査では、諏訪館跡庭園と同様な池泉回遊式庭園であると推定された。

「湯殿跡」の呼称は「湯殿風呂屋布ノ跡に泉水の跡、庭石等があった」という江戸時代の記録『越前拾遺録』に由来する。庭園の東側には傾斜30°の急傾斜面をもつ「観音山」が位置し、庭園東側の平場は大きく削平を受けているが、庭園を鑑賞できる建物が存在した可能性が指摘されている。

『朝倉始末記』に「東樓」という記録があり、朝倉館跡南東の高台にある湯殿跡もしくは観音山に比定して、俯瞰の景色を眺望していたという推測もできる。

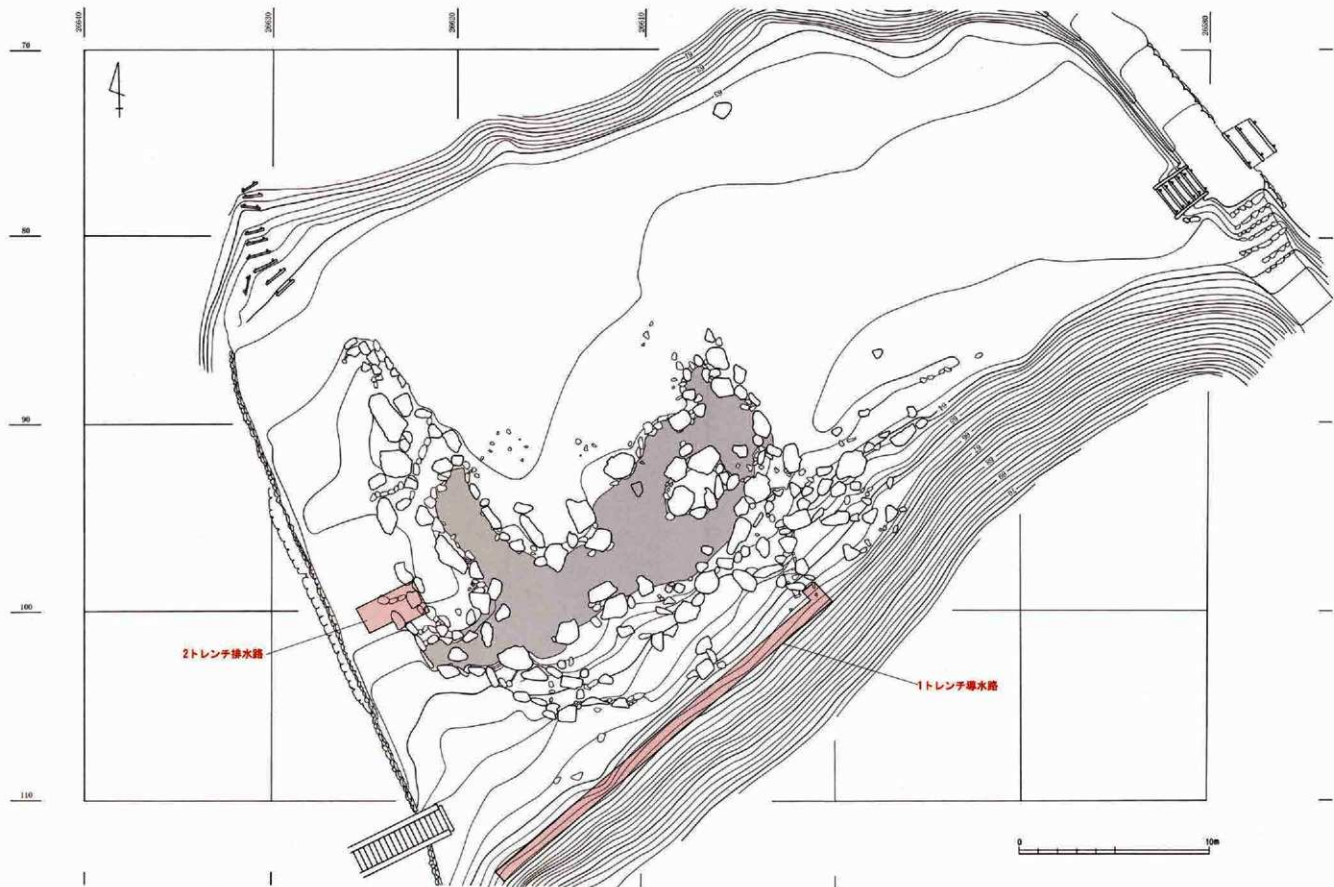
昭和42年度の調査の結果、標高66mに位置する東の滝石組から流れた水は、汀線が複雑に入り組んだ園池に落差約1.0mをもって注がれ、滝石組がある北側から中島の脇を流れた後、南西側の池尻から排水されたと推定された。また、『作庭記』(文4)に記述される、3石を各々仏身に見立てた三尊石組も確認され、石組は横一直線に配置され、山の字形を呈し、中央の本尊石には長大な石を用いていたようである。庭石の一部は、戦後、西南側に忠魂碑が建てられた際に改変を受けた可能性も指摘された。

今回の調査も諏訪館跡と同じく、57年ぶりの発掘調査となり、諏訪館跡と並行して調査を実施した。調査期間は、昭和62年(1987)12月8日から12月21日を要した。調査は、庭園の導水路および排水路を確認することを目的として、庭園内に2箇所のトレンチを設定した(第7図)。

1 トレンチは、庭園導水路を確認するため、標高66mに位置する滝石組から山裾に沿って、南西方向に直線状に設定し、長さ23m、幅0.8mの範囲を掘削した。2 トレンチは庭園排水路を確認するため、標高63.5mに位置する庭園南西側の鉤状に伸びた汀線の先端に設定し、長さ2.5m、幅1.5mの範囲を掘削した。

調査の結果、想定どおり、1 トレンチにおいては導水路が23m分ほぼ良好な状態を保って検出された(第8図)。導水路は自然石を用いた開渠であり、側石と底石を組み合わせ、断面はコの字を呈し、方位はN50°Eに向けていた。導水路の勾配は北へ1度13分傾斜し、水は滝口近くに至ると、遣水のようなせせらぎとなって流れていたと考える。

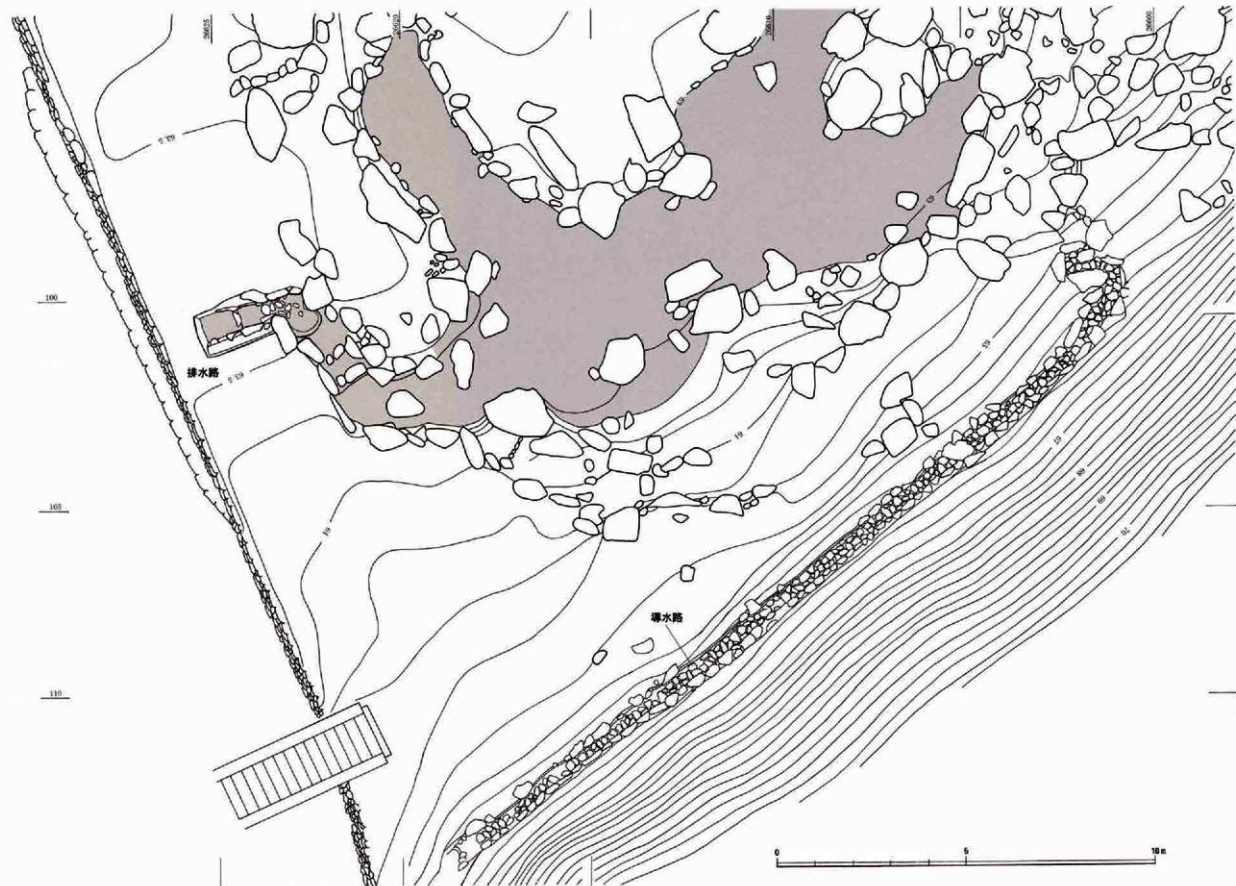
全体を観察すると、北東側の滝石組に接続する導水路屈曲部は、内寸幅0.5m、内寸高0.4mを測り、0.7～1.0m大の石をコの字に組み、15～20cm大の平坦な石を底面に3列敷き詰めていた(第9図)。屈曲部からa-a'までの6.5mの範囲は、内寸幅0.2～0.3m、内寸高0.2mを測り、30～90cm大の大型の石を側石に多用し、



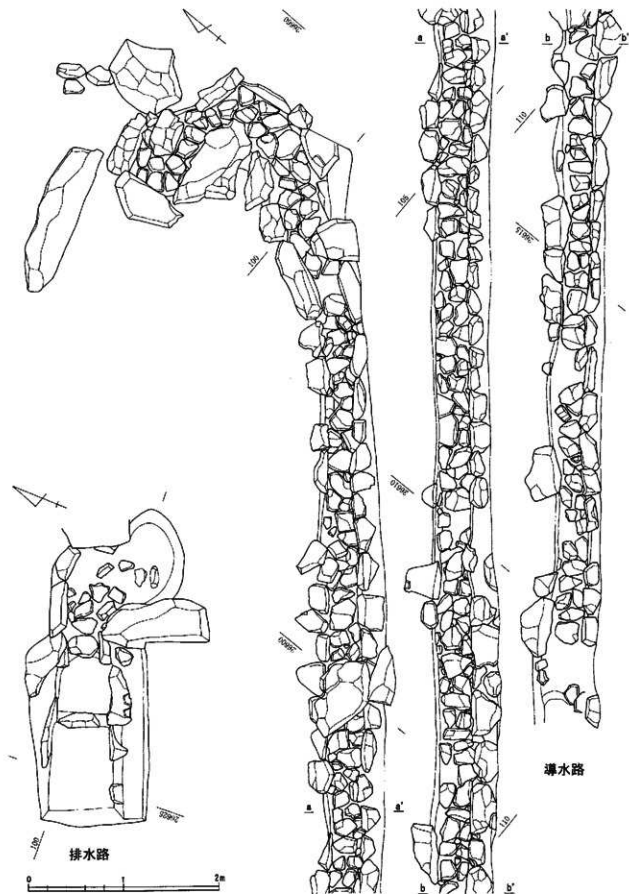
第7図 第60次調査2区湯殿精進園図(縮尺1/200)



4



第8圖 第60次調査2区遺構全体図(縮尺 1/100)



第9図 第60次調査2区排水路・湧水路遺構図(縮尺1/40)

底面には15～20cm大の石を1・2列敷き詰めていた。a a' 手前1.0mのところでは90cm大の平坦な大石が側石に架けられており、通路のような踏石として据えられたと考える。

a-a' から5.0m進んだ範囲は、内寸幅0.1～0.3m、内寸高0.15mを測り、15～30cm大の小型の石を側石に用い、10～20cm大の底石を丁寧に敷き詰めていた。b-b' 前後3.0mの範囲において再び大型の石を側石に使用するが、以降の南西側は、庭側側の側石の抜きとりが著しい状態になっていた。導水路は空濠近くになると、削平を受けており、観音山の内堀を巡って導水路が延びていたか確認できなかった。

2 トレンチにおいては排水路を3.0m分検出することができた(第81頁)。排水路は、標高63.5mに位置し、鉤状に北西側に延びた汀線からN110°Wに方向をとり、空濠に向けてほぼ直角に構築されていた。自然石を用いた開渠であり、側石と底石を組み合わせ、断面はコ字を呈していた。

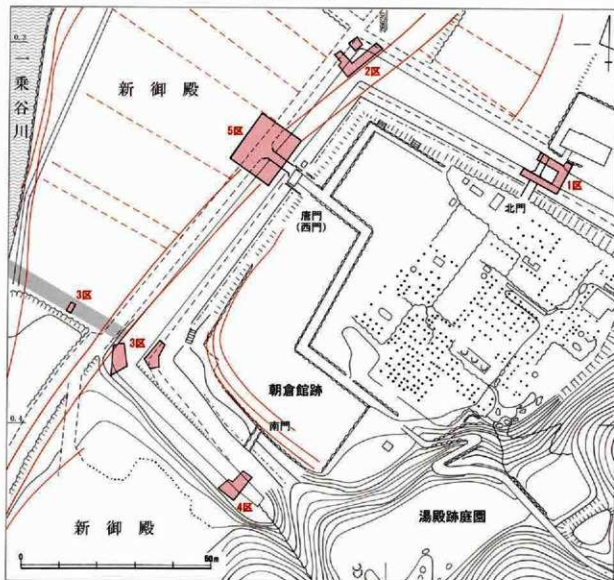
汀線左岸先端に据えた1.1m大の石を基点にすると、内寸幅0.3m、内寸高0.4mを測り、30～70cm大の石を側石に用い、10～20cm大の底石を敷き詰めていた(第9頁)。空濠の近くでは削平を受け、排水路の先端は確認できなかった。

#### IV. 第67次調査【朝倉館跡外濠 1～5区】

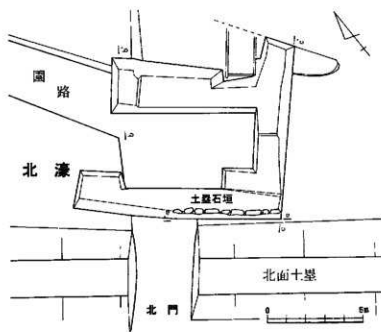
##### 1. 朝倉館跡外濠(PL.5 第3・10図)

第67次調査は朝倉館跡外濠を対象とした。朝倉館跡は、城戸ノ内町字新御殿に位置し、土塁を含む館内の地番は城戸ノ内町22番8号となる。東側を一乗城山、西側を一乗谷川に挟まれた標高51～52mを測る河岸段丘上に立地している。

館跡の東は、山を削った崖面となり、南・北・西の三方は、幅7.0m、高さ2.0mの土塁に囲まれている。外濠は土塁の周囲だけでなく、山の斜面にまで空濠として延び、湯殿跡と中の御殿の間を通り、観音山の背後を北に進んで南陽寺跡の東南隅に達している。そして、山の斜面を西方に下って北濠に続いて、館跡を台形に一巡していることが地形図からも読み取れる。土塁の長さは西面土塁が約90m、北面土塁も約90mを測り、昭和46年度(1971)の第1～3次の調査によって、西面土塁の唐門(旧松雲院の門)が西門の位置とほぼ重複する可能性が指摘され、埋没していた北門SB55、南門SB56の存在が明らかになった『朝倉亭御成記』では御門、裏御門、中門と記載。『朝倉始末記』では西ノ門、北ノ門、中門と記載。



第10図 第67次調査朝倉館跡外濠1～5区位置図(縮尺 1/1,000)

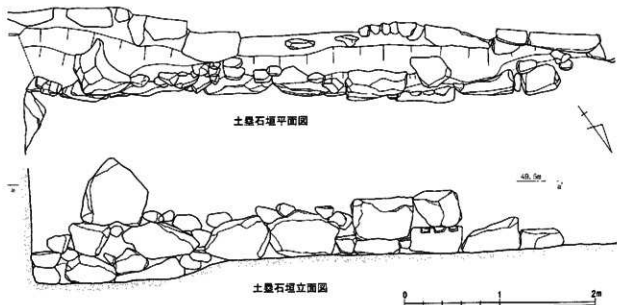


第11図 館跡外濠1区平面図(縮尺1/200)

## 2. 館跡外濠1区(PL.5 第10~13図)

1区は朝倉館跡北門前の北濠に設定した(第10図)。全体の地形を概観すると、北門の北側には宅地が存在し、地籍図でもこの部分は全体の濠幅より狭くなっていた。

1区の北西側は第9次の調査区と近接し、当時の調査結果から、北側土壘側に石組の暗渠S386が検出され、外濠は牽掘りの箱型式で、規模は上幅8.5m、底幅3.6mを測り、深さは現地表から3.4m、土壘上部から6.4mを測る規模を有していたことが判明した。また上壘石垣の基底は濠底には達していなく、濠底から1.0mまでは地山を露出させ、その上に石垣を積んでいたことが明らかになった。ただ、土壘石垣の対岸にも1ヶ所石垣が存在し、それらは濠底から石を積み上げていた。



第12図 館跡外濠1区土壘石垣(縮尺1/40)

館跡の遺構は、永正9年(1512)に4代城主となった孝景が新造した居館を、天文12年(1543)頃、5代義景が引き継ぎ、水禄10年(1567)足利義秋越前下向に際し、翌11年(1568)に再整備したものと考えられている。

今回の調査は、朝倉館跡の外濠に関連する調査として、昭和48年(1973)の第9次調査(文6)以来、16年ぶりとなった。

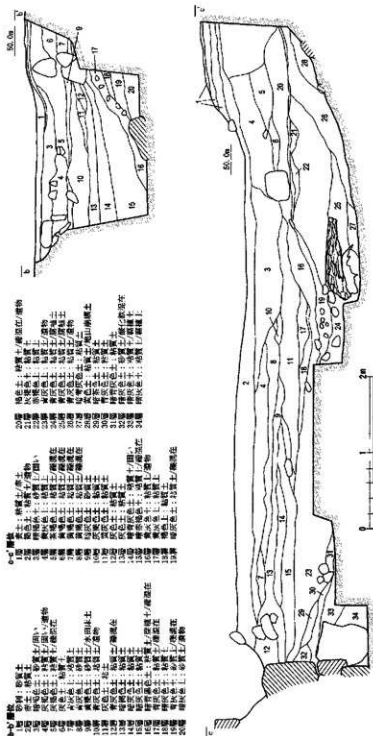
調査方法は、水田跡となっている外濠に1~5区の調査区を設定し、合計330㎡の面積を調査した(第10図)。調査期間は1~4区が平成元年(1989)9月8日~同年10月7日、5区が平成2年(1990)1月10日~同年1月11日である。

濠底には第Ⅲ層の暗灰褐色粘質土、第Ⅳ層の褐色礫混在土、第Ⅴ層黒灰褐色粉殻混在土、第Ⅵ層灰褐色砂利混在土が2.0mの厚さで堆積しており、櫛・将棋の駒・曲物・墨書木製品・人形・玩具・下駄といった木製品が500点以上、さらに種子や貝殻、香道具の雲母も加わり、戦国期の生活を解明する一級の資料が出土した。

今回の調査では、a-a' 間断面(第11図)で北門に関連する土壘石垣を検出した。土壘石垣は全長5.8mを測り、標高48.5m付近の確認面から、2段以上の石積みを確認した。

土壘石垣(第12図)には50~80cm大の自然石を主に用いており、矢欠が残る石材も一部検出された。ただし、調査は石垣の有無に重点をおいていたため、基底石の検出までは行わなかった。よって、石積は2段以上存在している可能性が高い。b-b' 間断面(第13図)では北濠外側の右垣は確認できなかった。

c-c' 間断面(第13図)は北濠の断面を確認するために設定した。15層は暗赤褐色の酸化鉄と礫を多く含んだ層であり、この層より上層は水田耕作土等の堆積と観察され、15層より下層が朝倉氏滅亡時までの地積層と考えられる。北側から流れ込む23層の青灰色上からは土師器小皿が多く出土した。

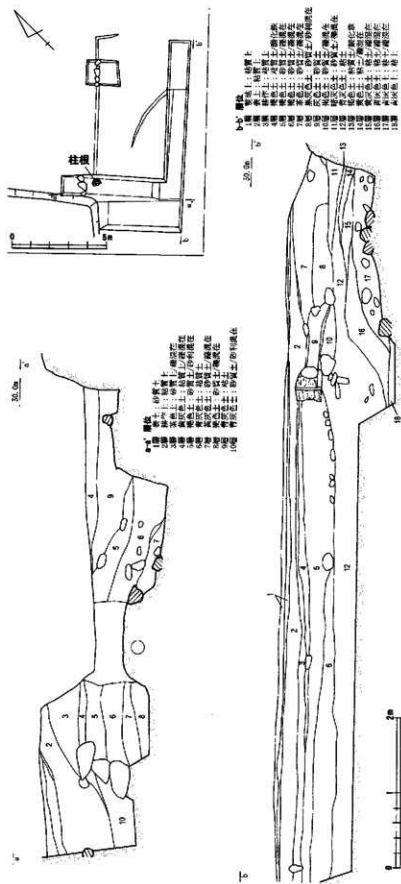


第13図 館跡外壕1区断面図(縮尺 1/50)

### 3. 館跡外壕2区(図6 第10・14図)

2区は朝倉館跡外壕北西隅に設定した(第10図)。全体の地形を概観すると、調査当時は西濠の外側に沿って旧県道が通り、唐門付近から西濠北東隅の部分は旧県道と重複していた。周辺の標高は約49.5mを測る。

今回の調査では、1.字状にトレンチを設定し(第14図)、a-a' 間断面で西濠外側の岸、b-b' 間断面で北濠外側の岸を確認することを目的とした。



第14図 館跡外濠2区平面図・断面図(縮尺1/50、1/100)

調査の結果、a-a' 間断面では、中央付近で表土下1.2mの深度で水道管が検出され、西濠外側の位置でII水田畦畔の石垣が3段検出された。石垣と水道管の間には、表土下1.4mで柱根が検出されたが、柱穴の断面は確認できなかった。石垣から土塁にかけて表土下1.4mまで掘削したが、堆積土は西側からの流れ込みで占められ、西濠外側の岸を検出することはできなかった。

b-b' 間断面では、表土下1.4mまで掘削した。1~4層までは旧道と旧水田の堆積層であった。7・8層は旧道に沿った溝であり、笏谷石を溝石としていた。濠内には5・6・12・16層に見られるような礫石が混在する褐色上、青灰色上が堆積していた。北濠外側の岸は確認できなかった。これらの層の下層は、a-a' 間の7・8層に見られる黄灰色土、褐色土の砂礫層と考える。なお、追加で設定した北西のトレンチでは、旧道、西濠外側の岸の一部を平面で確認した。

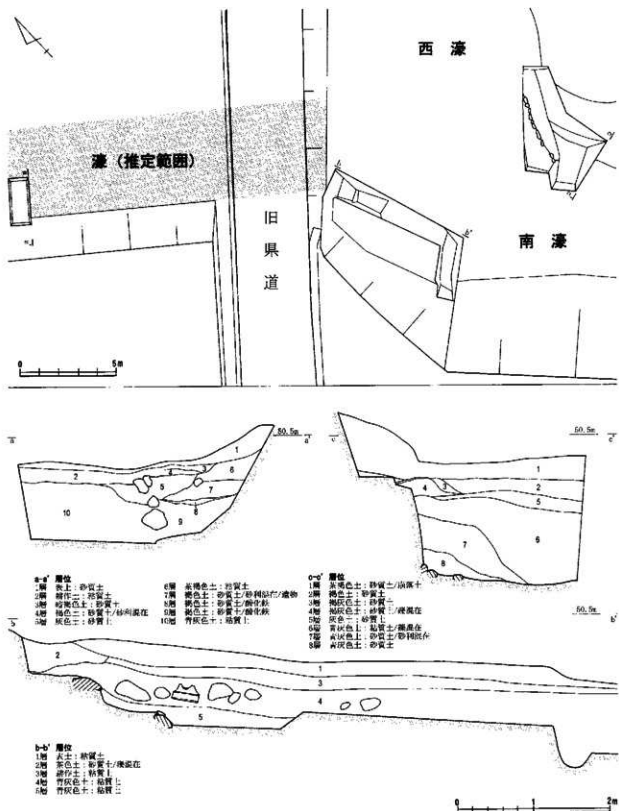
#### 4. 館跡外濠3区(凡.6 第15区)

3区は朝倉館跡外濠南西隅に設定した(第10図)。旧地形を概観すると、調査当時は西濠のすぐ外側に沿って旧泉道が通っていた。標高は約49.8mを測る。

今回の調査では、濠外に1ヶ所、濠内に2ヶ所のトレンチを設定した(第15図)。

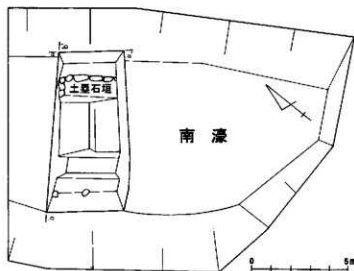
a-a' 間断面は、西濠から西に向かう、幅約5.0mの濠が工事中に見えられ、急遽設定し、濠の堆

積土である10層を確認した。b-b' 断面面は西から約1.0mの位置で4層が東に落ち込むことを確認した。5層は地山となる。4層から五輪塔の火輪が出土した。c-c' 断面面は十畳堀に設定し、表土下約1.6mまで掘削した。堆積土は土塁の崩落土であり、本来の土塁裾の検出はできなかった。



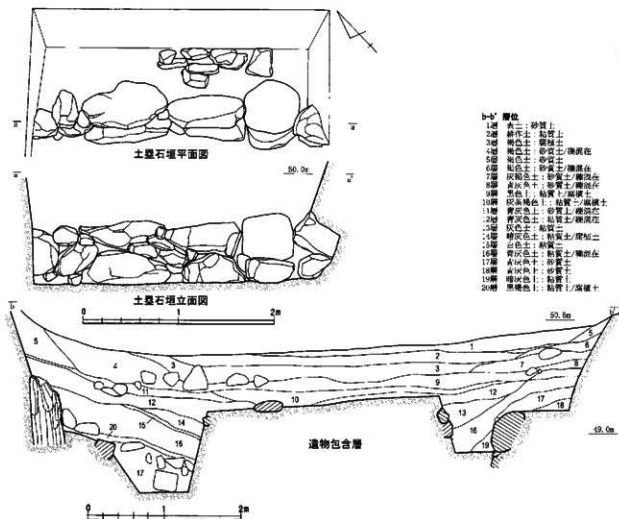
第15図 館跡外濠3区平面図・断面図(縮尺1/50、1/200)





第16図 館跡外濠4区平面図(縮尺1/200)

16層は両岸で確認され、13~16層で越前焼、上師器小皿、中国製陶磁器、漆器碗等が少量含まれていた。南濠外側の表土1.8mで確認した20層の黒褐色土は腐植土であり、朝倉氏の時代の堆積土と考えた。



第17図 館跡外濠4区十塁石垣・断面図(縮尺1/40、1/50)

## 5. 館跡外濠4区(Pl.6 第10・16・17区)

4区は朝倉館跡南門前の南濠に設定した(第10・16区)。周辺の標高は約50.5mを測る。調査の結果、a-a' 間断面で、南門に関連する十塁石垣を検出した(第17区)。土塁石垣は全長4.0mを測り、標高48.8m付近の確認面から、2段以上の石積みを確認した。土塁石垣(瓦割)には50~80cm大の自然石を主に用い、20cm大の石を裏込にして、野面積みで垂直に積んでいた。

b-b' 間断面(同図)では、層位は2つに大別され、3・9層の腐植土以上の層と、下層の12~17層に分かれた。

南濠外側の17層では笏谷石の切石が2点検出され、一つは123cm×31cm×20cmを測る構造材で、ホゾを有し、一つは86cm×37cm×20cmを測り、欠損していた。

表上下1.4mの深さからは、さらに、館跡南門に架かる対岸の橋柱と推定される柱根が2本検出された。柱は径40cmを測り、柱芯間距離は1.8mを測った。

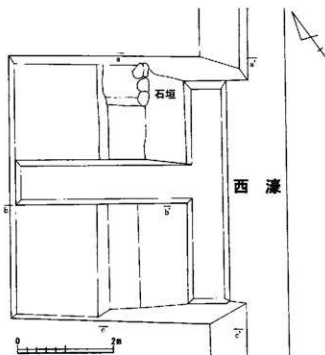
### 6. 館跡外濠5区(PL.6 第18・19図)

5区は初倉館跡南門前の西濠外側に設定した(第10・18図)。周辺の標高は、約49.7mを測る。西濠外側の状況を東西で確認できる断面を3ヶ所精査した。

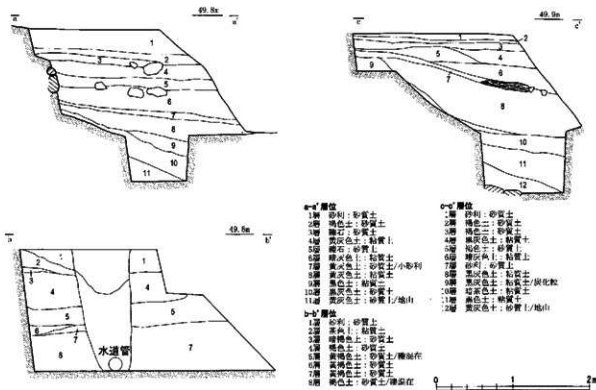
調査の結果、a-a' 間断面(第19図)で、西側から西濠外側の石垣の一部が検出され、11層の地山である黄灰色土上面を岸と判断した。

b-b' 間断面(同図)では、4・5層の水平堆積をした褐色土・黄褐色土の砂質土は客土と考えられ、濠内の堆積土ではなかった。断面中央は表土下1.5mまでおよぶ水道管布設の攪乱を受けていた。

c-c' 間断面(同図)では、最下層の12層がa-a' 間断面の11層に相当する地山と考えられ、西濠外濠の岸の一部を検出することができた。また、西門前の底面で、門幅に対応する橋の石列らしき遺構も確認した(PL.6)。



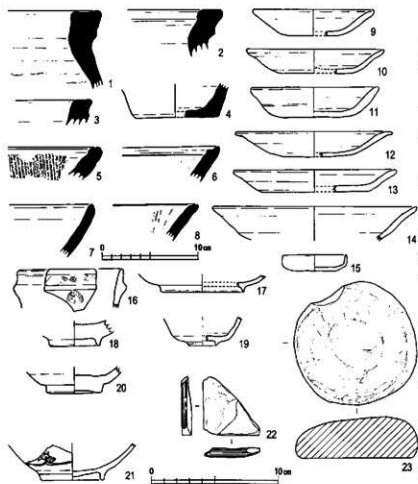
第18図 館跡外濠5区平面図(縮尺1/80)



第19図 館跡外濠5区断面図(縮尺1/50)

## 7. 遺物 (Pl. 21・22 第20～22図 第2・3表)

第67次調査の遺物は、陶磁器類は天箱3箱分の量にとどまる。越前焼壺・壺・鉢、土師器小皿、青磁花入、白磁碗・皿、鉄軸天日碗、染付碗が出土し、石製品として石硯、不明石製品が出土した。全体的に3区出土のものが多く、ここでは特徴的なものについて述べる。



第20図 第67次調査出土陶磁器類、石製品(縮尺1/3、1/4)

第2表 第67次調査出土遺物観察表(Pl. 21 第20図)

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	単位:cm	
						出土地点 備考	
1	越前焼 鉢	焼: 良好 色: 淡茶灰色	極砂粒 堅度 1/10以下	口縁部:内傾して立ち上がる/口縁面は浅い凹面/口縁部外・内側に浅い凹面をもつ/シャープなつくり	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	5区	
2	越前焼 鉢	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 堅度 1/10以下	口縁部:軽く外反して立ち上がる/口縁面は浅い凹面/口縁部外側に浅い凹面をもつ/口縁部内側に段をもつ。シャープなつくり	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	5区	
3	越前焼 壺	焼: 良好 色: 暗赤茶色	極砂粒 堅度 1/10以下	口縁部:軽く外反して立ち上がる/口縁面は浅い凹面/口縁部外側に浅い凹面をもつ/シャープなつくり	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	10区	鉢十 口縁面に自然輪付帯
4	越前焼 壺	焼: 3.6 色: 良好 堅度: 9.0 色: 暗赤灰色 1/10以下	極砂粒 白色結子 堅度 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁面は平凹/シャープなつくり	外:ヨコナデ/底面外縁に同軸 糸切り痕 内:ヘリナデ	3区	
5	越前焼 土師器 小皿	焼: 小良 色: 淡粉白色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:やや内傾して外方へ開く/口縁面は平凹/口縁部内側に浅い凹面をもつ	外:巻輪 内:ヨコナデ 内面に幅4.7cm・15条の刻目	3区	
6	越前焼 土師器 小皿	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口縁面は凹面/口縁部内側に段をもつ	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 内面に刻目不明	2区	

**越前焼** 1～3は壺の口縁部である。4は壺の底部である。5・6・8は挿鉢、7は提鉢である。

**土師器小皿** 9は口唇部を上方へツマミあげている。15は手捏ね成形である。

**青磁** 16は青磁花入であり、平面形は闊丸方形となる。口端部上位に綾杉文、下位に葉脈文を陰刻している。第24次調査の建物S834内のSK855(文)で全体が復元できる個体が出土している。

**白磁** 18はやや青みを帯びた朝鮮白磁の碗底部である。

**染付** 21は碗の底部であり、断面に漆掻きの痕が残る。

**石製品** 22は石硯であり、23は擦痕が残る用途不明の石器である。

**木製品** 24は木鐙、25・26は井戸枠の転用材であり、先端をU字形に加工している。30～41は桶と考える。

## 7. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
7	越前焼鉢	焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部は鋭角	外:凹縁ナデ 内:凹縁ナデ	3区
8	越前焼鉢鉢	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部は平頭	外:凹縁ナデ 内:凹縁ナデ 内面の節目不鮮明	5区 外:キキムラ 内面:自然釉
9	上総器 小皿	口: 9.4 高: 2.1 底: 4.0 焼: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は短くソマミ上げる	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部へ底部ナデ	5区
10	上総器 小皿	口: 10.8 高: 1.9 底: 6.0 焼: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:ゆるやかに内湾して立ち上がる/口端部やや外方へ屈曲/口唇部は丸く収める	外:口縁部ナデ/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ヨコナデ	3区
11	上総器 小皿	口: 10.0 高: 2.4 底: 5.3 焼: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部強いヨコナデ/底部ナデ	5区 外:口縁部スス付着
12	土師器 小皿	口: 12.4 高: 1.9 底: 4.5 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外方へ弱く屈曲/口唇部は丸く収める	外:厚粒 内:厚粒	3区
13	土師器 小皿	口: 12.9 高: 1.7 底: 8.0 焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:やや外反して短く立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部ナデ/底部ナデ 内:口縁部ナデ/底部ナデ	3区
14	上総器 小皿	口: 16.0 高: 2.6 底: 小良 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:中位からやや外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部ナデ 内:口縁部ナデ	3区
15	土師器 小皿	口: 4.8 高: 1.2 底: 3.0 焼: 小良 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:中位から上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部ナデ 内:口縁部ナデ	5区
16	寺塚 花生	口: 8.2 高: 3.1 底: 良好 色: 透け〜灰色	精緻 1/10以下	口縁部:やや外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部が鋭角	外:口縁部ナデ/底部ナデ 内:口縁部ナデ	5区 外:白智阿地刺刺
17	白磁 皿	高: 1.3 底: 6.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して立ち上がる	底部:高台端面は鋭角/輪ハゲ	3区
18	白磁 白磁 皿	高: 2.0 底: 4.0 焼: 良好 色: 淡緑白色	堅緻 1/8	底部:高台端面は丸く収める/輪ハゲ		3区
19	白磁 皿	高: 2.3 底: 2.9 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:高台端面は鋭角/輪ハゲ		3区 外:蓋部外縁輪ハゲ
20	鉄種 天目茶碗	高: 2.0 底: 4.4 焼: 良好 色: 赤色	極砂粒 堅緻 1/10以下	底部:高台は蛇の目高台		3区
21	染付 碗	高: 3.0 底: 5.0 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して立ち上がる	底部:高台端面は丸く収める/輪ハゲ	3区 縁接ぎの痕

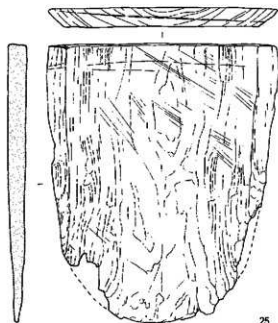
石製品(Pl. 21 第20図)

単位:cm/g

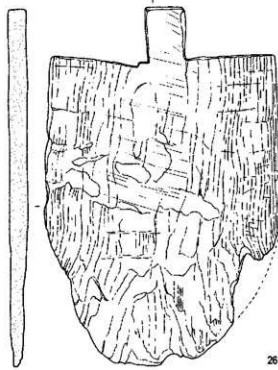
No	器種	法量(最大値)				残存	石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長	幅	厚	重					
22	石硯	4.5	4.3	0.8	18.0	1/2	安山岩 淡緑灰色 硬質	整形製:左側面、下端面	左側面、下端面に磨りれ 石材は緻密	2区
23	不明 石製品	9.6	9.5	3.2	328.0	1/1	磐谷石 淡緑黄色 軟質	外正:平滑、擦痕多し 底面:平頭、平滑	砥石?	5区



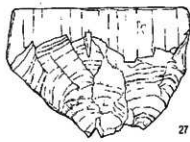
24



25



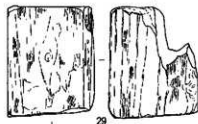
26



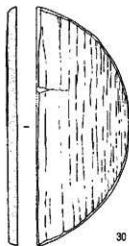
27



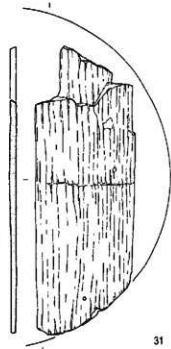
28



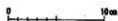
29



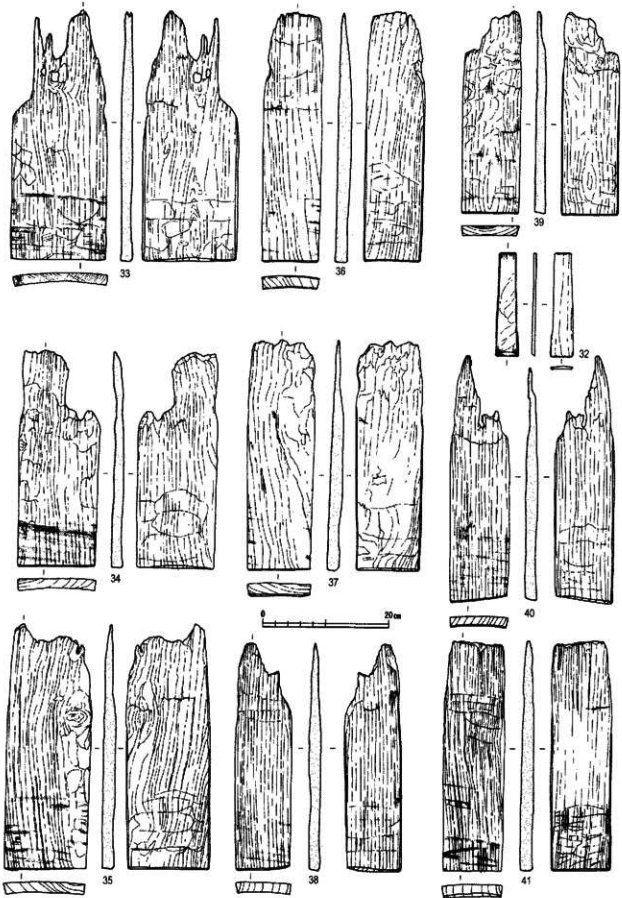
30



31



第21圖 第67次調査出土木製品(縮尺1/4)



第22圖 第67次調査出土木製品(縮尺1/6)

第3表 第67次調査出土遺物木製品観察表(PL.22 第21・22図)

単位:cm/g

No	種類	分量(成人部)			残存	木取 材種	特徴	出土 地点
		長	高	重量				
24	木椀	11.3	—	139.6	—	枝材同心	形状:散形/中央に紐をかける狭りを入れる/内周面切断	4区
		4.3	4.7			—		
25	不明 板状	29.7	—	—	—	板目	形状:スコップ形/上端面に彫による切込みの段差が残る/下端に向い て削られ薄くなる	5区
		24.3	2.0			針葉樹	表面面:縦状	
26	不明 板材	38.2	—	—	—	板目	形状:スコップ形/上端中央に、長さ5.5cm、幅4.2cmの突起をもつ/下 端に向けて削られ薄くなる	5区
		24.5	2.0			針葉樹	表面面:縦状、手斧痕	
27	部材	18.5	13.5	—	—	芯持丸木	形状:円錐状の端材/平面形は楕円形/伐採痕が残る	1区
		16.3	—			針葉樹		
28	板材	29.4	—	—	—	枝材同心	形状:先端部は4面方錐状に成形/断面方形の棟状部が広く/棟状辺材周 辺は水中で腐食し、節が残る	5区
		4.9	3.0			針葉樹		
29	芯材	11.7	9.1	—	—	芯持丸木	形状:方柱状/上下端面:平滑/下端面に彫による切込みの段あり	5区
		8.8	—			針葉樹		
30	椀	25.4	—	—	1/3	板目	底板/形状:半月形/表面:辺材側(外面)/裏面:心材側(内面) 全体平滑/表面外縁は表裏にかけて斜めに削られる	5区
		9.7	1.1			針葉樹		
31	椀	36.0	—	—	1/3	板目	底板/形状:半月形/表面:心材側(外面)/裏面:辺材側(内面) 全体平滑/表面外縁は裏面にかけて斜めに削られる/本釘2箇所	5区
		10.1	0.7			針葉樹		
32	椀	16.1	—	—	1/1	板目	側板/形状:長方形/左側欠損 全体平滑/裏面(内面)に手斧痕 下縁は裏面にかけて片月状に斜めに削られる	4区
		3.7	0.5			針葉樹		
33	椀	39.5	—	—	2/3	椎茸目	側板/形状:長方形/上位欠損/心材側(左側辺)/辺材側(右側辺) 全体平滑/裏面に手斧痕/裏面下位にタガログ/下縁に縦状 表裏面上端1/4の範囲が削られ、地味材に転用されている可能性あり	1区
		15.0	1.9			針葉樹		
34	椀	36.1	—	—	3/4	板目	底板/形状:長方形/表面:心材側(外面)/裏面:辺材側(内面) 全体平滑/裏面に手斧痕/表面(外面)にタガログ	1区
		12.6	1.9			針葉樹		
35	椀	38.7	—	—	4/5	板目	底板/形状:長方形/表面:心材側(外面)/裏面:辺材側(内面) 全体平滑/左右側辺・裏面に手斧痕/表面下位にタガログ 表裏面上端1/4の範囲が削られ、地味材に転用されている可能性あり	1区
		13.0	1.7			針葉樹		
36	椀	39.6	—	—	4/5	椎茸目	側板/形状:長方形/上位欠損/心材側(右側辺)/辺材側(左側辺) 全体平滑/表面下位にタガログ/裏面下位に手斧痕/表裏面上端1/3の範囲が削られ、地味材に転用されている可能性あり	1区
		9.2	2.2			針葉樹		
37	椀	36.4	—	—	4/5	板目	底板/形状:長方形/表面:心材側(外面)/裏面:辺材側(内面) 全体平滑/裏面にタガログ/裏面下位は広く凹む 表裏面上端1/4の範囲が削られ、地味材に転用されている可能性あり	1区
		10.6	2.0			針葉樹		
38	椀	35.9	—	—	4/5	板目	側板/形状:長方形/上位欠損/心材側(左側辺)/辺材側(右側辺) 全体平滑/表面下位にタガログ/裏面下位は広く凹む 表裏面上端1/3の範囲が削られ、地味材に転用されている可能性あり	1区
		8.9	1.8			針葉樹		
39	椀	32.1	—	—	4/5	板目	側板/形状:長方形/表面:心材側(外面)/裏面:辺材側(内面) 全体平滑/裏面に手斧痕/表面下位にタガログ 表裏面上端1/4の範囲が削られ、地味材に転用されている可能性あり	1区
		9.2	1.8			針葉樹		
40	椀	34.1	—	—	2/3	椎茸目	側板/形状:長方形/上位欠損/心材側(左側辺)/辺材側(右側辺) 全体平滑/表面下位にタガログ/裏面下位に手斧痕 表裏面上端1/3の範囲が削られ、地味材に転用されている可能性あり	1区
		9.4	2.0			針葉樹		
41	椀	36.3	—	—	4/5	板目	側板/形状:長方形/上位欠損/心材側(右側辺)/辺材側(左側辺) 全体平滑/表面下位にタガログ/裏面下位に手斧痕 表裏面上端1/3の範囲が削られ、地味材に転用されている可能性あり	1区
		9.6	2.1			針葉樹		

## V. 第100次調査【城戸ノ内町字川合殿、藤兵衛川原】

### 1. 遺構の概要(Pl.7 第2・23・24図)

第100次調査は、城戸ノ内町字川合殿、藤兵衛川原に位置し、朝倉館跡から一乗谷川を越えて、約4km隔てた河岸に立地する(第21図)。東側を一乗谷川、西側を山塊に挟まれた、南北に延びる狭隘な平地において、土塁石垣で区画された武家屋敷群が検出された。調査面積は2,600㎡であり、標高は上流側で57～58m、下流側で55mを測る。調査期間は平成9年(1997)4月1日～同年12月21日である。

折しも、調査年度は、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査が開始されてから30年目の節目にあたり、史跡指定では25周年となる記念の年となった。記念事業の一環として、特別展「眠りからさめた戦国の城下町」展(文9)が開催された。これまでに、平成7年(1995)に町並立体復元事業を完成させ、平成8年に旧「中期10ヶ年計画」無事終了だが、山城跡や新御殿跡など、調査・整備を進めるべき遺構が存在するため、新たに平成18年度を目途とする「中期10ヶ年計画」を計画し、第100次調査は初年度の調査になった。

調査区の周辺は、東側の泉道側一帯が、昭和53・54年(1978・1979)の第31次調査(文10)の対象地となっており、北側の町並立体復元地区の休憩所・川合殿仮設駐車場となっている場所は、昭和63年度(1988)の第57・58次調査(文11)の対象地となっており、調査区には複数の屋敷跡が存在していることが想定されてきた。

第31次調査においては、道路1、土塁石垣5、溝16、礎石建物4、井戸12、石積遺構19、埋壘遺構3、暗渠2が検出され、遺物は、越前焼が圧倒的な量を占めるが、埋壘遺構は単独で据え付けられていた。

第57・58次調査においては、土塁1、石列および石垣4、溝6、礎石建物5、庭園1、井戸6、石積遺構11が検出され、これらの遺構は古層からⅠ～Ⅲ期に区分された。Ⅲ期は朝倉氏滅亡期、Ⅱ期はⅢ期から深さ15cm下層にあるものの、基本的な屋敷割りにおいて変更は見受けられなかった。

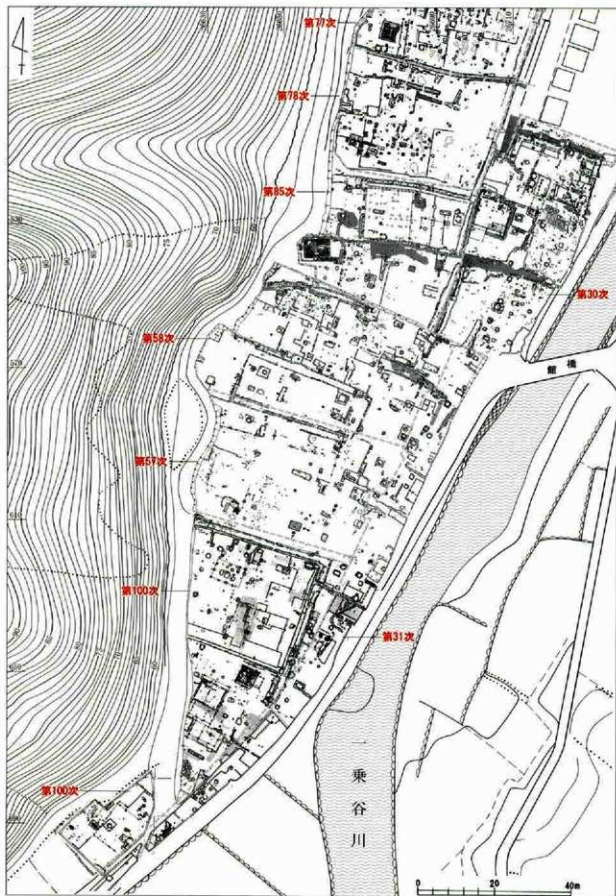
第57次調査の特徴的な遺構をあげると、Ⅱ～Ⅲ期の庭園遺構SG3443は、9㎡程のL字形の池を設けたが、後に埋められ、白い砂利を敷き詰めた平地に改変されたことが明らかになり、これに伴う建物SB3422も検出された。Ⅲ期まで使用された井戸SE3419は径1.15m、深さ3.8mを測る石積み井戸であり、井戸内の覆土は朝倉滅亡期の焼土で埋められ、16,000枚の銅銭と多くの遺物が含まれ、注目された。

今回の第100次調査で検出された遺構は、遺構は北から武家屋敷A～C群の3つに大別され、A群門外の南北屋敷跡についても補足的に把握することができた(第24図)。武家屋敷A・B群は川合殿、C群は藤兵衛川原の字名に含まれる。

武家屋敷A群は、北側を東西方向に全長35m、幅1.8mの北側土塁石垣SA4631で区画し、東側を南北方向に全長42.0m、幅1.8mの東側土塁石垣SA1553・4632で区画している。南側は東西方向に全長27.0m、幅1.0mの南側土塁石垣SA4633で区画し、武家屋敷B群との境としている。武家屋敷A群の出入口となる門跡SI4608は東側土塁石垣SA4632に構築し、門跡の外は第31次調査の道路SS1425と接続する。北側土塁石垣内側を流れる溝SD4641は、東側土塁石垣SA1553で直角に曲がって、約4.0m南へ進んだ後、東へ屈曲し、暗渠SI4481となって東側土塁を通過後、第31次調査のSD1439に接続した。屋敷内の建物構造や配置は削平を受けて不明な部分が多いが、5間×3間の建物1と規模不明の礎石建物1、石積遺構7、井戸3、石敷遺構7で主に構成されていることが明らかになった。

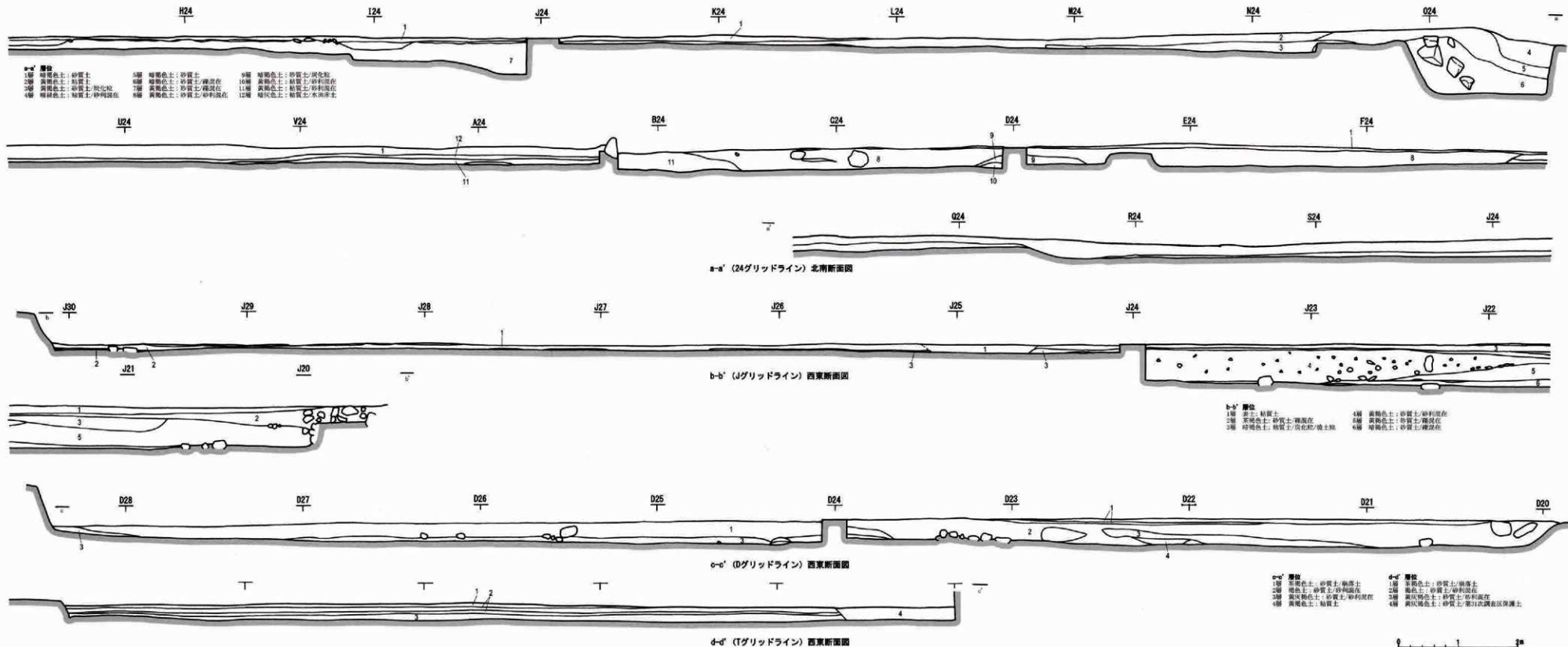
武家屋敷B群は、比較的遺構の残存状況が良く、礎石建物3と石積遺構3、井戸1、石敷遺構5で主に構成され、南端で越前焼大甕を複数据えた埋壘遺構SK4672が検出された。





第23図 第100次調査区と周辺の調査区(縮尺 1/1,000)

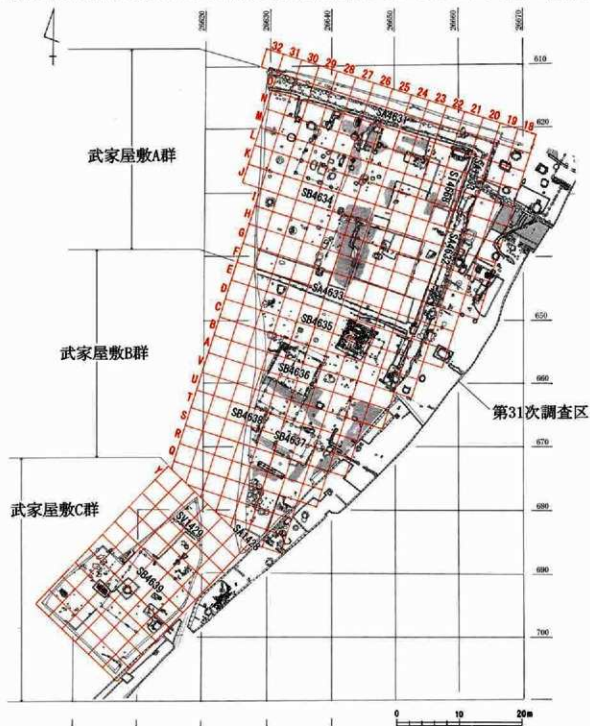




第25図 第100次調査南北・西東遺構断面図(縮尺1/50)

武家屋敷C群は、圍路を挟んで武家屋敷B群の南西に位置し、北側をSA1428または石垣SV1429で区画する。5間×3間以上の礎石建物1、石積遺構1、井戸1、石敷遺構2で主に構成されていた。遺構の配置方向は地形の制約を受け、A・B群より10°南東へ傾く。

調査区全体の層位(第25図)を見ると、遺構は耕作土を除去するとすぐに検出され、山側の方が残存状況が良い傾向がうかがえる。全体の主要遺構の時期については第4表に示した。調査グリッドは地形に沿って1辺3.0mのグリッドを東西方向に18~32、南北方向にA~Oを設定し、以南にQ~Vを設定した(第26図)。武家屋敷C群にはA・B群と異なるグリッドを設定したが、遺構・遺物が少なかったためグリッド番号の記載はない。



第26図 第100次調査グリッド配置図(縮尺1/600)

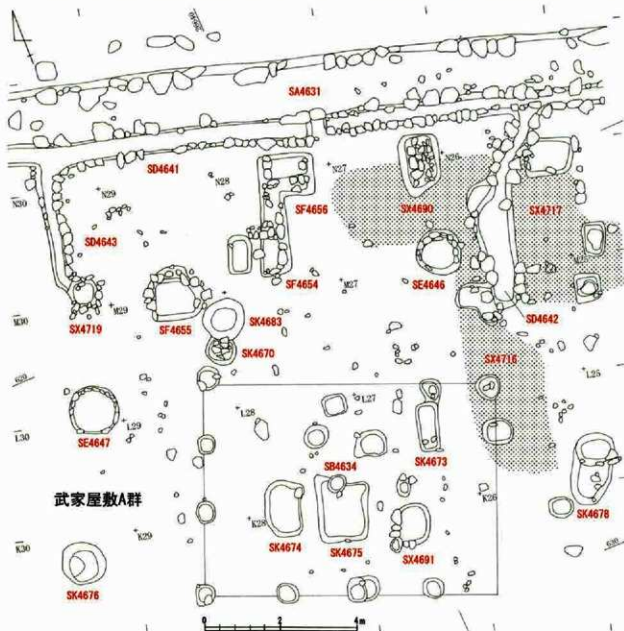
## 2. 武家屋敷A群 (Pl. 8~12 第27~34図)

## 土塁石垣

**SA4631** (Pl. 8・10 第24・27・30図) 019~32に位置。武家屋敷A群の北側土塁石垣であり、総延長約35.0m、上幅約1.5m、基底幅約1.8mの規模を測る。内側に石組溝SD4641が並行する。第57次調査区側の北面の石垣は1.0m大の巨石の割石を使用し、東側土塁石垣の構築法と異なっており、時期差が想定できる。

**SA1563・4632** (Pl. 8~10 第24・30図) B~020に位置。武家屋敷A群の東側土塁石垣であり、第31次調査のSA1563に相当する。総延長約42.0m、上幅約1.5m、基底幅約1.8mを測る。北端から8.0m付近で門跡SI4668を検出し、道路SS1425に接続する。内側に武者走り状の石垣SV4685が内側に付く。南側土塁石垣SA4633が接続するE21付近で石組遺構SF4663に切られ、武家屋敷B群で、土塁の軸方位は5°西へ傾く。

**SA4633** (Pl. 10 第24・30図) E20~29に位置。武家屋敷A群の南側土塁石垣であり、総延長約27.0m、幅約1.0m、高さ約0.2mを測る。武家屋敷B群との境になる。石垣の多くは抜き取られ、基底部分のみが残存していた。



第27図 武家屋敷A群(縮尺 1/100)

## 建物

**SB4634**(PL.9 第24・27図) L28に位置。桁行5間、梁間3間の独立柱建物である。桁行7.8m、梁間5.1m、床面積39.8㎡の規模を測る。主軸はN70°Wに向き、棟はほぼ東西方向である。この両側にも礎石が分散的に確認され、別の建物が存在した可能性が高い。柱穴や建物内の上坑の覆土は焼土・炭化粒が混在する黄褐色土であった。朝倉滅亡期まで存在した建物と考える。

## 溝

**SD4641**(PL.8・10・11 第24・27図) O20~25に位置。屋敷内の石組排水溝である。幅約0.4m、深さ約0.4mを測る。土塁SA4631・1553内側を通り、暗渠SZ1481で東側十畳石垣下を潜り、道路SS1425の北端を一乗谷川側に向かって延びる溝SD1439に接続する。この溝には屋敷内の溝SD4642、4643が接続する。

**SD4642**(PL.8 第24・27図) N26に位置。溝SD4641にくの字に屈曲して取り付く石組排水溝である。延長5.0m、幅約0.4m、深さ約0.3mを測る。井戸SE4646の排水溝と考える。溝SD4641との合流部分で一旦遮断されており、溝SD4641より1段階新しい。

**SD4643**(PL.8 第24・27図) N30に位置。溝SD4641に直交して取り付く。延長3.0m、幅約0.4m、深さ約0.2mを測る。小穴SX4819の排水溝として機能し、溝SD4641と同時期と考える。

**SD4644**(PL.8・9 第24・30図) I25に位置。道路SS4684に並行する石組溝で、延長4.0m、幅0.4mを測る。南端が東へ屈曲する。北端も別の東西方向の溝と直交する。時期は朝倉滅亡期と考える。

## 井戸

**SE4646**(PL.8 第24・27図) N27に位置。溝SD4642の西側で検出された石組井戸である。径約1.1mを測る。上部の石材は井戸中へ落ち込んでいた。最終段階の時期と考える。

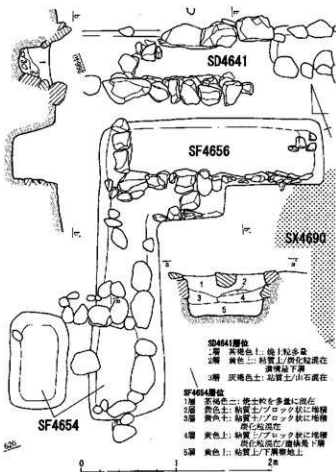
**SE4647**(PL.8 第24・27図) M30に位置。独立柱建物SB4634の西側で検出された石組井戸であり、径1.25mを測る。上部の石材は井戸中へ落ち込んでいた。

**SE4648**(PL.9 第24頁) I30に位置。独立柱建物SB4634の南西側で検出され、径1.1mを測る。

## 石積遺構

**SF4652**(PL.8・9・11 第24・30図) M23に位置。長大な石積遺構であり、軸3.7m、短軸1.6mを測る。上部や南辺は破壊されていた。内部の覆土は炭化粒が混在する焼土であり、最終段階の遺構と考える。ただ、底面に石列が確認され、下層遺構の存在が指摘される。

**SF4653**(PL.8・11 第24・30図) N21に位置。北側十畳石垣SA4631の東北隅で検出された。長軸2.7m、短軸



第28図 武家屋敷A群 SF4654・4656、SD4641(縮尺1/40)

溝SD4641との合流部分で一旦遮断されており、溝SD4641より1段階新しい。

小穴SX4819の排水溝として機能し、溝SD4641と同時期と考える。

道路SS4684に並行する石組溝で、延長4.0m、幅0.4mを測る。南端が東へ屈曲する。北端も別の東西方向の溝と直交する。時期は朝倉滅亡期と考える。

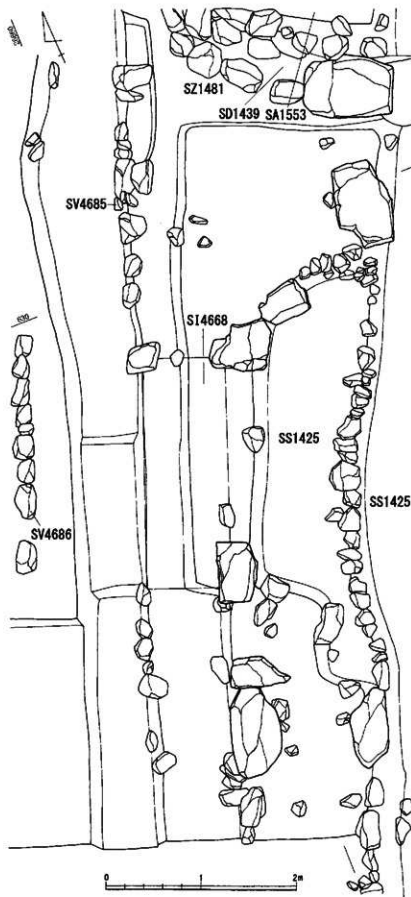
溝SD4642の西側で検出された石組井戸である。径約1.1mを測る。上部の石材は井戸中へ落ち込んでいた。最終段階の時期と考える。

独立柱建物SB4634の西側で検出された石組井戸であり、径1.25mを測る。上部の石材は井戸中へ落ち込んでいた。

独立柱建物SB4634の南西側で検出され、径1.1mを測る。

長大な石積遺構であり、軸3.7m、短軸1.6mを測る。上部や南辺は破壊されていた。内部の覆土は炭化粒が混在する焼土であり、最終段階の遺構と考える。ただ、底面に石列が確認され、下層遺構の存在が指摘される。

北側十畳石垣SA4631の東北隅で検出された。長軸2.7m、短軸



第29図 武家屋敷A群 SI14668(縮尺 1/40)

1.6m、深さ約0.7mを測る。石積みは2段積みで構築している。

**SF4654**(Pl.8-11 第24・27・28図)

N28に位置。長軸1.3m、短軸0.9m、深さ約0.7mを測る。掘立柱建物SB4632の北側で検出され、内部の覆土は焼土であり、最終段階の遺構と考える。西辺側石は破壊を受けている。

**SF4655**(Pl.9 第24・27図) M29に位置。

SK4683の西側に近接して検出された。SF4654と同規模を測る。下層の遺構であり、南辺側石は破壊を受けている

**SF4656**(Pl.11 第24・27・28図) O28

に位置。SF4654の北側で検出された。下層の遺構のため完掘できず、規模は不明。溝SD4641に切られている。

#### 門跡

**SI14668**(Pl.8-10 第24・29・30図)

L20に位置。東側土塁石垣SA4632に設置された門であり、礎石にケガキの刻線が残る。礎石間の柱間寸法は2.43mを測る。

#### その他の遺構

**SK4669**(Pl.9 第24図) G26に位置。

上坑2基からなる埋甕遺構である。屋敷内中央西寄りの道路状遺構SS4684の両側で検出された。周辺に同様な土坑が数基存在する可能性がある。甕は口縁部が肥厚するIV群Cに属す。

**SS4684**(Pl.8-9 第24・30図) F~J

25に位置。石敷の通路遺構である。南北約13.0m、東西約5.5mの範囲で検出された。溝SD4644を伴うと考える。





**SV4685**(PL.8・9 第24・30図) 東側土塁石垣 SA4632 内側に並行する、武者走り状の石垣であり、石積は3〜4段である。門に並行する石列 SV4686 や石積遺構 SF4653 より低い位置で検出され、東側土塁石垣に先行する。

**SX4695**(PL.9 第24図) F26に位置。方形の石組遺構である。長軸1.2m、短軸0.9mを測る。石敷が跡と考える。内部の覆土は焼土、炭化粒であった。石組の内面は被熱している。

**SX4713**(PL.8・9 第24・30図) K22に位置。北側土塁石垣寄りの SX4714、K24の SX4715 と同一の高さで検出され、同一の砂利敷遺構と考える。

**SX4716**(PL.8・9 第24・27図) M26に位置。SE4646 周囲の砂利敷遺構である。SD4642 と同時期と考える。

#### 武家屋敷 A 群門跡外の北・南側屋敷跡の遺構

武家屋敷 A 群の門跡 SI4668 を出た東側には、SD1439 と SD1442 を側溝とした通路 SS1425 が存在し、北側の側溝 SD1439 以北に北側屋敷跡、南側の側溝 SD1442 以南に南側屋敷跡が配置されていたことが明らかになった。以下、主要遺構の概要を述べる。

#### 北側屋敷跡の遺構

**SD1439**(PL.11 第24・30図) M18〜20に位置。延長13.5m、幅0.4mを測る。武家屋敷 A 群の溝 SD4641 から暗渠 SZ1481 を経て接続する石組排水路である。一乗谷川まで延びて、南北幹線道路に直交するものとする。

**SE1455**(PL.11 第24・30図) M18に位置。第31次で検出された石組井戸である。径0.75mを測る。

**SE4651**(PL.11 第24・30図) O18に位置。径1.2mを測る。SE1455 と同じく、北側の屋敷跡の石組井戸である。

**SF4657**(PL.11 第24・30図) O19に位置。北側の屋敷跡に属する石積施設である。長軸1.6m、短軸1.0mを測る。

#### 通路

**SS1425**(PL.10 第24・30図) L・K19に位置。門跡 SI4668 より一乗谷川に向かって延びる道路である。第31次で検出された。北側の SD1439 と南側の SD1442 を側溝とし、幅4.5mを測る。溝 SD1443・SZ1482 が後に構築され、2時期以上使用されていたことが判明した。

#### 南側屋敷跡の遺構

**SD1443**(第24・30図) K18に位置。鉤状の石組排水溝である。通路遺構 SS1425 横断し、SD1439 に合流する。

**SB4640**(第24・30図) G19に位置。礎石建物だが規模は不明。東側土塁石垣 SA4632 の下層の遺構である。

**SF4658〜4661**(PL.12 第24・30図) I19・J19に位置。SF4658 は北辺側石が破壊されていた。東西幅約1.1mを測る。SF4659 は正方形で1辺約0.9mを測る。SF4660 は方形を呈し、1辺約1.0mを測る。SF4661 は0.9m×1.1mを測る。SF4660 と一部切り合って設置され、SF4661 が先行すると考える。

**SF4662・1474**(PL.12 第24・30図) SF4662・1474 は、東側土塁石垣 SA4632 下層の遺構であり、SF4662 は G20 に位置。SF1474 は F20 に位置。共に SA4632 と主軸方位を同じくする。SF4662 はほぼ破壊されていた。SF1474 は西辺側石が東辺側石より2〜3石分高く積まれて検出された。この点から、SA4632 構築以前にも、南北方向に SF1474 西辺側石を境とする段差が存在したと考えられる。

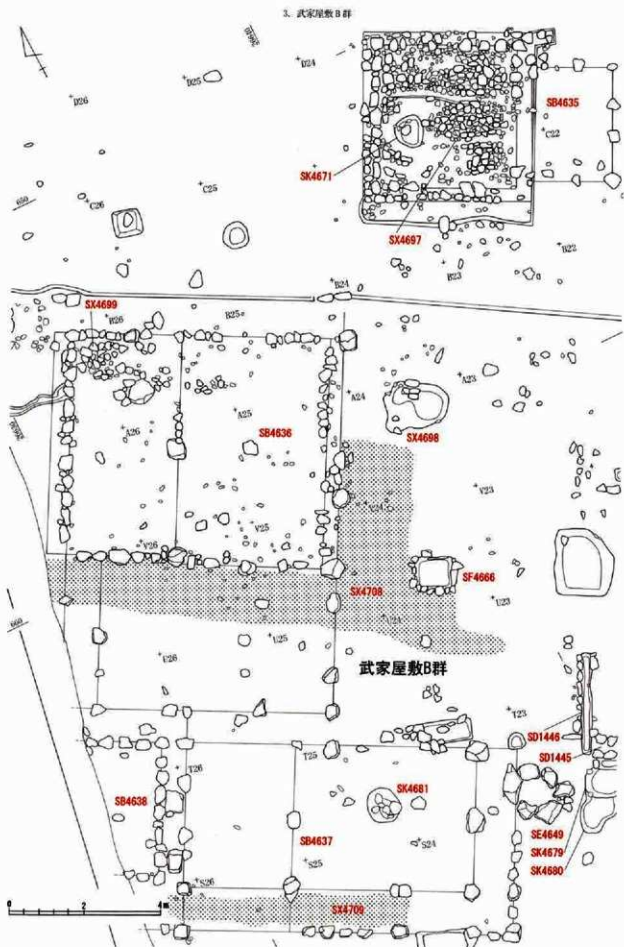
**SF1475**(PL.12 第24・30図) E20に位置。第31次調査で検出され、長軸1.6m、短軸1.1mを測る。

### 3. 武家屋敷 B 群(PL.13〜16 第24・31・32図)

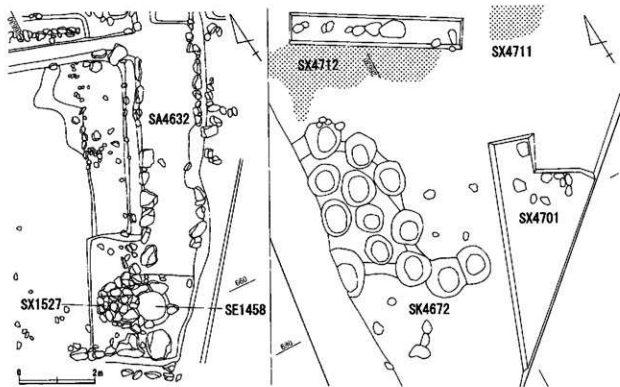
#### 建物

**SB4635**(PL.13・14 第24・30図) C・D23に位置。石敷きの礎石建物であり、土蔵と考える。棟方向の主軸は N80°W にとり、長軸4.7m、短軸4.7mを測る。東側に桁行2間、梁間3間の庇を備えた戸間が付き、2.0m×2.5mを測る。東側土塁石垣 SA4632 も南端部で同じ方位に屈曲し、同時期の遺構と考える。石敷遺構 SX4697 を伴う。

**SB4636**(PL.13・14 第24・30図) A25〜27に位置。礎石建物であり、南側に礎石建物 SB4637 が隣接する。棟方



第31图 武家屋敷B群(縮尺1/100)



第32図 武家屋敷B群 SA4632、SX1527、SK4672(縮尺1/100)

向の上軸は $NE2^{\circ}W$ にとり、 $7.6m \times 6.8m$ の規模を測る。これに南側に張り出した、桁行3間、梁間2間の建物が取り付く。建物は $6.2m \times 3.9m$ の規模を測る。建物東南隅から南側にかけては、砂利敷遺構 SX4708 が幅は $1.5m \sim 2.0m$ で通路状に広がる。この建物の東南に SF4666、北西に SF4665 が位置する。

**SB4637**(Pl.13・15 第24・30図) T24～26に位置。SA4636に隣接する礎石建物であり、棟方向の主軸はSB4636と同じく $NE2^{\circ}W$ にとり、身舎の桁行4間、梁間2間、外部施設を含めた寸法は $8.6m \times 4.9m$ の規模を測る。南辺に通路の石敷遺構である SX4709 が長さ $6.5m$ 、幅 $0.7m$ で広がり、北東に井戸 SE4649 が取り付く。

**SB4638**(Pl.13・15 第24・30図) T27に位置。東側の礎石建物 SB4637 に接して、西側に広がる礎石建物である。検出した規模で東辺 $3.5m$ 、北辺 $2.0m$ を測る。主要部分は山裾の岡路下に存在する。

### 溝

**SD4645**(Pl.13・15 第24・30図) E21～24に位置。延長 $6.5m$ 、幅 $0.4m$ を測る。東側十畳石垣に突き当たり、第31次の SD1444 に接続するならば、武家屋敷A群南側土壘石垣の下層遺構となる。

**SD1445・1446**(Pl.13 第24・31図) T22に位置。第31次の石組排水路であり、延長約 $9.0m$ 、幅約 $0.4m$ を測る。SD1446と直交し、幅 $0.2m$ 、深さ $0.15m$ を測る。西側の井戸 SE4649、石敷遺構 SX4710 に伴うと考える。

### 井戸

**SE1458**(Pl.9 第24・30・32図) B20に位置。第31次の石組井戸であり、径 $0.8m$ を測る。東側十畳石垣南端の下層の遺構である。石敷 SX1527 を伴う。上蔵 SB4635、石積遺構 SF4663 も同様の下層遺構と考える。

**SE4649**(Pl.15 第24・31図) T23に位置。礎石建物 SB4637 に付設された石組井戸である。径約 $0.7m$ を測る。

### 石積遺構

**SF4663**(Pl.12 第24・30図) E21に位置。東側土壘 SA4632 と十畳石垣 SA4633 の接続部に構築する。長軸 $1.1m$ 、短軸 $0.7m$ を測る。土壘石垣 SA4633 を切る。しかし、東辺側石は東側土壘石垣の下層に延びるので、ある時期に規模に縮小したか、廃棄された可能性がある。

**SF4664**(PL.12 第24図) E28に位置。武家屋敷A群南側土塁SA4633の西端南側で検出した。長軸1.1m、短軸0.9mを測る。この周辺一帯は砂利層が露出し、広く攪乱を受けている。

**SF4665**(第24図) E28に位置。礎石建物SB4636の北西隅の石敷遺構である。長軸1.2m、短軸0.9mを測る。

**SF4666**(PL.15 第24・31図) V23に位置。礎石建物SB4636の東南部に位置する。0.7m×0.9mを測る。

#### 土坑、石敷遺構

**SK4671**(PL.13・14 第24・30・31図) D24に位置。礎石建物SB4635内中央部西寄りで検出された埋甕遺構である。越前焼大甕胴部の破片が検出された。

**SK4672**(PL.15 第24・32図) P・Q26に位置。武家屋敷B群南端で検出された越前焼大甕の埋甕遺構である。13基の土坑で構成され、そのうち3基に越前焼の大甕胴部が据えられていた。他の土坑は、後世の攪乱等により、土器片は落ち込んだ状態で検出された。土坑群の覆土中から希少な飛青磁瓶(183)が出土した。

**SK4697**(PL.13・14 第24・30・31図) D23に位置。礎石建物SB4635に敷き詰められた石敷遺構である。上層は土師器を含む砂利の整地層に覆われ、東西方向に転びし根太の痕跡と見られる溝状の落ち込みが確認された。

**SK4699**(PL.13・14 第24・31図) E27に位置。礎石建物SB4636北西隅の石敷遺構である。

**SK4708**(PL.13・14 第24・31図)は礎石建物SB4636に伴い、**SK4709**・**SK4710**はSB4637に伴う石敷遺構である。

#### 4. 武家屋敷C群(PL.16 第33図)

##### 土塁石垣

**SA1428**(第24図) N°24~26に位置。第31次で検出した石垣土塁であり、延長4.5m、幅0.8mを測る。武家屋敷B群の埋甕遺構SK4672の南側を通過して東西に延びる可能性が高く、礎石建物SB4639の北辺ともほぼ並行することから、武家屋敷B・C群の境となる土塁石垣と考える。

##### 建物

**SB4639**(PL.16 第24・33図) 屋敷内の中央に位置する礎石建物である。棟方向の主軸はN38°Eにとり、桁行5間、梁間4間以上、外部施設を含めた寸法は11.0m×7.0mの規模を測る。山側にも礎石列が認められるが、規模は不明である。北西隅に桁行0.7m、梁間2.8mの張り出しが付く。

##### 井戸

**SE4650**(PL.16 第24・33図) SB4639内の西辺中央に位置する石組井戸である。径約1.0mを測る。時期は最終段階と考える。

##### 石垣・石列

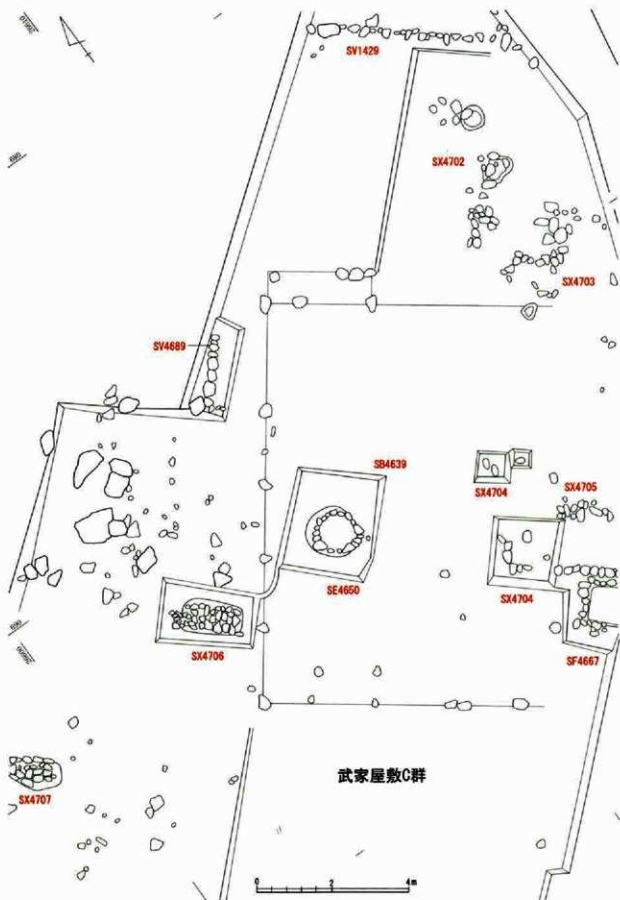
**SV1429**(PL.16 第24・33図) 第31次でも検出している石垣であり、SB4639の北側に位置する。延長16.0m以上と推定され、土塁石垣SA1428と並行する。幅は約5.0~6.0mの東西道路であった可能性も考えられる。

**SV4689**(PL.16 第24・33図) 礎石建物SB4639の西側で検出した石列である。SB4639の西辺と並行して南北に延長2.0m分を検出した。この石列付近の表土中から硬玉製勾玉(247)が1点出土した。一乗谷における弥生~古墳時代初頭の墓域や集落は不明であり、土器片がごくまれに採集されるが、朝倉期の鑑賞物として持ち込まれた可能性もある。

##### その他の遺構

**SK4706**(PL.16 第24・33図) 石敷跡であり、内部の覆土に炭化物・焼土が堆積していた。長軸1.8m、短軸0.9mを測る。井戸SE4650と同じ床土下で検出した。

**SK4707**(PL.16 第24・33図) 石敷跡であり、長軸1.2m、短軸0.8mを測る。幅約0.8m、長さ1.2mを測る。調査区最南端山側で検出した。この跡は更に山側に延び、調査区境界で炭溜めの土坑を併設していた。



第33图 武家屋敷C群(縮尺1/100)

第4表 第100次調査主要遺構観察表

## 武家屋敷A群

No	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	押図
				I期	II期	III期		
1	B-020	SA631	東側上屋石垣				PL. 9	第30図
2	M20	SZ1418	障壁				PL. 11	第30図
3	M28	SF4654	石積遺構				PL. 11	第27図
4	N29	SF4655	石積遺構					第27図
5	L20	S14668	円跡				PL. 10	第29図
6	Q26	SK4999	土坑				PL. 9	第24図
7	F~J25	SS4684	道路				PL. 9	第24図
8	F26	SK4695	石敷遺構				PL. 9	第24図
9	L27・28	SB4634	独立柱礎物				PL. 10	第27図
10	N26	SD4642	溝:石組排水溝				PL. 9	第27図
11	N30	SD4643	溝:石組排水溝				PL. 8	第27図
12	H・I25	SD4644	溝:石組排水溝				PL. 9	第24図
13	M27	SE4646	井戸:石組井戸				PL. 8	第27図
14	I30	SE4648	井戸:石組井戸				PL. 9	第24図
15	N20	SA1553	東側土塁石垣				PL. 8	第30図
16	C-020	SA4632	東側土塁石垣				PL. 9	第30図
17	H・I25	SD4641	溝:北部土塁石垣 石組排水溝				PL. 10	第30図
18	M18・19	SD1439	溝:SS1425北側 石組排水溝				PL. 11	第30図
19	M23	SF4652	石積遺構				PL. 11	第30図
20	N21	SF4653	石積遺構				PL. 11	第30図
21	M30	SE4647	井戸:石組井戸				PL. 8	第27図
22	K・L22	SK4713	石敷遺構				PL. 8	第30図
23	N23・24	SK4714	石敷遺構				PL. 8	第30図
24	K・L24	SK4715	石敷遺構				PL. 8	第30図
25	N28	SF4656	石積遺構				PL. 11	第27図
26	E21~29	SA4633	南側土塁石垣				PL. 10	第30図
27	F~J20	SV4685	東側上屋石垣 内側の石垣・石列				PL. 9	第30図

## 武家屋敷A群門外 北側屋敷跡

No	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	押図
				I期	II期	III期		
28	M18・19	SD1439	溝:SS1425北側 石組排水溝				PL. 11	第30図
29	J17・18	SD1443	溝:石組排水溝					第30図
30	M18	SE1445	井戸:石組井戸				PL. 11	第30図
31	O18	SE4651	井戸:石組井戸				PL. 11	第30図
32	O19	SF4657	石積遺構				PL. 11	第30図

## 武家屋敷A群門外 南側屋敷跡

No	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	押図
				I期	II期	III期		
33	J19	SF4658	石積遺構				PL. 12	第30図
34	J19	SF4659	石積遺構				PL. 12	第30図

No	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	押図
				I期	II期	III期		
35	E20	SF1475	石積遺構				PL. 12	第30図
36	K~M19	SS1425	道路				PL. 10	第30図
37	I19	SF4660	石積遺構				PL. 12	第30図
38	G・H19	SB4640	礎石礎物					第30図
39	I19	SF4661	石積遺構				PL. 12	第30図
40	Q20	SF4662	石積遺構				PL. 12	第30図
41	F20	SF1474	石積遺構				PL. 12	第30図

## 武家屋敷B群

No	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	押図
				I期	II期	III期		
42	A25~27	SB4636	礎石礎物				PL. 14	第31図
43	T24~26	SB4637	礎石礎物				PL. 15	第31図
44	T27	SB4638	礎石礎物				PL. 13	第31図
45	I20~23	SD1445	溝:石組排水溝				PL. 13	第31図
46	I・U23	SD1446	溝:石組排水溝				PL. 13	第31図
47	T23	SE4649	井戸:SS4637に 伴う石組井戸				PL. 15	第31図
48	B・C28	SF4665	石積遺構				PL. 14	第24図
49	V24	SF4666	石積遺構				PL. 15	第24図
50	P・Q26	SK4672	上段:土前壁埋 戻遺構				PL. 15	第32図
51	V24~27	SK4708	石敷遺構 SB4636南辺				PL. 14	第31図
52	S25~27	SK4709	石敷遺構 SB4637南辺				PL. 15	第31図
53	T~V22	SK4710	石敷遺構				PL. 13	第24図
54	D23・24	SK4897	石敷遺構 SB4838内石敷				PL. 14	第31図
55	E21~24	SD4645	溝:SS4633南側 石組排水溝					第24図
56	A21	SE1458	井戸:東側上屋 石垣南側の石 組井戸				PL. 9	第32図
57	E20・21	SF4663	石積遺構 SA1633東端				PL. 12	第30図
58	D23・24	SB4635	礎石礎物				PL. 14	第31図
59	E28	SF4664	石積遺構					第24図

## 武家屋敷C群

No	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	押図
				I期	II期	III期		
60	-	SV1429	石垣・石列				PL. 16	第33図
61	-	SK4706	石敷*				PL. 16	第33図
62	-	SK4707	石敷*				PL. 16	第33図
63	-	SA1428	上屋石垣 第31次に接続				PL. 16	第33図
64	-	SE4650	井戸:石組井戸				PL. 16	第33図
65	-	SB4639	礎石礎物				PL. 16	第33図

## 5. 遺物 (PL 23~30 第34~45図 第5表)

遺物は、武家屋敷A・B群のもので占められ、陶磁器類の他に土製品、金属器、石製品等も出土した。詳細は第5表に記し、ここでは武家屋敷A・B群の包含層出土陶磁器類と、一定量の組成を示す遺構の陶磁器類について概要を述べる。

## 武家屋敷A群包含層出土陶磁器類 (PL 23 第34・35図 第5表)

越前焼は小型の鉢1・2、播鉢3~5、浅い径鉢6が検出された。土師器は小皿7~14が検出された。7・8・13は口端部外面にヨコナデによる段をもつ。羽釜18・19は口径8.8cm~11.0cmを測る小型品であり、ススが附着する。瀬戸・美濃製品は鉄軸の天日碗15~17を検出した。花瓶44はラッパ状に大きく開き、胴部上位は内反する。瀬戸昔田窯で出土例があり、15世紀末のものと考えられる。中国製陶磁器には、青磁碗20~23を検出した。20の外面には蓮葉文が陰刻される。皿24・25は内面底部に印花文をもつ。26は大型の甗であり、内外面に陰刻印花文を施す。27は甗の獅子文脚部である。白磁皿35・36は底部に回転ヘラ切り痕が残り、内面底部に陰刻印花文を施す。染付皿38・39は外面に密な唐草文を描く。天日碗40は断面が灰黒色を呈す。その他元染の小片 (PL 23左側) を掲載しておく。その他朝鮮雑釉碗41・42、皿43がある。

## 武家屋敷A群遺構出土陶磁器類 (PL 24~26 第35~38図 第5表)

**SA4632 出土** (PL 24 第35・36図) 越前焼播鉢45~48を検出した。土師器小皿51は口端部に段をもつ。青磁碗52は練刻蓮葉文を有す。染付皿53は口縁部に唐草文、内面底部に玉取り獅子文を施す。

**SK4669 出土** (PL 24 第36・37図) 越前焼で占められる。越前焼大甗63・64の他、大甗の1/2の口径を測る小型品62、球形の胴部をもつ壺65がある。66・67は大・小型品の押鉢である。68は50と同形の壺である。

**SK4678 出土** (PL 25 第37・38図) 越前焼播鉢71は底部にススが附着する。染付皿72の口端部には雷文帯、見込みに渦卷文帯が巡る。瀬戸・美濃の四耳壺80はSA4631、SF4652の破片と接合する。

**SK4692 出土** (PL 26 第38図) 土師器小皿83~91が出土した。小型品で完形に近いものが多い。

**SD4642 出土** (PL 26 第38図) 青磁97・98と白磁99~107で占められる。97は陰刻印花文をもつ優品の甗である。98は輪花皿である。99・100は碗、101~107は皿である。106は優品であり定案のものと考えられる。

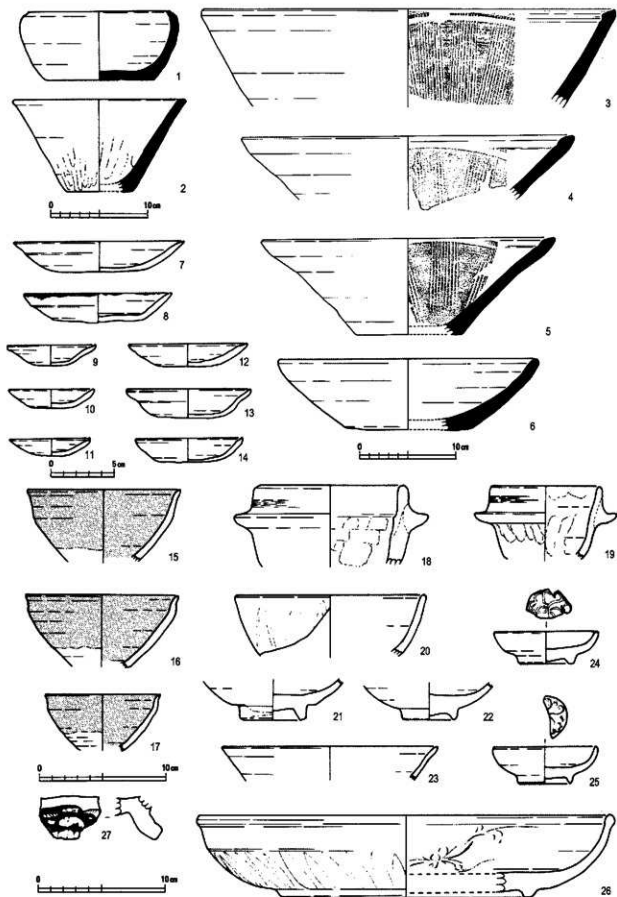
## 武家屋敷B群包含層出土陶磁器類 (PL 26~28 第39~41図 第5表)

越前焼では大型の鉢109・110の他、鉄鉢形の111がある。土師器は圧倒的な量を占め、B・D類の小皿113~145が出土した。耳皿151はミニチュア品と考えられる。短頸壺152は弥生~古墳時代初頭のものであり、武家屋敷C群で同時期の硬玉製勾玉が1点出土していることが注意される。瀬戸・美濃製品では鉄軸の天日碗153~159が出土した。特殊品として水滴160、水瓶161もある。灰陶磁器は、碗162、皿163・164、香炉165が出土した。中国製陶磁器では、青磁166~185を検出した。碗166~168・173は蓮葉文を有し、169・174は深底である。輪花皿175・176のように内湾するものと、177~179・181のようにやや外反するものがある。鉄斑花瓶、いわゆる飛青磁の183は、SK4672の上層で破片が検出された。花入185は円筒状で竹を模していると考えられる。染付は、杯186~189に草花文を描き、187~189の見込みに太湖石を描く。碗190には牡丹唐草文が変化した文様を施す。皿191には十字印花文を見込みに施す。

## 武家屋敷B群遺構出土陶磁器類 (PL 25・28~30 第41~44図 第5表)

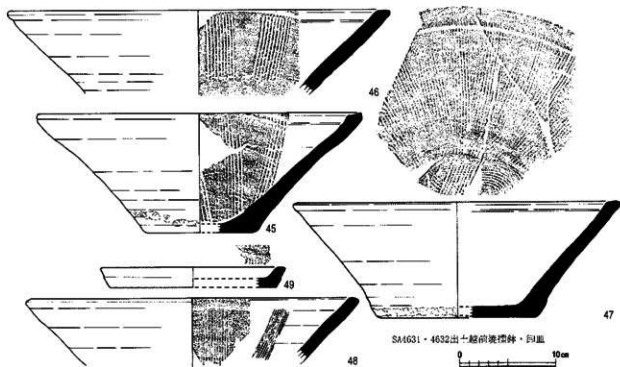
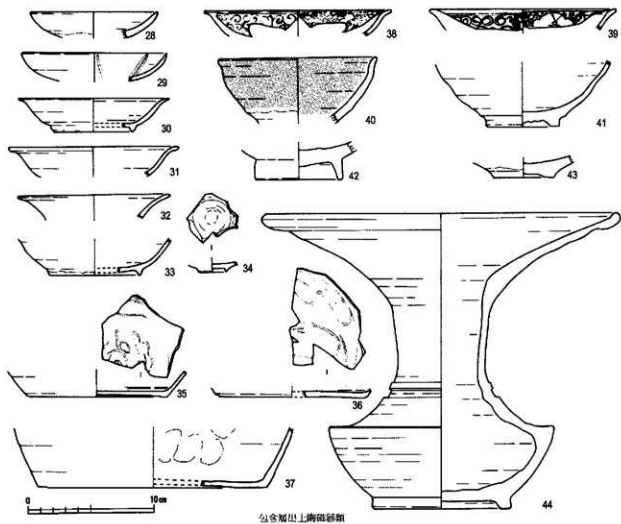
**SB4635 出土遺物** (PL 28 第41図) 越前焼播鉢199、大甗200、白磁皿201・202、染付皿203を検出した。

**SK4672 出土遺物** (PL 25・29・30 第37・42・43図) 越前焼大甗213~226、壺75・76・227を検出した。胴部上位にスタンプ文、ヘラ記号をもつ個体が多い。染付杯77は草花文を施し、見込みに山型の太湖石を描く。染付皿78は口縁部に宝相蓮華文、見込みに十字印花文を描く。

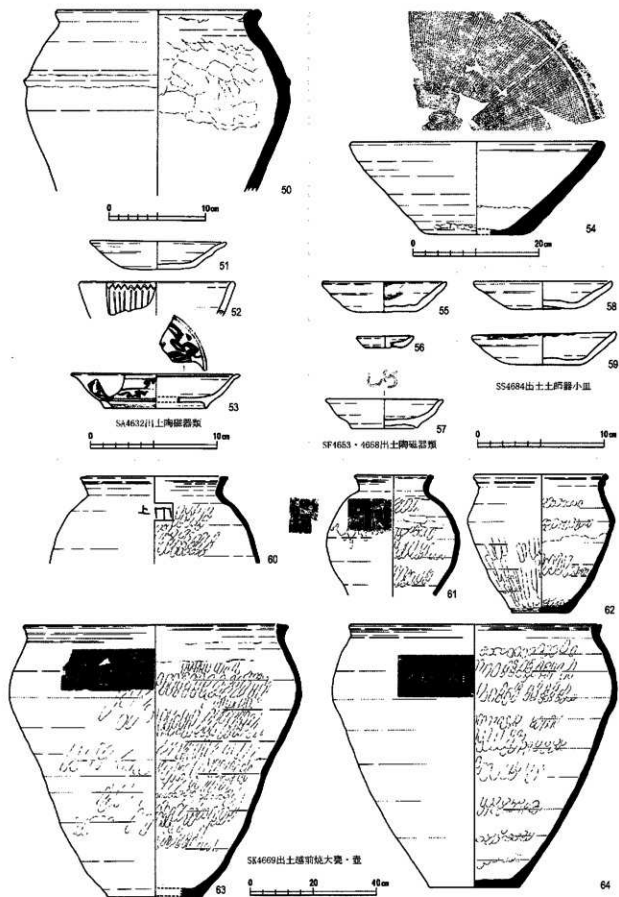


第34圖 武家原敷A群包含層出土陶磁器類(縮尺1/3、1/4)

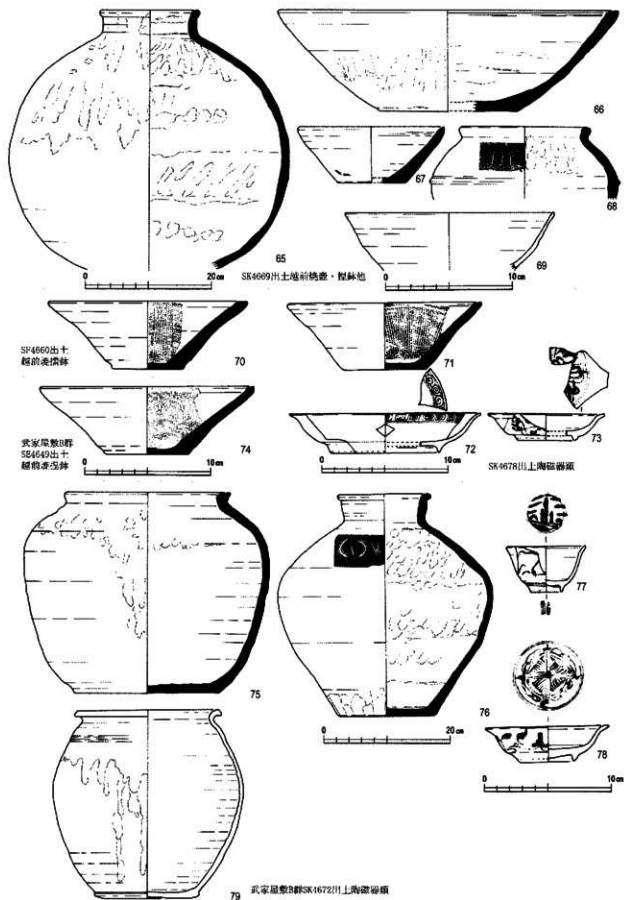




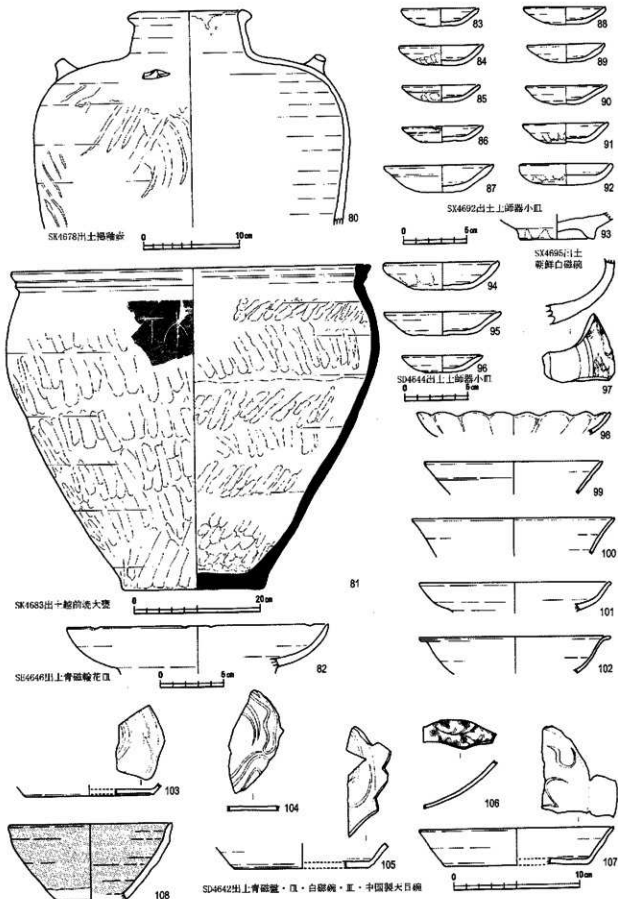
第35図 武家屋敷A群包含層・遺構出土陶器器類(縮尺1/3、1/4)



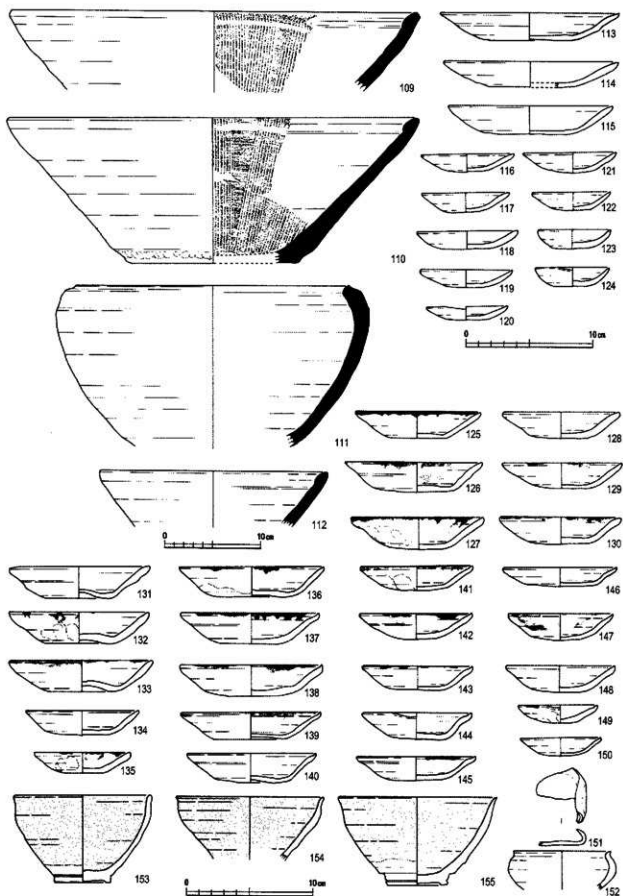
第36圖 武家屋敷A群遺構出土陶磁器類(縮尺1/3、1/4、1/6、1/12)



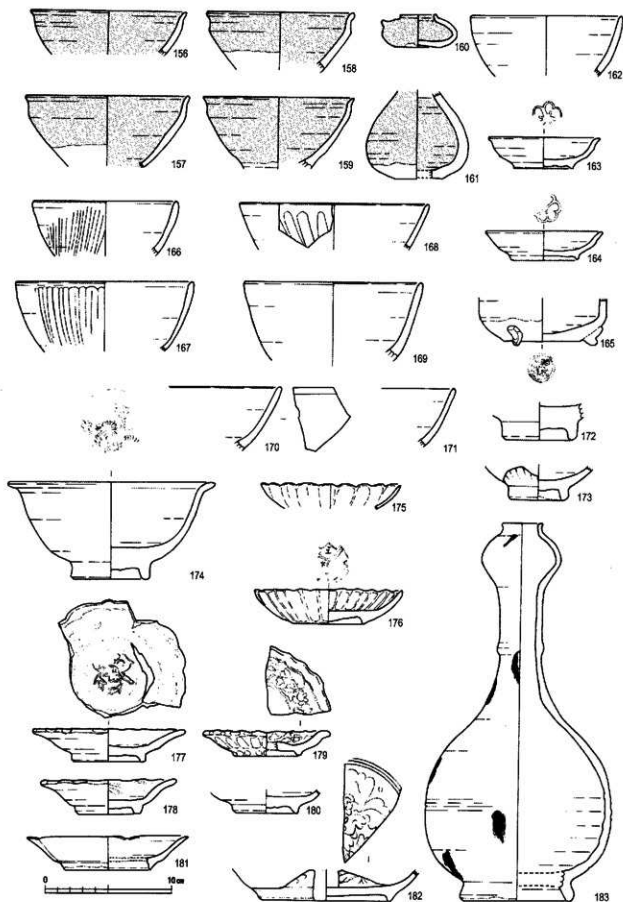
第37圖 武家屋敷A群遺構出土陶磁器類、B群遺構出土陶磁器類(縮尺1/3、1/6)



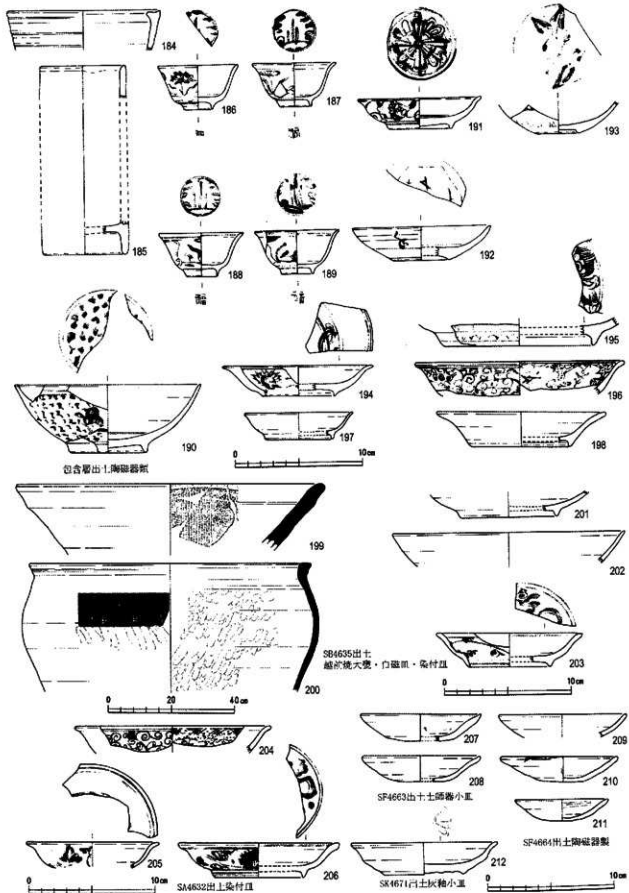
第 38 图 武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類(縮尺 1/3、1/4、1/6)



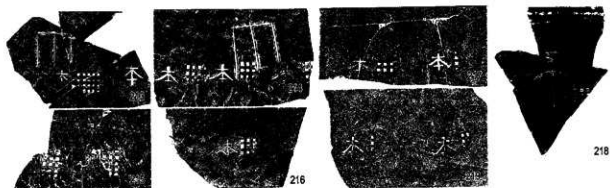
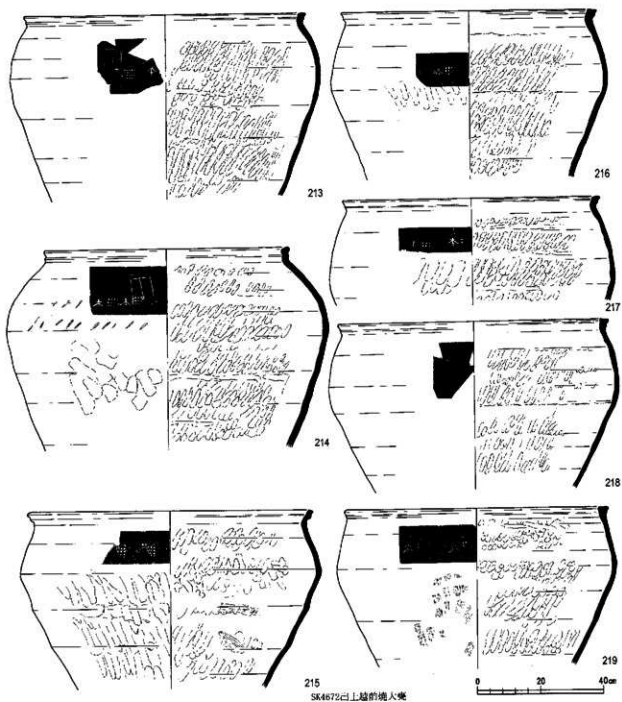
第 39 図 武家屋敷 A 群包含層出土陶磁器類 (縮尺 1/3、1/4)



第40图 武家吊敷B群包含層出土陶磁器類(縮尺1/3)

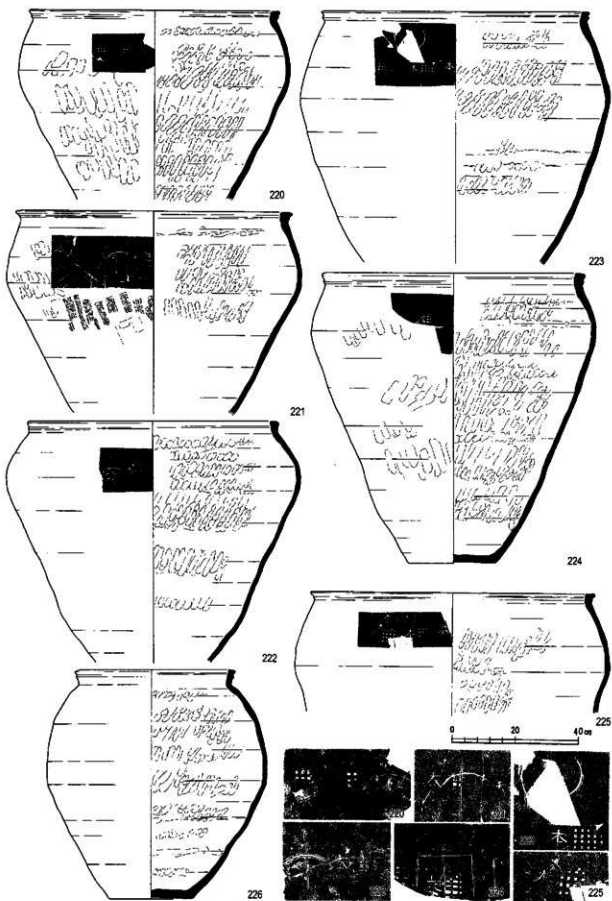


第41圖 武家集敷B群包含層・遺構出土陶磁器類(縮尺1/3、1/4、1/12)

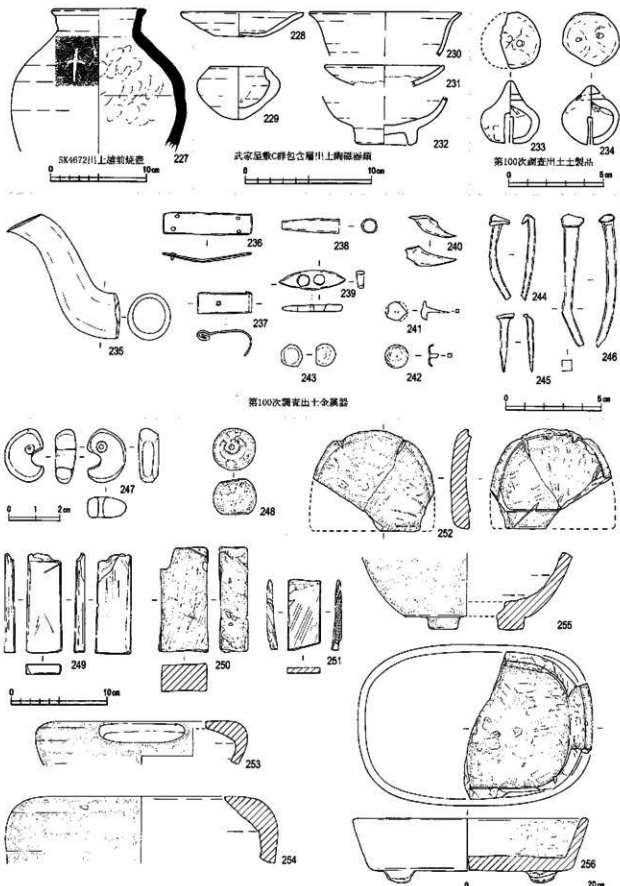


第42圖 武家屋敷B群遺構出土陶磁器類(縮尺 1/12)





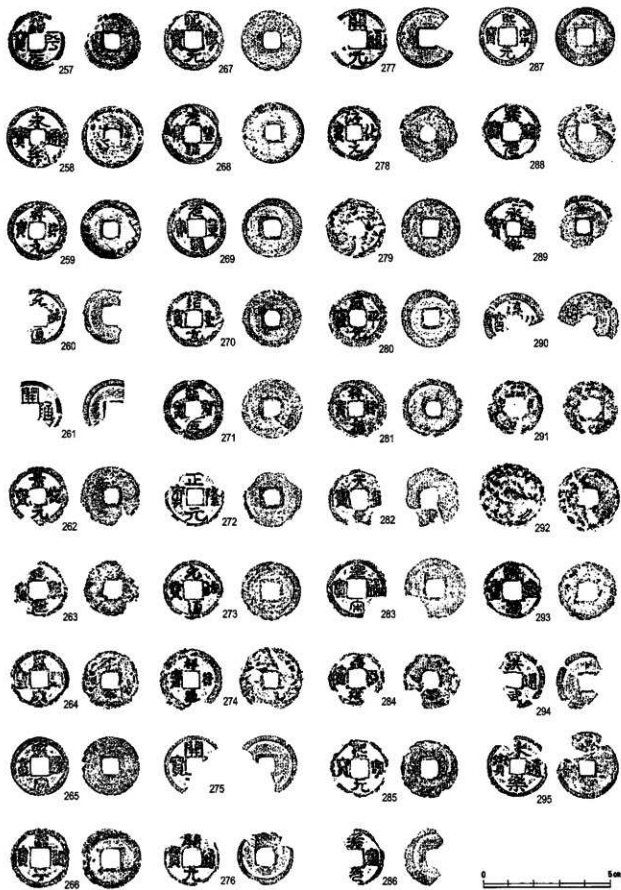
第 43 図 武家塚敷 B 群遺構出土陶磁器類 (縮尺 1/12)



第100次調査出土金銅器

第100次調査出土石製品

第44圖 武家屋敷B・C群出土陶磁器類、第100次調査川上土製品、金銅器、石製品(縮尺1/2、1/3、2/3、1/4)



第 45 圖 第100次調査出土銭貨(縮尺 2/3)

第5表 第100次調査出土遺物観察表(Pl. 23~30 第34~45図)

武家屋敷A 群包含層出土陶磁器類(Pl. 23 第34・35図)

単位:cm

No.	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	越前焼鉢	口: 14.7 底: 7.4 高: 11.2 焼: 良好 色: 赤褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/4	口縁部:内湾して立ち上がる/口唇部は内傾して丸く収める 底部:平底	外:口縁部~体部:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ	武家屋敷A群 S24/S09/J20/遺構内 外:口縁部隆起 内:隆起
2	越前焼鉢	口: 18.2 高: 9.8 底: 6.8 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平直 底部:平底	外:口縁部~体部:ナデ/体部下位ロ ガキ/底部:ナデ 内:二線部~体部ナデ/体部下位~底 部ヘラナデ	武家屋敷A群 S25/S10/J20/遺構内 内:隆起
3	越前焼 燗鉢	口: 43.6 高: 10.5 底: 11.9 焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部に2段の隆起がめぐる	外:口縁部~体部:ナデ 内:口縁部~体部:ナデ 内面に幅2.7cm・13条の直目	武家屋敷A群 I25~27/床下黄褐色 土 I26/遺構内 I28/遺構内
4	越前焼 燗鉢	口: 36.0 高: 6.5 底: 11.9 焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平直/口唇部内側に浅い凹線 をもつ	外:口縁部~体部:ナデ 内:口縁部~体部:ナデ 内面に幅2.8cm・8条の直目	武家屋敷A群 S25/製作土 I23/SA4831遺構内
5	越前焼 燗鉢	口: 31.0 高: 10.0 底: 11.9 焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平直/口唇部内側に浅い凹線 をもつ	外:口縁部~体部:回転ナデ後ヨコナ デ 内:口縁部~体部:ナデ/底部:準純 内面に幅2.8cm・9条の直目	武家屋敷A群 S25/遺構内
6	越前焼 燗鉢	口: 27.0 高: 7.6 底: 13.0 焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/6	口縁部:やや内湾して立ち上がる/口 唇部は鋭角気味	外:口縁部~体部:回転ナデ/底部ナ デ 内:口縁部~体部:回転ナデ/底部ナ デ	武家屋敷A群 G18/J18遺構内
7	土師器 小皿	口: 13.2 高: 2.4 底: 6.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部外側に段 あり 底部:平直	外:二線部ヨコナデ/底部未調整 内:口縁部~底部ヨコナデ	武家屋敷A群 I29/遺構内
8	土師器 小皿	口: 11.5 高: 2.3 底: 6.4 焼: 良好 色: 赤褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部外側に段 あり 底部:平直	外:口縁部ヨコナデ/底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 G23/床下ト砂利層 外:口唇部にスチ付着
9	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.6 底: 2.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:体部中位で外反し、口唇部を 短く上方へツマミ出す/口唇部は丸く 収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ 内:二線部~底部ヨコナデ	武家屋敷A群 I30/SA4832床上 内:赤色化粘土
10	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.6 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部を短く上方へツマミ出す/口唇 部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 I23/床下ト砂利層 内:口唇部にスチ付着
11	土師器 小皿	口: 6.1 高: 1.4 底: 2.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部を短く上方へツマミ出す/口唇 部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 H25/地上 外:口唇部にスチ付着
12	土師器 小皿	口: 9.2 高: 1.8 底: 4.9 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に浅い凹線をもつ/口唇 部は丸く収める 底部:平直	外:口縁部ヨコナデ/底部未調整 内:口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 S25/オナチモ砂利層 外:一部スチ付着 内: 部スチ付着
13	土師器 小皿	口: 9.6 高: 2.3 底: 4.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:体部中位で鋭く屈曲して斜め 外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 口唇部外側に段をもつ 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 M29/黄褐色土
14	土師器 小皿	口: 8.3 高: 1.9 底: 4.6 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は上方へ短くツマミ出す/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ナデ/底部未調整 内:口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I25・26/床下黄褐色 土 外:口唇部にスチ付着 内:口唇部に歪む
15	瀬戸式渡 鞍駒 天日鏡	口: 12.0 高: 5.9 底: 11.9 焼: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がり、口縁部1度でやや上方へ屈曲。 口唇部は短く外傾し丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	武家屋敷A群

単位:cm

No	器種	法量/地成/色調	胎上 残存	形状	調査 / 文様	出土地点	
						備考	備考
16	瀬戸美濃 鉄胎 大目碗	口: 12.0 高: 5.7 底: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 型残 1/8	口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上 がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。 口唇部は短く外傾し丸く収める	外:口縁部～体部下位同転ナデ 内:口縁部～体部下位同転ナデ	武家屋敷A群 体部下位まで鉄胎	
17	瀬戸美濃 鉄胎 大目碗	口: 9.0 高: 4.4 底: 良好 色: 黒色	極砂粒 型残 1/6	口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上 がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。 口唇部は短く外傾し丸く収める	外:二線部～体部下位同転ナデ 内:口縁部～体部下位同転ナデ	武家屋敷A群 G22/灰褐色上 体部下位まで鉄胎	
18	上野田 茶釜	口: 11.0 高: 6.4 底: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直上へ立ち上がる/口唇部は 丸く収める/受部は平滑 底部:丸底	外:口縁部～受部コナデ/体部ナデ 内:口縁部～受部コナデ/体部ヘナ ナデ	武家屋敷A群 O26/SA4631埋土 体部スス付着	
19	上野田 茶釜	口: 8.8 高: 5.8 底: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:やや外傾して直上へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/受部は平滑 底部:丸底	外:口縁部～受部コナデ/体部ナデ 内:口縁部～受部コナデ/体部ヘナ ナデ	武家屋敷A群 K18/遺構内 体部スス付着	
20	青磁 碗	口: 15.0 高: 5.0 底: 良好 色: 透青ナリ～青色	精緻 1/10以下	口縁部:やや大湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:蓮華陰刻花文	武家屋敷A群 I29/遺構内	
21	青磁 碗	高: 3.3 底: 4.8 色: 透青ナリ～青色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる 底部:高台端面は平坦/高台内側で接 地	外:無文	武家屋敷A群 K25/地上	
22	青磁 碗	高: 2.9 底: 4.2 色: 透青ナリ～青色	精緻 1/4	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる 底部:高台端面は鋭尖	外:無文	武家屋敷A群 K17/遺構内 高台按地面積ハゲ	
23	青磁 碗	口: 19.0 高: 3.6 底: 良好 色: 透青ナリ～青色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:無文	武家屋敷A群 K25/耕作下	
24	青磁 碗	口: 8.0 高: 2.6 底: 4.0 色: 透青ナリ～青色	精緻 1/3	口縁部:微く内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:高台端面はやや丸みをもつ	内:底部中央に陰刻花文	武家屋敷A群 M27・28/灰土下埋土 外:底面に鉄胎付着 内:底面に鉄胎付着	
25	青磁 碗	口: 8.2 高: 3.0 底: 4.0 色: 透青ナリ～青色	精緻 1/6	口縁部:微く内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:高台端面はやや丸みをもつ	内:底部中央に陰刻花文	武家屋敷A群 20/II遺構内 外:底面軸ハゲ	
26	白磁 碗	口: 22.0 高: 6.5 底: 19.8 色: 透青ナリ～青色	精緻 1/2	口縁部:微く内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は肥厚し口唇部は丸く収め る 底部:高台端面は平坦/高台内側で接 地	外:体部下位に蓮華陰刻花文 内:二線部に蓮華陰刻花文	武家屋敷A群 I20/122～21/120～22 T22・25/K26 M20・21・C24～26 M19/O25・26	
27	青磁 盤	径: 4.6 高: 3.3 底: 良好 色: 透青ナリ～青色	胎痕 1/10以下	盤の胎部 底部/高台の厚さは1.5cm/高台端面は 胴子の口となり平坦/高台内側で接 地	外:胴子陰刻	武家屋敷A群 O25/SA4631埋土	
28	白磁 皿	口: 10.0 高: 2.0 底: 良好 色: 白褐色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める		武家屋敷A群 K26・27/灰土下黄褐色上 外:体部下位軸ハゲ	
29	白磁 皿	口: 11.3 高: 2.3 底: 良好 色: 透灰緑色	精緻 1/10以上	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部はシャープ	内:雲気花文	武家屋敷A群 L25・26/地上(土層) 鉄分が多く青色気味	
30	白磁 皿	口: 11.8 高: 2.7 底: 6.0 色: 透白色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は外反する/口唇部は 丸く収める 底部:高台端面は断面三角		武家屋敷A群 12遺構内 II	
31	白磁 皿	口: 13.4 高: 2.4 底: 良好 色: 明灰白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は外反する/口唇部は 丸く収める		武家屋敷A群 320/茶褐色上 C20・21/SA4632埋土	

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色質	胎土		形 状	調整 / 文様	出土地点	
			残存	形状			備考	備考
32	白磁皿	口: 12.0 高: 2.0 焼: 良好 色: 灰白色	精製 1/10以下		口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める			武家屋敷A群 M27・28/床下土境上
33	白磁皿	高: 2.9 底: 7.0 焼: 良好 色: 灰白色	精製 1/10以下		口縁部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:高台端面平坦/断面内面で接合			武家屋敷A群 C25/灰褐色土・遺構層 外:高台端縁ハグ
34	白磁皿	高: 0.8 底: 2.0 焼: 良好 透白色	精製 1/8		底面:高台端面は鋭角			武家屋敷A群 C20/遺構層II 外:高台内側縁ハグ 内:底面同縁縁ハグ
35	白磁皿	高: 2.2 底: 10.6 焼: 良好 色: 透白褐色	精製 1/6		口縁部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:平坦/周縁にやや丸みをもち	外:底部:回転糸切り痕 内:蘭菊文		武家屋敷A群 M25/磨り土上境上 非常に薄手のつくり
36	白磁皿	高: 0.8 底: 11.2 焼: 良好 色: 透白褐色	精製 1/8		口縁部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:平坦	外:底部:回転糸切り痕 内:蘭菊文		武家屋敷A群 M25/磨り土上 K28/遺構層 107と同 個体か?
37	朝鮮陶器	高: 4.8 底: 18.0 焼: 良好 色: 暗灰褐色	粗製 須恵質 1/10以下		口縁部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:平底	外:脚部下位回転ナデ 内:脚部下位回転ナデ後ユビ型		武家屋敷A群 D19/遺構層
38	染付皿	口: 14.6 高: 2.0 焼: 良好 色: 淡褐色白	精製 1/10以下		口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は外反し口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須唐草文 内:口縁部に呉須花文		武家屋敷A群 C22/砂赤土上 L20・21床下暗褐色土
39	染付皿	口: 14.8 高: 1.5 焼: やや不良 色: 青白色	精製 1/10以下		口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は外反し口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須唐草文 内:口縁部に呉須花文		武家屋敷A群 H22/砂赤土上 L20・21床下暗褐色土
40	中国磁器 天目鉢	口: 12.4 高: 5.2 底: やや不良 色: 青白色	精製 1/8		口唇部はやや内湾して斜め外方へ立ち上がり、口縁部は一段で上方へ巻出し、口唇部は丸く外反し丸く収める	外:口縁部～底部下位回転ナデ 内:口縁部～底部下位回転ナデ		武家屋敷A群 H20/遺構層 体部下位縁縁付け
41	朝鮮陶器	高: 5.1 底: 5.6 焼: 良好 色: 透暗灰色	精製 1/10以下		口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる 底部:高台はハの字に踏ん張る/断面平坦	外:口縁部～底部下位回転ナデ 内:口縁部～底部下位回転ナデ		武家屋敷A群 F26・26/SX4695 G20/遺構層II
42	朝鮮陶器	高: 3.0 底: 6.6 焼: 不良 色: 灰白色	精製 1/8		底部:高台は高く、直立する/高台端面平坦/断面全体で接合	外:底面/内縁ヘラケズリ		武家屋敷A群 G20～23/表土上 G20～23/磨り土上床土 高台断面:輪ハグ
43	朝鮮陶器	高: 1.7 底: 4.8 焼: 良好 色: 淡灰色	粗製 1/8		底部:高台は削り出し高台で低い/高台断面平坦/断面全体で接合	内:底面/回転ナデ		武家屋敷A群 G24/SA4631埋土 外:高台端ハグ 内:底面にトチン
44	瀬戸・美濃 花紋	口: 28.0 底: (23.2) 底: 10.7 焼: 良好 内: 黄褐色	精製 1/10以下		口縁部:直線状に外方へのびる/口唇部は上方へ巻出し丸く収める 胴部:頸部上の段に開縁を施し、上位は頸部からハの字に外反する/下位は筒形を呈す 底部:高台断面はハの字にふんばる/断面平坦/断面全体で接合	外:回転ナデ/底面内縁ヘラケズリ 内:回転ナデ		武家屋敷A群 C20/遺構層II I23/砂利層/G22/砂利層 I22・23/床土上 I24/遺構層 G22/砂利層

## 武家屋敷A群遺構出土陶磁器類 (PL. 24～26 第35～38図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色質	胎土		形 状	調整 / 文様	出土地点	
			残存	形状			備考	備考
45	朝鮮陶器 磨り	口: 34.0 高: 12.6 底: 11.0 焼: 不良 色: 淡赤褐色	粗製砂 白色粒子 軟質 1/10以下		口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く内湾/口唇部内側:段をもち	外:口縁部～底部回転ナデ/体部最下 位に踵目/底面磨り 内:口縁部回転ナデ/体部下位～底部 磨り 内面に幅2.7cm・8条の節目		武家屋敷A群 O24～26/SA4631
46	朝鮮陶器 磨り	口: 40.0 高: 9.0 底: 不良 焼: 黄褐色	粗製砂 白色粒子 軟質 1/10以下		口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平坦/口唇部内側:段をもち	外:口縁部～底部回転ナデ 内:口縁部～底部回転ナデ/底面磨り 内面に幅2.9cm・9条の節目		武家屋敷A群 F19・20/SA4632

単位:cm

No	器種	法華/透成/色調	胎土	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
47	越前流探鉢	口: 34.2 高: 12.2 底: 17.0 焼: 不良 色: 黄褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上る/ 口端部は平壇/口端部内側に浅い沈線 をもつ	外:口縁部~体部回転ナデ/体部最下 位に隅目/底筋ナデ/全体摩耗 内:口縁部回転ナデ 内面に幅2.9cm・9条の細目/底部に 細目	武家屋敷A群 B20/SA462 C20・21/SA4632
48	越前流探鉢	口: 34.0 高: 7.5 底: 良好 色: 赤褐色	極砂粒 口色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上る/ 口端部は平壇	外:口縁部~体部ヨコナデ 内:口縁部~体部ナデ 内面に幅2.5cm・10条の細目	武家屋敷A群 F19・20/SA4632
49	越前流探鉢	口: 19.0 高: 2.0 底: 17.4 焼: 良好 色: 赤紫色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:短く直線状に外方へ立ち上る /口端部は平壇	外:口縁部~体部回転ナデ/底部ナデ 内:口縁部~体部回転ナデ 内面に細目	武家屋敷A群 E20/SA4632 武家屋敷B群 S24/焼付十
50	越前流探鉢	口: 21.7 高: 19.7 底: 27.8 焼: 良好 色: 赤褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:口端部は短く外方へ立ち上る/ 口端部は丸く収める/シャープなつくり 底筋:上位で張り、突帯が付く/下位 で寄る	外:口縁部~上部ヨコナデ 内:口縁部~胴部半周直/胴部中心位~ 下位ナデ	武家屋敷A群 C20・21/SA4632 C20/遺構南目
51	土師器小皿	口: 10.6 高: 2.2 底: 5.4 焼: 良好 色: 淡褐色	極砂粒 3/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上る/ 口端部は丸く収める/口端部外面に段 あり 底筋:丸底	外:口縁部ヨコナデ/底部無調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 F19・20/SA4632
52	古銅碗	口: 12.1 高: 2.7 底: 良好 色: 透オリーブ色	精練 1/10以下	口縁部:やや内傾して外方へ立ち上る/ 口端部は丸く収める	外:口縁部上位に縮重文/割堂文の下 に縦線陰刻 穴:底文	武家屋敷A群 E20/SA4632 E20/遺構南(上層)
53	染付皿	口: 13.2 高: 3.7 底: 8.0 焼: 良好 色: 透白白色	精練 1/6	口縁部:内傾して外方へ立ち上る/ 口端部は外反し口端部は丸く収める 底筋:菱台確定は鋭角/雑ヘダ	外:口縁部上位に縮重文/割堂文の下 に縦線陰刻 穴:底文	武家屋敷A群 L19/SA4632 E20/砂利層
54	越前流探鉢	口: 40.0 高: 14.5 底: 16.3 焼: 良好 色: 淡赤色	極砂粒 内色粒子 整熟 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上る/ 口端部は丸く収める/口端部内側に段 をもつ	外:口縁部~体部回転ナデ/体部最下 位に絞成文の絞ズレ直/底部ナデ 内:口縁部回転ナデ/体部下位~底部 摩耗 内面に幅2.9cm・10条の細目	武家屋敷A群 K20/SF4653 K20/SF4652 N23/SO4641 K20・21/SA/563/ 茶褐色上 023・24/SA4631
55	土師器小皿	口: 5.7 高: 2.3 底: 5.0 焼: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上る/ 口端部は丸く収める/口端部外面に段 あり 底筋:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 K20/SF4653 内:口縁部にスチ付石
56	灰釉小皿	口: 4.4 高: 0.9 底: 3.0 焼: 良好 色: 浅黄緑色	極砂粒 精練 1/2	口縁部:短く直線状に外方へ立ち上る /口端部は丸く収める 底筋:凹線に浅い菱台をケズリ出す	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ	武家屋敷A群 J19/SF4658 H19/SF4661
57	灰釉小皿	口: 9.2 高: 2.3 底: 5.0 焼: 良好 色: 浅黄緑色	極砂粒 精練 1/2	口縁部:縁やかに内傾して外方へ立ち 上る/口端部は丸く収める/口端部 は丸く収める 底筋:菱台は短くケズリ出す	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部ヨコナデ	武家屋敷A群 J19/SF4660
58	土師器小皿	口: 10.7 高: 2.2 底: 5.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上る/ 口端部は丸く収める/口端部外面に段 あり 底筋:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部無調整 穴:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 I24/SA4684
59	土師器小皿	口: 11.1 高: 2.4 底: 6.2 焼: 良好 色: 赤褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上る/ 口端部は丸く収める/口端部外面に段 あり 底筋:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 I24/SA4684 外:口端部スチ付石 内:口端部スチ付石
60	越前流探鉢	口: 46.9 高: 27.0 底: 65.5 焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 精練 1/4	口縁部:短く外反して立ち上る/口 端部は丸く収める/口端部中央に突帯付 の絞線をもつ/口端部内側に段をもつ /シャープなつくり 底筋:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 胴部上位に2種顔のヘリ記号 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位に成形 時の指輪痕2段	武家屋敷A群 G26/SK4069/北南十坑 021・25/SA4631埋土 G25・26/遺構南 外:胴部上位自然釉

## 5. 植物

単位:cm

No	器種	流量/透色/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備考
61	磁前焼 壺	口: 23.0 高: 38.4 底: 42.5 径: 良好 透色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 白釉 4/5	二線部:短く外反して立ち上がる/口 端面はやや膨らむ/口縁部中央に突帯状の 絞線をもつ/口縁部内側に段をもつ シヤープなつくり 胴部:上位で大きく張る 底部:上位で大きく張る	外:二線部ヨコナデ/胴部上位~下位ナ デ 胴部上位に2種類1組のヘリ記号 内:二線部ヨコナデ/胴部上位ヨコナ デ/胴部上位~下位に成形時の指痕 痕4段	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G24/SX4631塙上 M2/SX4646 G25・25/遺構面 G25・26/遺構面 外:胴部上位自然釉 内:胴部上位自然釉
		口: 42.4 高: 44.1 底: 46.9 径: 18.0 透: 不良 土質/質 色: 淡黄褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 4/5	二線部:短く外反して立ち上がる/口 端面は平坦/二線部中央に突帯状の絞 線をもつ/口縁部内側に段をもつ/鈍い つくり 胴部:上位で大きく張る/上位~底部 にかけて窄まる 底部:平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位 ナデ/中位器面割線多い/中位~下位 へつナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指痕痕 2段/胴部上位器面割線多い/胴部下 位指痕痕1段/底部指痕痕	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G24・26/SX4631埋土 M2/SX4646 G25・26/遺土 外:胴部下位~底部使 用時の被動痕 内:胴部~底部スチ付着
62	磁前焼 壺	口: 84.6 高: 87.4 底: 92.8 径: 29.0 透: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 精製 1/2	口縁部:短く外反して立ち上がる/二 線部は平坦/口縁部中央に突帯状の絞 線をもつ/口縁部内側に段をもつ/シ ヤープなつくり 胴部:上位で大きく張る/上位~底部 にかけて窄まる 底部:平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位 ナデ/胴部上位に2種類1組の押印文 (表+格子文)を以て中位~下位指 痕痕5段 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位 指痕痕8~9段	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G24/SX4631埋土 外:胴部上位自然釉/胴 部下位自然釉 内:胴部上位~底部降 灰/底部自然釉
		口: 80.0 高: 84.5 底: 91.0 径: 28.0 透: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 白釉 1/6	口縁部:短く外反して立ち上がる/口 通室は平坦/口縁部上位に浅い凹溝が 入る/口縁部内側に浅い凹溝が入る/ シヤープなつくり 胴部:上位で大きく張る/上位~底部 にかけて窄まる 底部:平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位 ナデ/胴部上位に2種類1組の押印文 (表+格子文)がめぐる/中位~下位器 面 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位 指痕痕8~9段	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G24/SX4631埋土 P26遺構面 外:胴部上位自然釉/胴 部下位降灰 内:胴部上位~底部降 灰/底部自然釉
63	磁前焼 壺	口: 16.0 高: 42.0 底: 42.4 径: 良好 透色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 精製 1/8	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口 端面は外方へ凹曲れ丸く収める 胴部:扁球形を呈し中位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~中位 ナデ/胴部下位ハケ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位 指痕痕5~6段	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G25・26遺構面 外:胴部上位降灰・自 然釉
		口: 53.4 高: 16.0 底: 21.7 径: 良好 透色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/二線部は浅く直む/口端面内側に 段をもつ	外:口縁部~体部ハケ後ナデ/底部ス ノコ状土着 内:口縁部ナデ/体部中位~底部降 灰	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G23/SX4631埋土 G23遺構面
64	磁前焼 壺	口: 22.8 高: 9.0 底: 10.5 径: 良好 透色: 濃茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/二線部内側に段 をもつ	外:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナ デ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 外:薄灰
		口: 20.6 高: 11.5 底: 30.0 径: 良好 透色: 淡黄灰色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:口縁部は短く外方へ凹曲/ 口唇部は平坦 胴部:上位で張り、突帯が付く/下位 で窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部 上位へタ型ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指痕痕 1/4部小ナデ	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G25・26遺構面(第7下 坑土)
65	磁前焼 壺	口: 16.3 高: 4.4 底: 良好 透色: 暗灰色	精製 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる	外:口縁部~体部下位凹輪ナデ 内:口縁部~体部下位凹輪ナデ 非常に薄手のつくり	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 I21伊利留 靴痕No164
		口: 31.0 高: 10.8 底: 11.0 径: 良好 透色: 淡黄灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:やや外反して立ち上がる/口 唇部はやや凹む/口唇部内側に段をも つ	外:二線部~体部凹輪ナデ後ヨコナ デ/体部最下位に施成前の濁目/既 部ナデ 内:二線部凹輪ナデ 内面に幅2.8cm・10条の筋目	武家屋敷A群 I19/SF4660 I19/遺構面
66	磁前焼 壺	口: 30.0 高: 10.5 底: 12.6 径: 11.0 透色: 黄褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	二線部:直線状に外方へ立ち上がる/ 二線部は平坦/二線部内側に段をもつ	外:二線部~体部凹輪ナデ後ヨコナ デ/体部最下位に施成前の濁目/既 部ナデ 内:二線部凹輪ナデ/底部降灰 内面に幅2.8cm・9条の筋目	武家屋敷A群 K25/SX4678 I22・24/遺構面 M21・22・23/遺構面 内:胴部上位スチ付着
		口: 15.0 高: 3.0 底: 8.4 径: 良好 透色: 透青白色	精製 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は外反し口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に灰黒陶輪1/素台に 灰帯条線2 内:口縁部上位に「書文」/底部に漢文	武家屋敷A群 K25/SX4678 N21/SF4653 N23/SX4654
67	磁前焼 壺	口: 22.8 高: 9.0 底: 10.5 径: 良好 透色: 濃茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/二線部内側に段 をもつ	外:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナ デ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 外:薄灰
		口: 20.6 高: 11.5 底: 30.0 径: 良好 透色: 淡黄灰色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:口縁部は短く外方へ凹曲/ 口唇部は平坦 胴部:上位で張り、突帯が付く/下位 で窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部 上位へタ型ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指痕痕 1/4部小ナデ	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G25・26遺構面(第7下 坑土)
68	磁前焼 壺	口: 16.3 高: 4.4 底: 良好 透色: 暗灰色	精製 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる	外:口縁部~体部下位凹輪ナデ 内:口縁部~体部下位凹輪ナデ 非常に薄手のつくり	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 I21伊利留 靴痕No164
		口: 31.0 高: 10.8 底: 11.0 径: 良好 透色: 淡黄灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:やや外反して立ち上がる/口 唇部はやや凹む/口唇部内側に段をも つ	外:二線部~体部凹輪ナデ後ヨコナ デ/体部最下位に施成前の濁目/既 部ナデ 内:二線部凹輪ナデ 内面に幅2.8cm・10条の筋目	武家屋敷A群 I19/SF4660 I19/遺構面
69	磁前焼 壺	口: 30.0 高: 10.5 底: 12.6 径: 11.0 透色: 黄褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	二線部:直線状に外方へ立ち上がる/ 二線部は平坦/二線部内側に段をもつ	外:二線部~体部凹輪ナデ後ヨコナ デ/体部最下位に施成前の濁目/既 部ナデ 内:二線部凹輪ナデ/底部降灰 内面に幅2.8cm・9条の筋目	武家屋敷A群 K25/SX4678 I22・24/遺構面 M21・22・23/遺構面 内:胴部上位スチ付着
		口: 15.0 高: 3.0 底: 8.4 径: 良好 透色: 透青白色	精製 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は外反し口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に灰黒陶輪1/素台に 灰帯条線2 内:口縁部上位に「書文」/底部に漢文	武家屋敷A群 K25/SX4678 N21/SF4653 N23/SX4654
70	磁前焼 壺	口: 22.8 高: 9.0 底: 10.5 径: 良好 透色: 濃茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/二線部内側に段 をもつ	外:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナ デ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 外:薄灰
		口: 20.6 高: 11.5 底: 30.0 径: 良好 透色: 淡黄灰色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:口縁部は短く外方へ凹曲/ 口唇部は平坦 胴部:上位で張り、突帯が付く/下位 で窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部 上位へタ型ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指痕痕 1/4部小ナデ	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 G25・26遺構面(第7下 坑土)
71	磁前焼 壺	口: 16.3 高: 4.4 底: 良好 透色: 暗灰色	精製 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる	外:口縁部~体部下位凹輪ナデ 内:口縁部~体部下位凹輪ナデ 非常に薄手のつくり	武家屋敷A群 G26/SX4669北南土坑 I21伊利留 靴痕No164
		口: 31.0 高: 10.8 底: 11.0 径: 良好 透色: 淡黄灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:やや外反して立ち上がる/口 唇部はやや凹む/口唇部内側に段をも つ	外:二線部~体部凹輪ナデ後ヨコナ デ/体部最下位に施成前の濁目/既 部ナデ 内:二線部凹輪ナデ 内面に幅2.8cm・10条の筋目	武家屋敷A群 I19/SF4660 I19/遺構面
72	染付 壺	口: 30.0 高: 10.5 底: 12.6 径: 11.0 透色: 黄褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	二線部:直線状に外方へ立ち上がる/ 二線部は平坦/二線部内側に段をもつ	外:二線部~体部凹輪ナデ後ヨコナ デ/体部最下位に施成前の濁目/既 部ナデ 内:二線部凹輪ナデ/底部降灰 内面に幅2.8cm・9条の筋目	武家屋敷A群 K25/SX4678 I22・24/遺構面 M21・22・23/遺構面 内:胴部上位スチ付着
		口: 15.0 高: 3.0 底: 8.4 径: 良好 透色: 透青白色	精製 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は外反し口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に灰黒陶輪1/素台に 灰帯条線2 内:口縁部上位に「書文」/底部に漢文	武家屋敷A群 K25/SX4678 N21/SF4653 N23/SX4654



単位:cm

No	器種	法色/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備考	備考
74	胎付皿	口: 9.2 高: 2.1 底: 4.2 径: 良好 色: 透青白色	精製 1/5	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に段 差部:高台端面は平坦/端面内湾で縁 地/輪ヘク	外:口縁部に呉須地 内:口縁部上位に呉須重線1/底部に 呉須化蓮華文	武家屋敷B群 K25/SX4678 L25・L26(7)・L27(6)黄土	

武家屋敷 B 群遺構出土陶磁器類 (PL.25 第37図)

単位:cm

No	器種	法色/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備考	備考
74	越前焼 椀鉢	口: 33.6 高: 10.7 底: 10.3 径: 良好 色: 明茶色	粗砂粒 白色粒子 軟質 1/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に段 差をもつ	外:口縁部へ体部回転ナゲ/底部ナゲ 内:口縁部回転ナゲ/体部下位へ真直 線 内面に幅2.7cm・9条の細目	武家屋敷B群 T25/SF4049	
75	越前焼 碗	口: 26.8 高: 32.3 底: 38.7 径: 23.1 径: 良好 色: 灰色	粗砂粒 白色粒子 精製 4/5	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口縁 部は平坦 胴部:扁平な寸胴形/上位で大きく張る 底部:平皿	外:口縁部へ胴部下位回転ナゲ 内:口縁部へ胴部下位回転ナゲ/胴部 上位に成形時の指痕1段	武家屋敷B群 P26/Q26/SX4672 Q23/S4631 P25・26/黄土 外:胴部上位へ下位口 縁部 内:胴部下位へ底面自然 地	
76	越前焼 蓋	口: 14.7 高: 35.0 底: 33.6 径: 15.0 径: 良好 色: 灰白色	粗砂粒 白色粒子 軟質 3/4	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口縁 部は外方へ屈曲/口唇部は丸く収める 胴部:中央で大きく張る/胴部下位で窄 まる 底部:平皿	外:口縁部へ胴部上位口唇部/胴部 中央へ下位ナゲ 胴部上位に2種類1組のヘク記号/底 部スノコ状正交 内:口縁部口唇部/胴部上位へ下位 に成形時の指痕後4~5段	武家屋敷B群 P26/Q26/SX4672 T25/SF4049 Q25/黄土 外:胴部上位唇部/胴 部下位ヤムラ 内:胴部下位へ底面自然 地	
77	胎付 杯	口: 6.2 高: 3.6 底: 2.2 径: 良好 色: 透青白色	精製 1/2	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反し/口唇部は丸く収 める 底部:高台は鋭角	外:口縁部に呉須地 内:口縁部に呉須重線・太黒石	武家屋敷B群 P26/Q26/SX4672 外:高台端面輪ヘク	
78	胎付 皿	口: 9.8 高: 2.6 底: 6.0 径: 良好 色: 透青白色	精製 1/1	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反し/口唇部は丸く収 める 底部:高台は鋭角	外:口縁部に呉須重線・赤文花/底 部に呉須地 内:口縁部上位に呉須重線/底部に呉 須重線/十字文	武家屋敷B群 P26/Q26/SX4672 外:高台端面輪ヘク	
79	白国 肥輪 壺	口: 23.0 高: 29.7 底: 29.8 底: 16.4 径: 良好 色: 明茶色	精製 須土質 1/2	口縁部:短く屈曲する/口唇部は平坦 胴部:中央で大きく張る/胴部下位で 窄まる 底部:平皿	外:口縁部へ胴部上位回転ナゲ/胴部 中央へ下位ナゲ/胴部下位回転ナゲ スクリ/底面ナゲ 内:口縁部へ底面回転ナゲ	武家屋敷B群 P26/Q26/SX4672 Q25/黄土 外:胴部上位へ下位自然 地 内:胴部上位へ底面自然 地	

武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類 (PL.25・26 第38図)

単位:cm

No	器種	法色/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備考	備考
80	瀬戸・美濃 四耳 瓦葺	口: 13.0 高: 26.7 底: 33.1 径: 良好 色: 淡青色	粗砂粒 精製 須土質 1/3	口縁部:短く内傾して立ち上がり/底 部を外方に厚くする/胴部上位に耳が 2つくり 胴部:1位で大きく張る/胴形	外:口縁部へ胴部上位回転ナゲ 内:口縁部へ胴部上位回転ナゲ	武家屋敷A群 K25/SX4678 R23/SF4652 Q22・26/S4631黄土 Q28・29/S4441 外:胴部ヘクによる電輪	
81	越前焼 鉢	口: 57.3 高: 51.3 底: 59.2 径: 22.7 径: 良好 色: 淡茶褐色	粗砂粒 白色粒子 硬質 4/5	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口 縁部は高く凹む/口唇部上位に浅い凹 線が入る/口唇部内側に浅い段をもつ /シノーブなつくり 胴部:上位で大きく張る/上位へ真直 線にかけて窄まる 底部:平皿	外:口縁部口唇部/胴部下位へ下位 ナゲ/胴部上位に2種類1組のヘク記 号 内:口縁部口唇部/胴部上位へ下位 指痕後6段	武家屋敷A群 R28/SX4083 Q23/S44031黄土 C26/SX4669 外:胴部上位へ下位淡 色に着色	
82	青磁 輪花 皿	口: 20.6 高: 3.8 底: 良好 色: 透オシノビ色	精製 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口唇部に切 り込み	外:黒文 内:黒文	武家屋敷A群 N27/SF4646	
83	十郎器 小皿	口: 6.1 高: 1.5 底: 2.6 径: 良好 色: 粗茶色	粗砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部へ底面ナゲ 内:口縁部へ底面ナゲ	武家屋敷A群 L26/SX4692	

## 5. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点
						備考
86	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.5 底: 3.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部~底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692
	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.3 底: 2.8 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692
87	土師器 小皿	口: 6.3 高: 1.2 底: 3.6 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口唇部外面に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692 片ニ状に重む
	土師器 小皿	口: 8.5 高: 2.1 底: 3.2 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口唇部外面に段あり/口唇部内側に施面をもつ 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ/体部下位に指頭痕 内: 口縁部ナデ/底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692
88	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.4 底: 2.7 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は上方へツマミ出す 底部: 丸底	外: 口縁部~底部ナデ/体部下位に指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692
	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.4 底: 2.4 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部~底部ナデ/体部下位に指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692
89	土師器 小皿	口: 6.3 高: 1.5 底: 2.6 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部~底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692 外・片口状に重む
	土師器 小皿	口: 6.5 高: 1.4 底: 2.8 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ/体部に指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692
90	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.8 底: 4.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部~底部ナデ/体部に指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4692
	土師器 小皿	高: 1.8 底: 6.8 径: 良好 焼色: 透り灰色	精微 1/8	底部: 高台はハの字に陥りゆる/高台端部は平坦/端部外側に段状	内: 底部/皿底ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4695
91	土師器 小皿	口: 8.9 高: 2.1 底: 4.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部はツマミ出す 底部: 丸底	外: 口縁部~底部ナデ/体部に指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4644 重む
	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.8 底: 4.8 径: 良好 焼色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部内側に施面をもつ/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I25/SX4644
92	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.3 底: 2.6 径: 良好 焼色: 赤褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部はツマミ出す 底部: 丸底	外: 口縁部~底部ナデ/体部に指頭痕 内: 口縁部~底部ナデ	武家屋敷A群 I26/SX4644
	青磁 盤	径: 良好 色: 透り灰色	精微 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる	外: 口縁部に縁刻花文/体部下位に凹 内: 無文	武家屋敷A群 X26/SX4642
93	土師器 小皿	口: 15.3 高: 1.8 径: 良好 焼色: 透り灰色	精微 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口縁部を花弁状とする	外: 無文 内: 無文	武家屋敷A群 N26/SX4642

単位:cm

No	器種	注量/施成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点	
						備考	
99	白磁 甌	口: 14.0 高: 2.6 施: 良好 色: 透白褐色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口縁部中に段をもつ		武家屋敷A群 N26/SD4642	N20/SA1553-甌土 M27・28床十下礎土
100	白磁 甌	口: 16.0 高: 3.0 施: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに外反して立ち上がる/ 口唇部は丸く収める		武家屋敷A群 N26/SD4642	
101	白磁 皿	口: 15.0 高: 2.4 施: 良好 色: 透灰色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は外方へ小さく屈曲し 丸く収める		武家屋敷A群 N26/SD4642	
102	白磁 皿	口: 15.0 高: 3.0 施: 良好 色: 透灰白色	精緻 1/8	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は外反する/口唇部は 丸く収める		武家屋敷A群 N26/SD4642	
103	白磁 皿	高: 0.8 底: 10.0 施: 良好 色: 透白褐色	精緻 1/10以下	底部:平底/底部周縁を若干ケズリ出 す	内:底面にヘラガキ文	武家屋敷A群 N26/SD4642	
104	白磁 皿	施: 良好 色: 透白褐色	精緻 1/10以下	底部:平底	内:底面にヘラガキ文	武家屋敷A群 N26/SD4642	
105	白磁 皿	高: 1.9 底: 10.6 施: 良好 色: 透白褐色	精緻 1/10以下	底部:平底	外:底部河縁部軸切り痕 内:底面にヘラガキ文	武家屋敷A群 N26/SD4642 M26/礎土	
106	白磁 皿	施: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/非常に薄手のつくり	外:無文 内:縁部草花文	武家屋敷A群 N26/SD4642 定窯白磁	
107	白磁 皿	口: 15.4 高: 3.0 施: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口縁部中に段をもつ 底部:平底	外:無文 内:底面にヘラガキ文	武家屋敷A群 N26/SD4642 G20/遺構内	
108	中国 鉄精 大日鏡	口: 12.8 高: 6.2 施: 良好 色: 黒色	精緻 1/6	口縁部はやや内湾して斜め外方へ立ち 上がり、口縁部上位で上方へ傾曲。 口唇部は丸く外反し丸く収める	外:口縁部へ体部下位回転ナデ 内:口縁部へ体部下位回転ナデ	武家屋敷A群 N26/SD4642 M25・26/礎十 外:体部下位軸ハゲ	

## 武家屋敷B群包含層出土陶磁器類 (PL.26~28 第39~41頁)

単位:cm

No	器種	注量/施成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点	
						備考	
109	越前焼 飯鉢	口: 42.6 高: 8.7 施: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上る/ 口唇部は平出/口唇部内側に段をもつ	外:口縁部へ体部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ 内面に幅2.8cm・9条の刻目	武家屋敷B群 T23/遺構面 U22/遺構面	
110	越前焼 加鉢	口: 43.0 高: 15.5 施: 17.7 施: 不良 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に段をもつ	外:口縁部へ体部回転ナデ/底面に焼 成前の縄目痕 内:口縁部回転ナデ/体部下位へ基部 彫刻 内面に幅2.7cm・10条の刻目	武家屋敷B群 T22/遺構面 U23/遺構面 外:胴部中位以下マ ヤケ	
111	越前焼 鉢	口: 28.7 高: 17.2 施: 32.8 施: 不良 色: 明灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/5	口縁部:内湾して立ち上がる/口唇部 は平出/口唇部外側を上方へややツツ ミ出す/縁鉢形	外:口縁部へ体部回転ナデ 内:口縁部へ体部回転ナデ	武家屋敷B群 A24/遺構内 外:胴部下位ス付着 内:胴部下位ス付着	
112	越前焼 鉢	口: 23.8 高: 6.0 施: 良好 色: 淡褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平出/口唇部内側に段をもつ	外:口縁部へ体部回転ナデ 内:口縁部へ体部回転ナデ	武家屋敷B群 B21/茶色土 B21・22/砂利層	
113	上野器 小皿	口: 13.9 高: 2.2 底: 7.0 施: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上る/ 口唇部はやや外反して唇曲/口唇 部は丸く収める/口唇部外面に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部へ底面ヨコナデ	武家屋敷B群 B21/黄色粘土	

## 5. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/高さ/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
114	土師器 小皿	口: 13.8 高: 2.1 底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部無文様 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 型作り	武家屋敷B群 R21/黄色粘土
115	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.1 底: 4.4 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部木割整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 型作り	武家屋敷B群 C19/遺構面
116	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.5 底: 2.8 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ/体部形跡残 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 A24/遺構面
117	土師器 小皿	口: 6.9 高: 1.6 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ/体部形跡残 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 A24/遺構面
118	土師器 小皿	口: 7.8 高: 1.4 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 1/2	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 A22/遺構面
119	土師器 小皿	口: 7.1 高: 1.5 底: 2.6 焼: 良好 色: 赤褐色	埴砂粒 軟質 4/5	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ/体部形跡 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 A24/遺構面 外:口縁部スス付着
120	土師器 小皿	口: 6.3 高: 1.2 底: 2.6 焼: 良好 色: 黄褐色	埴砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 R21/遺構面 外:口縁部スス付着
121	土師器 小皿	口: 7.1 高: 1.5 底: 3.3 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ/体部形跡 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 A24/遺構面
122	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.5 底: 3.1 焼: 良好 色: 黄白色	埴砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/底部無文様 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷B群 T22/遺構面
123	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.5 底: 2.8 焼: 良好 色: 桃白色	埴砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 A26/遺構面 片口状に劣化
124	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.5 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 3/4	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ/体部上段に形 跡残 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 A21/遺構面 片口状に劣化
125	土師器 小皿	口: 9.7 高: 2.0 底: 4.4 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷B群 A22/遺構面 片口状に劣化 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
126	土師器 小皿	口: 10.7 高: 2.3 底: 5.5 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部外面に段 あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷B群 B27/遺構面 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
127	土師器 小皿	口: 10.2 高: 2.5 底: 4.2 焼: 良好 色: 橙褐色	埴砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部～底部ヨコナデ	武家屋敷B群 V25/遺構面 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着



## 5. 遺物

単位:cm

No.	器種	法色/地色/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点
						備考
142	土師器 小皿	口: 8.7 高: 2.0 底: 3.2 施: 良好 色: 淡褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/底面無調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷3群 E26/遺構南 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
		口: 9.7 高: 2.0 底: 4.4 施: 良好 色: 褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷3群 A22/遺構南 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
144	土師器 小皿	口: 8.5 高: 2.2 底: 4.5 施: 良好 色: 褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部で外傾する/口唇部は上方へツ マミ出し丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷3群 A22/遺構南 片口状に歪む 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
		口: 9.2 高: 1.9 底: 4.4 施: 良好 色: 褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部で外傾する/口唇部は上方へツ マミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	武家屋敷3群 I24/遺構南 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
146	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.7 底: 3.9 施: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷3群 Q25/遺構南 片口状に歪む
		口: 8.2 高: 2.0 底: 3.9 施: 良好 色: 淡灰色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外傾する/口唇部は斜め 外方へツマミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/底面無調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 歪作り	武家屋敷3群 Q25/遺構南 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
148	土師器 小皿	口: 8.5 高: 2.1 底: 2.7 施: 良好 色: 淡灰色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は口縁部上端を上方へツマミ 出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/底部無調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 歪作り	武家屋敷3群 C19/遺構南 外:口縁部一部スス付 着
		口: 6.1 高: 1.4 底: 2.4 施: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷3群 E24/遺構南 片口状に歪む 外:口縁部一部スス付 着
150	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.5 底: 3.0 施: 不良 色: 白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外傾する/口唇部は上方 へツマミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷3群 R25/遺構南 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
		長: 4.3 幅: 3.9 高: 1.4 施: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部:左右口縁部を内側に歪げる/ 口唇部は丸く収める 底部:平皿	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷3群 R21/黄色土
152	土師器 短環状	口: 7.6 高: 3.0 底: 8.4 施: 良好 色: 淡褐色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:短く外反して立ち上がる/口 唇部は丸く収める 胴部:扁球形/胴部中位で張る	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	武家屋敷3群 A24/黄色土
		口: 10.7 高: 6.9 底: 4.4 施: 良好 色: 褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口縁部上位でやや上方へ屈曲。 口唇部は斜め外傾し丸く収める 底部:削り出し高弁	外:口縁部～底部下位回転ナデ 内:口縁部～底部下位回転ナデ	武家屋敷3群 黄十 武家屋敷3群 表土 外:底部下位輪ハゲ
154	瀬戸式 鉄輪 天目鉢	口: 11.4 高: 5.9 底: 5.0 施: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口縁部上位でやや上方へ屈曲。 口唇部は短く外傾し丸く収める	外:口縁部～底部下位回転ナデ 内:口縁部～底部下位回転ナデ	武家屋敷3群 Q25/地土 外:口縁部輪ハゲ/底部 下位輪ハゲ
		口: 12.2 高: 7.0 底: 4.8 施: 不良 色: 白褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:短く外反して立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口唇部は斜め外方 へ立ち上り、口唇部上位でやや上 方へ屈曲。口唇部は短く外傾し丸く 収める/底部:削り出し高弁	外:口縁部～底部下位回転ナデ 内:口縁部～底部下位回転ナデ	武家屋敷3群 表土 外:底部下位輪ハ ゲ

No	器種	寸法/構成/色調	粘土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
156	瀬戸美濃 鉄輪 大日鏡	口: 12.2 高: 3.2 底: 良好 色: 黒色	整線 1/3	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲、口唇部は短く外傾し丸く収める	外: 口縁部へ一部下位同転ナデ 内: 口縁部へ一部下位同転ナデ	武家屋敷B群 B24/表土
157	瀬戸美濃 鉄輪 大日鏡	口: 12.6 高: 5.7 底: 良好 色: 黒色	極砂粒 整線 1/8	口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がり、二縁部上位でやや上方へ屈曲、口唇部は短く外傾し丸く収める	外: 二縁部へ一部下位同転ナデ 内: 二縁部へ一部下位同転ナデ	武家屋敷B群 23/表土 外: 一部下位埋ハゲ
158	瀬戸美濃 鉄輪 大日鏡	口: 11.6 高: 5.0 底: 良好 色: 褐色	極砂粒 取線 1/8	口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がり、口縁部上位で上方へ屈曲、口唇部は短く外傾し丸く収める	外: 口縁部へ一部下位同転ナデ 内: 口縁部へ一部下位同転ナデ	武家屋敷B群 B20/茶褐色土 外: 一部下位埋ハゲ 埋埋差も急し
159	瀬戸美濃 鉄輪 大日鏡	口: 11.8 高: 5.8 底: 良好 色: 黒色	極砂粒 精線 1/8	二縁部: やや内湾して外方へ立ち上がり、口唇部で外傾する/口唇部は丸く収める	外: 口縁部へ一部下位同転ナデ 内: 口縁部へ一部下位同転ナデ	武家屋敷B群 225/遺構面 外: 一部下位鉄輪
160	瀬戸美濃 鉄輪 水筒	口: 2.6 高: 2.6 底: 5.6 底: 3.8 底: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精線 4/5	口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がり、口唇部は丸く収める 胴部: 凹線形/口位で大きく変る径0.4cmの注口が中心 底部: 平底	外: 口縁部へ一部同転ナデ/底部同転 糸切り痕 内: 口縁部へ一部同転ナデ	武家屋敷B群 表土
161	瀬戸美濃 鉄輪 水筒	高: 7.0 高: 8.0 底: 4.0 底: 良好 色: 二茶色	極砂粒 精線 1/4	胴部: 胴部下位で最大径をもつ/内湾して立ち上がる 底部: 平底	外: 胴部同転ナデ 内: 胴部同転ナデ	武家屋敷B群 A21/表土 I21/表土 T23/表土 外: 胴部下位まで埋埋
162	灰輪 小皿	口: 12.0 高: 4.9 底: 良好 色: 透灰黄色	精線 1/8	二縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/二唇部は丸く収める	外: 口縁部同転ナデ 内: 口縁部同転ナデ	武家屋敷B群 A26/表土
163	灰輪 小皿	口: 8.8 高: 2.5 底: 4.8 底: 良好 色: 透輝緑色	精線 2/3	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は短く外反する/口唇部は丸く収める 底部: 削り出し高台	外: 口縁部同転ナデ/底部トチン痕 内: 口縁部同転ナデ/底部中央に梅文	武家屋敷B群 T18/暗褐色土 外: 底部中央埋ハゲ
164	灰輪 小皿	口: 9.2 高: 2.4 底: 4.8 底: 良好 色: 透灰緑色	精線 1/2	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は短く外反する/口唇部は丸く収める 底部: 削り出し高台	外: 口縁部同転ナデ/底部トチン痕 内: 口縁部同転ナデ/底部中央に梅文	武家屋敷B群 S23/遺構面 T27/SF1649
165	灰輪 曹皿	高: 3.5 高: 2.4 底: 良好 色: 透オリーブ色	精線 1/6	胴部: 胴部下位は寛線状に斜め外方へ立ち上がる/胴部中央から上方へ立ち上がる 底部: 十字形の凹線4脚(推定)	外: 胴部同転ナデ 内: 胴部同転ナデ	武家屋敷B群 C20/遺構面 I21・22/砂利層
166	青磁 碗	口: 11.0 高: 4.4 底: 良好 色: 透オリーブ色	精線 1/6	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 暗文	武家屋敷B群 A24/遺構面
167	青磁 碗	口: 14.0 高: 5.4 底: 良好 色: 透オリーブ色	精線 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 暗文	武家屋敷B群 B24/遺構面
168	青磁 碗	口: 14.8 高: 3.7 底: 良好 色: 透オリーブ色	精線 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 暗文	武家屋敷B群 Q24/茶褐色土
169	青磁 碗	口: 14.0 高: 6.3 底: 良好 色: 透オリーブ色	精線 1/10以下	口縁部: 内湾して外上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		武家屋敷B群 T22/遺構面 外: 口縁部下位に彫り痕
170	青磁 碗	高: 良好 色: 透オリーブ色	精線 1/10以下	口縁部: 内湾して外上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		武家屋敷B群 B21/黄色粘土
171	青磁 碗	高: 良好 色: 透オリーブ色	精線 1/10以下	口縁部: 内湾して外上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		武家屋敷B群 B21/黄色粘土
172	青磁 碗	高: 2.8 底: 6.0 底: 良好 色: 透オリーブ色	精線 1/8	底部: 高台輪面は面取り/高台内側で接地	内: 底部中央に陰刻「龍」	武家屋敷B群 B21/黄色粘土(土層)

## 5. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/施色/色調	胎土 残存	形 次	調整 / 文様	出土地点 備 考
173	青磁 碗	高: 2.8 底: 4.6 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 底部:高台端面は平坦/高台内側で接 地	外:体部に下位横文	武家屋敷8群 C24・25/砂利層(下層)
174	青磁 碗	口: 16.2 高: 7.7 底: 8.2 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 2/3	口縁部:強く内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は外方に折曲/口唇部は丸 く収める 底部:高台端面はやや丸みをもつ	内:底部中央に陰刻圓線・花文	武家屋敷8群 A22・24/遺構面 外:底部同縁輪ハゲ
175	青磁 輪花皿	口: 11.0 高: 2.0 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収め、縁い直次に成 形し花弁状する/外面に凸面、内面に 凹面の縞りをもつ	外:無文 内:無文	武家屋敷8群 A21/遺構面I Y23/遺構面II U23/遺構面II
176	青磁 輪花皿	口: 11.4 高: 2.7 底: 5.4 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/2	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収め、縁い直次に成 形し花弁状する/外面に凸面、内面に 凹面の縞りをもつ	内:底部中央に陰刻花文	武家屋敷8群 C23/534097表上 C23・24/534635表上 外:底部同縁輪ハゲ
177	青磁 輪花皿	口: 12.0 高: 2.5 底: 3.8 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/2	口縁部:やや外反して立ち上がる/口 唇部に凹みをもぐらし花弁状する 底部:高台端面は面取り	内:底部中央に陰刻花文	武家屋敷8群 A22/遺構面 A26/遺構面
178	青磁 輪花皿	口: 10.6 高: 2.7 底: 5.0 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/2	口縁部:やや外反して立ち上がる/口 唇部に凹みをもぐらし花弁状する 底部:高台端面は平坦/端部全体で接 地	内:口縁部に陰刻花文	武家屋敷8群 Q26/遺構面 外:底部輪ハゲ
179	青磁 輪花皿	口: 10.0 高: 2.0 底: 5.2 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/6	口縁部:やや内湾して立ち上がる/口 唇部で外方に折曲/口唇部に凹みをも ぐらし花弁状する 底部:高台端面は丸みをもつ	内:口縁部に陰刻蔓草花文	武家屋敷8群 V21/耕作土 R22/耕作土 外:底部同縁輪ハゲ
180	青磁 皿	高: 1.7 底: 4.8 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/4	底部:高台端面は平坦		武家屋敷8群 B21/黄色粘土(下層) 外:底部輪ハゲ 径約10.82
181	青磁 輪花皿	口: 12.8 高: 2.7 底: 8.8 径: 良好 色: 透オリーブ 灰色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部に凹み入れ花弁状する 底部:高台端面は脱弁		武家屋敷8群 T23/遺構面 外:高台端面輪ハゲ 径約10.103
182	青磁 皿	高: 2.4 底: 10.0 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/6	口縁部:強く内湾して外方へ立ち上 がる 底部:高台端面はやや丸みをもつ	内:底部中央に陰刻花文	武家屋敷8群 P24/耕作土 T22/遺構面 T25/遺構面II 外:高台端面輪ハゲ
183	青磁 鉄文茶 瓶	口: 3.1 高: 29.8 腹: 14.6 底: 8.6 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/4	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口縁 部で凹状にむら/胴部中央に鈍い 尖角をもつ 胴部:直線状/胴部下位に鈍い凹線2条 底部:高台端面は面取り	外:軟輪が既に見られる	武家屋敷8群 P26/表上 Q25/表上 S23/耕作土 外:高台端面輪ハゲ
184	青磁 茶碗	口: 12.0 高: 3.2 径: 良好 色: 透オリーブ色	精緻 1/10以下	口縁部:橋形/直線状に立ち上がる/口 唇部は湾く凹く/口唇部内側突出	外:口縁部上位に尖線1/口唇部下位 に尖線2	武家屋敷8群 A21/遺構面(上層) 径約10.112
185	青磁 花入	口: 6.8 高: 6.4 底: 良好 色: 透緑青色	精緻 1/10以下	口縁部:上方へ垂直に立ち上がる 底部:底面は2.1cm上げ底/高台端面は 丸く収める	外:口縁部にベンガラ	武家屋敷8群 S23/遺構面 U21/耕作土 外:口唇部、高台端面 輪ハゲ
186	灰穴 杯	口: 6.2 高: 3.6 底: 2.0 径: 良好 色: 透青白色	精緻 1/2	口縁部:直線状に外傾して立ち上 がる/口唇部はやや外反し口唇部は丸く収 める 底部:高台は鋭角	外:口縁部上位に圓線1、具頸花文/ 高台に圓線1 内:口唇部に具頸圓線/底部中央に大 溝石	武家屋敷8群 P24/黄褐色土 P25/遺構面 Q25/表上 外:高台端面輪ハゲ
187	灰穴 杯	口: 6.4 高: 3.5 底: 2.4 径: 良好 色: 淡青白色	精緻 1/2	口縁部:直線状に外傾して立ち上 がる/口唇部はやや外反し口唇部は丸く収 める/非常に薄手 底部:高台は鋭角	外:口縁部上位に圓線1、具頸草花文 /高台に圓線2/底部中央に「龜」 内:口縁部に具頸圓線1/底部中央に 大溝石	武家屋敷8群 P24/黄褐色土 P25/表上 外:高台端面輪ハゲ



単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備 考	
188	染付杯	口: 12.6 高: 3.4 底: 2.4 底: 良好 色: 透青白色	精緻 1/2	口縁部:直線状に外傾して立ち上がる/ 口端部はやや外反し口唇部は丸く収める/ 底部:高台は鋭角	外:口縁部に丸線1・呉茛花文/底 部に丸線2/底部中央に「福」 内:口縁部に呉茛花文2/底部中央に 太陽石	武家屋敷B群 Q25/礎土 外:高台南面輪ハゲ	
189	染付杯	口: 6.6 高: 3.5 底: 2.4 底: 良好 色: 透青白色	精緻 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口端部はやや外反し口唇部は丸く収める 底部:高台は鋭角	外:口縁部に呉茛花文1・草花文/底 部に呉茛花文2/底部中央に「福」 内:口縁部上位に呉茛花文1/底部 に呉茛花文2/太陽石	武家屋敷B群 P25/礎土 Q25/礎土 外:高台南面輪ハゲ	
190	染付碗	口: 14.6 高: 5.3 底: 8.2 底: 良好 色: 透青白色	精緻 1/2	二縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 二唇部は丸く収める 底部:高台は面取り	外:口縁部上位に呉茛花文1・呉 須線/高台に呉須線1 内:口縁部上位に呉須花文2/底部 中央に呉須線2・草花文	武家屋敷B群 P25/礎土 Q25/礎土 外:高台南面輪ハゲ	
191	染付皿	口: 9.4 高: 2.6 底: 2.0 底: 良好 色: 透灰色	精緻 2/3	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部はやや外反し口唇部は丸く収める 底部:高台は面取り	外:口縁部に呉茛花文1・草花文/底 部に呉須線1 内:口縁部上位に呉須花文2/底部 に呉須線2/十字文	武家屋敷B群 Q24/茶褐色土 外:高台南面輪ハゲ	
192	染付皿	口: 10.6 高: 2.7 底: 4.4 底: 良好 色: 透青灰色	精緻 1/4	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:高台は両縁削り出し	外:口縁部に呉須線1・草花文/口 縁部中央に呉須線1 内:口縁部上位に呉須線1/中央に 丸線1/底部に呉須線1/草文	武家屋敷B群 P24/茶褐色土 外:高台南面輪ハゲ	
193	染付皿	高: 2.4 底: 3.0 底: 良好 色: 透青白色	精緻 1/4	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:高台は底部中央を削る	外:口縁部に呉須線 内:底部に呉須線	武家屋敷B群 P25/礎土 外:高台南面輪ハゲ	
194	染付皿	口: 11.6 高: 2.6 底: 2.6 底: 良好 色: 透青白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部はやや外反し口唇部は丸く収める 底部:高台は鋭角	外:口縁部に呉須線1・草花文/底 部に呉須線1 内:口縁部上位に呉須線2/底部 に呉須線2/土取り跡	武家屋敷B群 Q24・25/砂利部(下層) 外:高台南面輪ハゲ	
195	染付皿	高: 2.2 底: 11.6 底: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	底部:高台は鋭角	外:底部・高台に呉須線平円文 内:底部周縁に呉須線2・草花文	武家屋敷B群 A21/新作土 外:高台南面輪ハゲ	
196	染付皿	口: 16.6 高: 2.6 底: 良好 色: 透青白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部はやや外反し口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に丸線2/中位に呉須 線草文 内:二縁部上位に呉須線1/中位に 呉須線	武家屋敷B群 Q25/礎土	
197	白磁皿	口: 8.4 高: 2.1 底: 3.0 底: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部はやや外反し口唇部は丸く収める 底部:高台は鋭角		武家屋敷B群 P25/礎土	
198	白磁皿	口: 13.2 高: 2.7 底: 7.9 底: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/ 底部:平底		武家屋敷B群 B23/礎土	

武家屋敷B群 評選構出土陶磁器類(Pl. 28~30 第41~44図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備 考	
199	越前焼 燗鉢	口: 32.4 高: 7.3 底: 不良 色: 輝褐色	粗砂粒 白色砂子 軟質 1/10以下	二縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 二唇部は丸く収める/口端部内側に 段をもつ	外:口縁部一帯部凹割ナゲ後コナ ダ 内:口縁部内凹ナゲ 内面に幅3.0cm・11条の窪目	武家屋敷B群 C22/SB4635 C23/礎土	
200	越前焼 燗鉢	口: 90.0 高: 41.0 底: 94.0 底: 良好 色: 淡赤色	粗砂粒 白色砂子 軟質 1/8	口縁部:短く外傾して立ち上がる/ 口端部は平切/二縁部上位に浅い凹割が 入る/口端部内側に浅い段をもつ/ ノブをつくり 胴部:上位で大きくゆる/上位へ下位 にかけてゆるまる	外:口縁部コナナゲ/胴部上位へ下位 ナゲ/胴部上位へ下位ナゲ/胴部上位に 2輪筋;底の押印文(大・椿子文) 内:口縁部コナナゲ/胴部上位へ下位 横筋4~5段	武家屋敷B群 C23・24/SB4635 C23/SB4697 B20・21茶褐色土 外:胴部上位隆起 内:胴部中央一帯隆起	
201	白磁皿	高: 2.0 底: 7.4 底: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立 ち上がる 底部:高台は面取り	外:無文	武家屋敷B群 C23・24/SB4635 C23/SB4697	

## 5. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/泥色/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
202	白磁皿	口: 18.2 高: 3.7 底: 良好 色: 青白色	精磁 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:無文	武家屋敷3群 C23・24/SF4636 B20/SK4697
203	染付皿	口: 11.1 高: 2.6 底: 6.3 底: 良好 色: 透青白色	精磁 1/6	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:高台縁部はやや丸みをもつ	外:口縁部1位に呉須圖様1・呉須帯草文 内:口縁部上位に團扇1・底部中央に呉須圖様2・呉須帯	武家屋敷3群 C23・24/SF4635 外:高台縁部縁ハゲ
204	染付皿	口: 15.1 高: 2.0 底: 良好 色: 透青白色	精磁 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部はやや外反する/口唇部は丸く収める 底部:高台縁部はやや丸みをもつ	外:口縁部上位に呉須圖様2・呉須帯草文 内:口縁部:呉須帯	武家屋敷3群 B20・21/SF4632 B20/茶褐色土
205	染付皿	口: 10.0 高: 2.0 底: 良好 色: 透青白色	精磁 1/4	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部はやや外反する/口唇部は丸く収める	外:口縁部:呉須圖様1・草花文 内:口縁部1位に呉須圖様1/底部に呉須帯	武家屋敷3群 C20/SF4632
206	染付皿	口: 12.6 高: 2.7 底: 7.0 底: 良好 色: 透青白色	精磁 1/2	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部はやや外反する/口唇部は丸く収める 底部:高台は鋭角	外:口縁部に呉須圖様1・草花文/高台に呉須圖様 内:口縁部上位に呉須圖様1/底部に呉須圖様2・花文「	武家屋敷3群 C20/SF4632 C20/濃黄赤土 R20/茶褐色土
207	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.1 底: 4.8 底: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部コノナデ/底部ナゲ 内:口縁部コノナデ/底部ナゲ	武家屋敷3群 C20/SF4653 内:口縁部スス付着
208	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.1 底: 4.4 底: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部はやや外反する/口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部コノナデ/底部調整 内:口縁部コノナデ/底部ナゲ 製作リ	武家屋敷3群 E21/SF4651 片口縁に墨E 外:全体スス付着 内:全体スス付着
209	白磁皿	口: 10.0 高: 2.8 底: 良好 色: 透青白色	精磁 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		武家屋敷3群 E28/SF4664
210	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 3.4 底: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部コノナデ/底部調整 内:口縁部コノナデ/底部ナゲ 製作リ	武家屋敷3群 E28/SF4664 外:口縁部スス付着 内:スス付着
211	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.7 底: 3.2 底: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部コノナデ/底部調整 内:口縁部コノナデ/底部ナゲ 製作リ	武家屋敷3群 E28/SF4664
212	灰持 小皿	口: 11.4 高: 2.5 底: 6.0 底: 良好 色: 灰黄色	結磁 1/6	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部はやや外反する/口唇部は丸く収める 底部:高台は削り出し	外:口縁部同輪ナゲ/底部トナシ 内:口縁部同輪ナゲ/底部中央に菊花文押印	武家屋敷3群 D24/SK4671
213	磁前焼 壺	口: 90.0 高: 59.0 底: 98.4 底: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 密緻 1/2	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口唇部は直線状に突弁状の接合/口唇部内側に段をもつ/シャープなつくり 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部コノナデ/胴部上位へドナゲ/胴部1位に1種類のヘラ記号、2種1線の押印文(本+唐子文) 穴:口縁部コノナデ/胴部上位へドナゲ/成形時の指痕5~6段	武家屋敷3群 P26・Q26/SK4672 123/SF4649 Q25/焼上
214	磁前焼 壺	口: 78.0 高: 64.0 底: 102.0 底: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 密緻 1/3	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口唇部は直線状に突弁状の接合/口唇部内側に段をもつ/シャープなつくり 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部コノナデ/胴部上位へドナゲ/胴部上位に1種類のヘラ記号、2種1線の押印文(本+唐子文)/胴部上位に削りヘラ跡を文様 穴:口縁部コノナデ/胴部上位へドナゲ/成形時の押痕11~12段	武家屋敷3群 P26・Q26/SK4672 Q25/焼上 外:胴部上位へ中心目 然焼
215	磁前焼 壺	口: 91.0 高: 56.8 底: 96.0 底: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 稀疎 粗重緻 1/6	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口唇部は直線状に突弁状の接合をもつ/シャープなつくり 胴部:上位で曲曲気味に張る	外:口縁部コノナデ/胴部上位ナゲ/胴部中央へドナゲ/口唇部は直線状に突弁状の接合をもつ/シャープなつくり 内:口縁部コノナデ/胴部上位へドナゲ/成形時の指痕5~6段	武家屋敷3群 P26・Q26/SK4672 Q25/焼上
216	磁前焼 壺	口: 81.4 高: 53.7 底: 88.6 底: 良好 色: 淡茶灰色	極砂粒 白色粒子 密緻 1/6	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口唇部は直線状に突弁状の接合をもつ/シャープなつくり 胴部:上位で曲曲気味に張る	外:口縁部コノナデ/胴部上位へドナゲ/胴部中央へドナゲ/口唇部は直線状に突弁状の接合をもつ/シャープなつくり 内:口縁部コノナデ/胴部2位へドナゲ/成形時の指痕5~6段	武家屋敷3群 P26・Q26/SK4672 Q25/焼上

単位:cm

No	器種	高さ/口径/色調	胎土 残存	形状	調査 / 文様	出土地点 備考
217	越前焼 甕	口: 62.6 高: 33.5 底: 91.0 色: 良好 地: 淡茶色	褐色粒 白色粒子 曜線 1/8	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部下位に突帯状の稜線をもつ / 口縁部内側に段をもつ / シヤープなつくり 胴部: 上段で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ中位ナデ / 胴部上位に2種1組の押印文(本+格子文) 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 成形時の指痕線5段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部上位へ中位ナデ
		口: 86.0 高: 53.7 底: 92.4 色: 良好 地: 赤茶色	褐色粒 白色粒子 曜線 1/8	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部下位に突帯状の稜線をもつ / 口縁部内側に段をもつ / シヤープなつくり 胴部: 上段で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ中位ナデ / 胴部上位に2種1組の押印文(本+格子文) 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 成形時の指痕線7段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部上位へ中位ナデ
219	越前焼 甕	口: 84.0 高: 50.5 底: 88.6 色: 良好 地: 濃赤色	褐色粒 白色粒子 曜線 1/8	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部下位に突帯状の稜線をもつ / 口縁部内側に段をもつ / シヤープなつくり 胴部: 上段で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ中位ナデ / 胴部上位に2種1組の押印文(本+格子文) 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 成形時の指痕線5~6段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・P25 / 焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部上位へ中位ナデ
		口: 80.0 高: 61.0 底: 86.6 色: 良好 地: 明赤色	褐色粒 白色粒子 曜線 1/5	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部下位に突帯状の稜線をもつ / 口縁部内側に段をもつ / シヤープなつくり 胴部: 上段で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部中位へ下位ナデ / 胴部上位に1種のヘラ記号、2種1組の押印文(本+格子文) 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位成形時の指痕線7~8段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 T23/SR4649 Q25・P25 / 焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部上位へ中位ナデ
221	越前焼 甕	口: 88.0 高: 64.6 底: 94.0 色: 良好 地: 灰色	褐色粒 白色粒子 軟質 灰黒質 1/4	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部下位に段をもつ / 緩斜の上に糸帯が1乗入る / 肩位上げ 胴部: 上段で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部中位へ下位ナデ / 胴部上位に1種のヘラ記号 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ中位成形時の指痕線3段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・P25 / 焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部中位焼土
		口: 80.0 高: 78.0 底: 93.0 色: 良好 地: 濃赤色	褐色粒 白色粒子 曜線 1/2	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は浅く凹む / 口縁部下位に段をもつ / シヤープな仕上げ 胴部: 上段で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 胴部上位に1種のヘラ記号、2種1組の押印文(本+格子文) 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 成形時の指痕線7~8段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・P25 / 焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部中位焼土
223	越前焼 甕	口: 85.0 高: 80.0 底: 88.0 色: 良好 地: 暗灰色	褐色粒 白色粒子 曜線 1/5	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部下位に段をもつ / シヤープな仕上げ 胴部: 上段で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 胴部上位に1種のヘラ記号、2種1組の押印文(本+格子文) 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位指痕線4~5段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・P25 / 焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部中位焼土
		口: 93.0 高: 92.8 底: 91.0 色: 27.6 地: 良好 地: 濃茶褐色	褐色粒 白色粒子 軟質 2/3	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部下位に段をもつ / シヤープな仕上げ 胴部: 上段で大きく張る 底部: 平坦	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位に1種のヘラ記号、2種1組の押印文(本+格子文) 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位指痕線11~12段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・P25 / 焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部中位焼土
225	越前焼 甕	口: 90.0 高: 38.5 底: 99.0 色: 良好 地: 濃赤色	褐色粒 白色粒子 曜線 1/10以下	口縁部: 短く上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部下位に段をもつ / シヤープな仕上げ 胴部: 上段で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 胴部上位に2種1組の押印文(本+格子文) 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 指痕線4段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・P25 / 焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部中位焼土
		口: 50.9 高: 73.0 底: 71.7 色: 26.6 地: 良好 地: 濃赤色	褐色粒 白色粒子 軟質 2/3	口縁部: 短く外傾して立ち上がる / 口縁部は浅く凹む / 口縁部下位に段をもつ / シヤープな仕上げ 胴部: 上段で大きく張る 底部: 平坦	外: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 指痕線8段 / 胴部下位ニビナデ2段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 T23/SR4649 Q25・P25 / 焼土 B19~21 / 遺構面
227	越前焼 甕	口: 10.0 高: 15.0 底: 18.0 色: 良好 地: 濃赤色	褐色粒 白色粒子 曜線 1/3	口縁部: 短く外傾して上方へ立ち上がる / 口縁部は平坦 / 口縁部外側に突出する 胴部: 球形 / 中位で張る	外: 口縁部へ胴部上位ヨコナデ / 胴部中位ナデ / 胴部上位に1種のヘラ記号 内: 口縁部ヨコナデ / 胴部上位へ下位ナデ / 指痕線4段	武家屋敷群 P26・Q26/SK4672 Q25・P25 / 焼土 外: 胴部上位へ中位ナデ 内: 胴部中位焼土

武家屋敷C群包合層出土土器(Pl. 30 第44図)

単位:cm

No	器種	高さ/口径/色調	胎土 残存	形状	調査 / 文様	出土地点 備考
228	土師器 小皿	口: 9.5 高: 1.8 底: 3.8 色: 良好 地: 暗褐色	褐色粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる / 口縁部でやや外反り / 口縁部は丸く取れる 底部: 平坦	外: 口縁部へ底部ナデ 内: 口縁部へ底部ナデ	武家屋敷群 新井土 外: 土師部スチ付着 内: 土師部スチ付着
		口: 3.0 高: 2.8 底: 4.4 色: 良好 地: 暗褐色	褐色粒 軟質 1/2	口縁部: 短く内傾して立ち上がる / 口縁部は丸く取れる 胴部: 扁球形 / 胴部上位で張る	外: 口縁部へ底部ナデ 内: 口縁部へ底部ナデ	武家屋敷群 新井土

## 5. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備 考	
230	白磁 碗	口: 12.0 高: 3.3 底: 良好 色: 白色	精緻 1/6	二線部: 縁やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部でやや外反/口唇部は丸く収める	外: 無文		武家屋敷C群 遺構面
		口: 9.4 高: 1.7 底: 良好 色: 白褐色	精緻 1/6	二線部: 縁やかに内湾して外方へ立ち上がる/二唇部は丸く収める	外: 無文		武家屋敷C群 遺構面
232	青白磁 碗	高: 3.9 底: 4.7 底: 良好 色: 青白色	精緻 1/6	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる 底面: 高台茶室は平坦/遺山内側で擦 痕	外: 無文		武家屋敷C群 耕作土

土製品 (PL. 30 第43図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備 考	
233	土師	高: 3.3 幅: 3.0 焼: 良好 色: 白褐色	粗砂粒 軟質 1/2	天井部: 先端は円錐状/径0.2cmの透孔をもつ 胴部: 扁球形/胴口幅0.3cm	外: ナデ 内: ナデ 手捏ね成形		武家屋敷C群 遺構面
		高: 3.1 幅: 3.0 焼: 良好 色: 白褐色	粗砂粒 軟質 1/2	天井部: 先端は円錐状/径0.2cmの透孔をもつ 胴部: 球形/胴口幅0.2cm	外: ナデ 内: 天井部シボリ/ナデ 手捏ね成形		武家屋敷A群 G23茶土上砂利層

金属器 (PL. 30 第43図)

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)				残存	材質 色調	調整・特徴	備 考	出: 地点
		長	幅	厚	重					
235	銅製水注	8.0	2.4	0.3	66.3	1/6	銅製品 青銅色	水注の湯口		武家屋敷B群 P25/遺構面
236	鉛製金具	4.7	1.0	0.1	4.1	1/1	銅製品 青銅色	外面: 4隅に径0.2cm、長さ0.4cmの透孔をもつ/胴に鋼が接する		武家屋敷C群 耕作土上
237	銅製金具	2.8	1.1	0.1	3.2	1/1	銅製品 青銅色	上縁: 0.4cm内側に折り曲げた後、さらに半分折り曲げる 下端: 内側に凹みに曲がる		武家屋敷C群 耕作土上
238	煙管	3.0	0.8	0.1	2.7	1/1	銅製品 青銅色	吸口孔径は厚0.3cm、右0.6cm		武家屋敷B群 T26/遺構面
239	革	3.4	1.0	0.4	3.0	1/2	銅製品 青銅色	木裏形/径0.4cmの円形穿孔孔	表面に剝離多し	武家屋敷B群 R24/遺構面
240	返角	2.6	1.0		3.3	1/2	銅製品 青銅色	鞘の刀装具		武家屋敷A群 N23/帯茶色土
241	紙	1.4	2.0	0.2	0.7	1/2	銅製品 青銅色			武家屋敷A群 E21/S2-3463
242	紙	0.5	1.0	0.1	0.4	1/2	銅製品 青銅色	扉部に類似文様		武家屋敷A群 G26/SF1663
243	鉄砲止	1.2	1.1	1.0	7.2	1/1	銅製品 青銅色			武家屋敷B群 R22/耕作土
244	鉄釘	4.5	1.2	0.4	3.0	1/3	銅製品 青銅色	釘頭は折り曲げた後平坦		武家屋敷B群 T19/SF1666
245	鉄釘	3.1	0.8	0.3	1.2	1/1	銅製品 青銅色	釘頭は折り曲げた後平坦		武家屋敷A群 O28/S44631墳土
246	鉄釘	7.0	0.9	1.2	7.1	1/1	銅製品 青銅色	釘頭は折り曲げた後平坦		武家屋敷A群 A/24耕作土

石製品 (PL. 30 第43図)

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)				残存	石材 色調 材質	調整・特徴	備 考	出土地点
		長径	短径	厚	重					
247	勾玉	2.1	1.0	0.8	5.0	1/2	翡翠 緑褐色 硬質	孔: 孔径0.3cm/両面穿孔	弥生時代中期	武家屋敷C群 耕作土
248	白方形 石製品	4.5	4.4	3.8	80.7	1/1	砂岩/ 緑褐色 軟質	形状: 扁球形/上・下に平面面をもつ/ 上面: 径2.6cm/中央に径1.3cm、深さ 1.2cmの穿孔あり/下面面: 径2.4cm		武家屋敷A群 Q24/遺構面 覆板No170
						4/5	粘板岩 灰白色 硬質	形状: 板状の直方体/上部部欠損/表面 面・左右側面・下面面は平滑な研面	幅面5 粒度: 密 仕1行磁	武家屋敷B群 A24/遺構面
250	磁石	11.1	5.0	2.9	320.0	4/5	砂岩 灰色 軟質	形状: 板状の直方体/上部部一部欠損/ 表面面・左右側面・下面面は平滑な研面	磁山5 粒度: 密 中磁	武家屋敷A群 T19/SF4659

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)				残存	石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長径	短径	厚	重					
251	硖石	7.5	3.5	0.7	30.0	4/5	粘岩 淡褐色 硬質	形状: 板状の直方体/上下端部欠丸/表面 裏面・左右側面は研削	表面/底面: 雷 中砥/左右側面の砥石/ 粗い磨痕	武家屋敷A群 G22/砂利層
252	バンドコ	18.9	15.8	3.0		4/5	笏石 淡灰色 軟質	形状: 半円形/左右端部欠損/裏面: 背 状に成形/平滑/裏面: 身と指合する直線 1線をつける	外: 半面凹型 内: スス付者	武家屋敷A群 H24/砂利層
253	風炉	33.0	高6.8	2.6		1/10 以下	笏石 褐色 軟質	口縁部: 平面は円形/大側に欠く 口縁部は平削/13.5cm×3.0cmの長楕 円の透孔をもつ	外: 平滑/全体被熱 内: 平滑	武家屋敷A群 M26/S34642 019/S31553埋土
254	風炉	42.6	高10.5	3.8		1/10 以下	笏石 淡緑青色 軟質	口縁部: 平面は円形/内側に欠く 口縁部丸く収める 内面: 幅2.0cmの1具でタタキ	外: 平滑/全体スス付者 内: 平滑/全体被熱	武家屋敷A群 M24・26/遺構西
255	風炉	33.2	高12.0	4.5		1/10 以下	笏石 淡褐色 軟質	胴部: 平面は円形/内湾して外方へ上 り上がる 底部: 径4.2~4.6cm、高さ2.0cmの円 柱状の脚(推定3脚)が付く 内面: 幅2.1cmの工具でタタキ	外: 平滑/全体被熱 内: 平滑	武家屋敷A群 M24
256	石壁	23.0	高10.0	2.5		1/3	笏石 淡灰色 軟質	口縁部: 平面は長楕円形/短く直線状 に外縁して持ち上がる/口縁部は直線 状部: 平滑/高さ2.3cm、平面半円形の 脚(推定4脚)が付く	外: 口縁部: 平滑/底部: 粗い磨り/全体被熱し てスス付者 内: 口縁部: 平滑/被熱/ 口縁部~底部スス付者	武家屋敷A群 M20/S14698

銭貨観察表(第45回)

単位: cm/g

No	種類	法量(最大値)				残存	時期	出土地点	No	種類	法量(最大値)				残存	時期	出土地点
		台帳番号	径	厚	重						台帳番号	径	厚	重			
257	治平元寶 3485	2.2	1.3	1.9	1/1	模造銭 中世末~近世初	武家屋敷A群 G20~23/耕作土	277	開元通寶 2834	2.3	1.0	1.6	4/5	初鑄960年	武家屋敷B群 F19/SA4632		
258	永寧通寶 4200	2.3	1.5	3.3	1/1	模造銭 中世末~近世初	武家屋敷A群 I19/SP4690	278	淳化元寶 9400	2.1	1.1	1.7	1/1	北宋 初鑄990年	武家屋敷B群 P26/SK4672		
259	祥符元寶 4262	2.2	1.2	2.9	1/1	模造銭 中世末~近世初	武家屋敷A群 I19/SP4690	279	咸平元寶 9403	2.3	2.8	3.7	1/1	北宋 初鑄998年	武家屋敷B群 P26/SK4672 2枚		
260	元祐通寶 5114	2.1	1.0	1.0	1/2	模造銭 中世末~近世初	武家屋敷A群 I21/砂利層	280	咸平元寶 10384	2.2	1.1	1.7	1/1	北宋 初鑄998年	武家屋敷B群 Q25/地上		
261	開元通寶 6189	—	1.2	0.8	1/4	唐 初鑄621年	武家屋敷A群 I20・21	281	祥符元寶 12661	2.3	1.2	1.7	1/1	北宋 初鑄1009年	武家屋敷B群 I24/遺構南		
262	嘉寧元寶 7690	2.1	1.2	1.7	1/1	北宋 初鑄1004年	武家屋敷A群 M18/遺構南	282	大聖元寶 9260	2.0	1.2	0.9	3/4	北宋 初鑄1023年	武家屋敷B群 P25/遺構南		
263	天聖元寶 5204	2.1	1.0	1.2	3/4	北宋 初鑄1023年	武家屋敷A群 I19/SI4660	283	皇寧通寶 13428	2.3	1.2	1.8	4/5	北宋 初鑄1038年	武家屋敷B群 A22/遺構南		
264	皇寧通寶 4363	2.2	1.0	2.3	1/1	北宋 初鑄1038年	武家屋敷A群 H20/遺構南	284	嘉祐元寶 13765	2.1	1.1	1.3	3/4	北宋 初鑄1056年	武家屋敷B群 A24/遺構南		
265	皇寧通寶 8029	2.2	1.1	2.0	1/1	北宋 初鑄1038年	武家屋敷A群 O25/S31641	285	熙寧元寶 944	2.2	1.5	2.5	1/1	北宋 初鑄1068年	武家屋敷B群 C20/遺構南II		
266	治平元寶 4476	2.2	1.2	2.2	1/1	北宋 初鑄1064年	武家屋敷A群 H22/膠褐色土	286	熙寧元寶 8916	2.1	1.2	0.9	1/2	北宋 初鑄1068年	武家屋敷B群 P24/紫褐色土		
267	熙寧元寶 4362	2.3	1.4	3.9	1/1	北宋 初鑄1068年	武家屋敷A群 H20/遺構南	287	熙寧元寶 10861	2.2	1.3	2.6	1/1	北宋 初鑄1068年	武家屋敷B群 R2/遺構南		
268	元祐通寶 4203	2.3	1.5	4.1	1/1	北宋 初鑄1078年	武家屋敷A群 I19/SP4690	288	熙寧元寶 12989	2.1	1.2	1.8	1/1	北宋 初鑄1068年	武家屋敷B群 V26/耕作土		
269	元祐通寶 6374	2.2	1.5	1.9	1/1	北宋 初鑄1078年	武家屋敷A群 I24/遺構南	289	永寧通寶 13130	2.3	1.5	3.3	4/5	宋 初鑄1408年	武家屋敷B群 A21/遺構南		
270	熙寧元寶 4799	2.1	1.2	2.2	1/1	北宋 初鑄1094年	武家屋敷A群 H26/遺構南	290	淳化元寶 550	1.2	1.1	1/2			武家屋敷B群 B21/黄色粘土		
271	順寧元寶 4201	2.3	1.3	2.4	1/1	北宋 初鑄1094年	武家屋敷A群 I19/SP4660	291	不明 12691	2.0	1.0	1.3	4/5	—	武家屋敷B群 L26/遺構南		
272	正隆元寶 5000	2.1	1.0	1.0	3/4	金 初鑄1157年	武家屋敷A群 I20/遺構南II	292	不明 12877	2.1	1.0	0.9	1/1	—	武家屋敷B群 A24/SX4698		
273	元祐通寶 43764	2.2	1.3	2.0	1/1	模造銭 中世末~近世初	武家屋敷B群 A24/遺構南	293	熙寧元寶 4763	2.1	1.4	1.8	1/1	北宋 初鑄1068年	武家屋敷A群		
274	祥符通寶 9401	2.3	2.0	3.1	4/5	模造銭 中世末~近世初	武家屋敷B群 P26/SK4672	294	開元通寶 14762	2.1	1.2	1.0	1/2	明 初鑄1368年	武家屋敷A群		
275	開元通寶 11174	2.5	1.2	1.2	1/2	唐 初鑄621年	武家屋敷B群 S22/遺構南	295	永寧通寶 14655	2.3	1.2	1.5	4/5	明 初鑄1408年	武家屋敷A群		
276	開元通寶 12506	2.1	1.3	1.5	4/5	唐 初鑄621年	武家屋敷B群 I23/耕作土										



今回の調査は瓜割清水の整備に伴い実施したもので、調査面積は225㎡、調査期間は平成11年(1999)11月2日～同年12月1日である(文13)。一乗谷古絵図では、調査区の東側には南陽寺が立地し、西側には朝倉氏重臣の三田崎備中守屋敷跡と記されているため、関連する遺構が検出されることが想定された。調査方法は、調査区を4分割し、南西隅から時計回りにA～D区を設定した(第47図)。

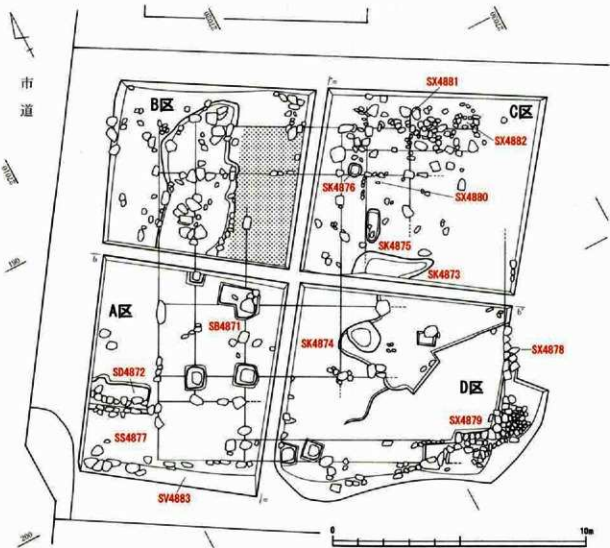
調査の結果、遺構は表土下からすぐに検出され、暗褐色土の表土と黄褐色土の整地層からなっていた(第48図)。以下、遺構の概要を述べる。

**SB4871**(PL.17 第47図) 南北約12.5m、東西約10.0mの規模を有する礎石建物であり、主軸はN29°Eに向く。南辺に東西方向を通る通路SS4877が取り付くことから、南辺に出入口を設けたと考えられる。

**SX4878・4879**(PL.17 第47図) SB4871に接して東端で検出した石敷遺構であり、南東側からまわり込むように東に延びている。すぐ東側が瓜割清水になっているので、清水の護岸遺構と一体のものとする。

**SS4877**(PL.17 第47図) 東西方向に延びる通路である。幅は約2.0mを測る。よく叩き締められた石敷通路遺構である。この通路の更に南側で石垣SV4883が検出された。

その他、土坑SK4873、4874を検出したが、いずれも後世の擾乱坑であり、近世～近代の土瓶、タイル片が混在して廃棄されていた。SB4871は近代の上坂家の屋敷跡と判断した。



第47図 第106次調査区遺構全体図(縮尺 1/150)

## 2. 遺物 (Pl. 31 第49・50図 第6表)

遺物は、陶磁器類として越前焼播鉢・甕・鉢、土師器小皿、鉄軸天目碗、灰軸小皿、青磁碗・皿・盤、白磁皿、染付皿、中国製天目碗が出土し、その他、金属器、石製品が出土した。以下、主要なものの概要を述べる。

**越前焼** 1・2は大甕の口縁部である。3～10は播鉢片である。11～13は壺である。12は口径15.8cmを測り、13は口径12.6cmを測る中型品である。

**土師器小皿** 14～19表土中に含まれ、14・15はB類、17・18はC類である。16は口径13.0cmを測るD類である。

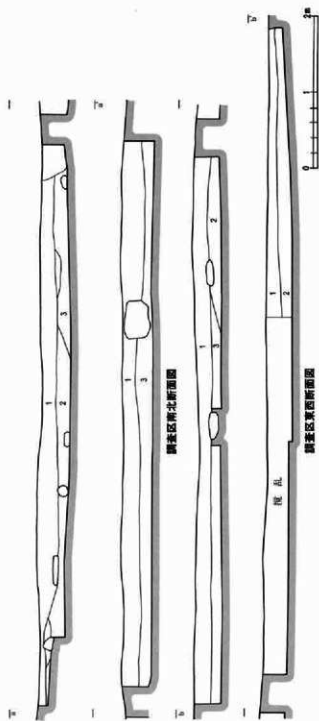
**瀬戸・美濃製品** 20・22は鉄軸天目碗である。21は壺の底部である。23・24は灰軸の小皿である。

**青磁** 25は輪花皿である。27～32は碗であり、27の口縁部に雷文が陰刻されている。29・30は蓮弁が陰刻され、31は蓮弁が線描きされている。

**染付** 36～39は染付皿である。38の見込みには玉取り獅子文が施されている。

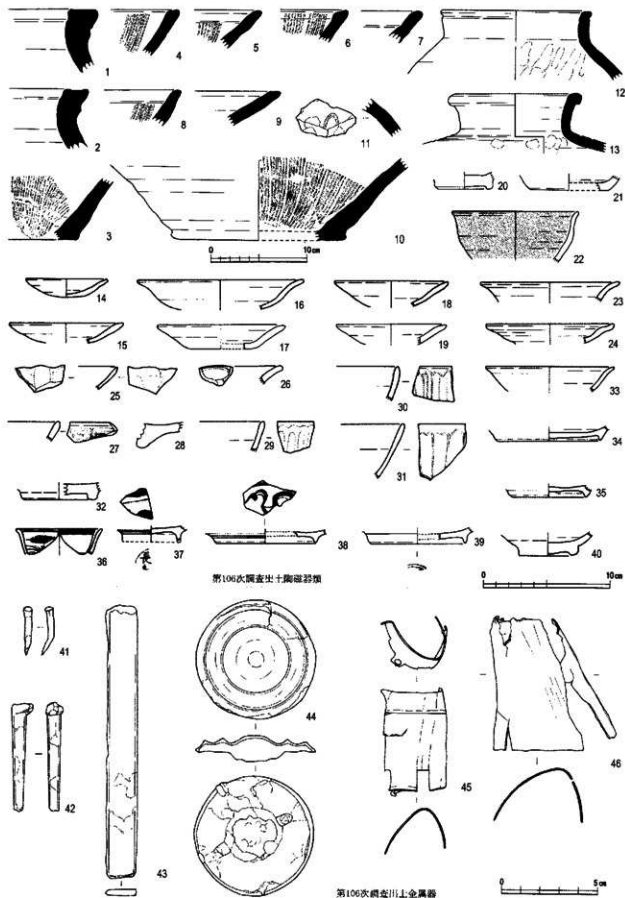
**金属器** 41・42は鉄釘であり、釘頭はL字に折れる。43は刀の小柄であり、14.4cmを測る。44は鋼製の釘隠し金具と考えられ、径6.3cm、厚さ1.3cmを測り、銅板を鉄地に被せていると考える。45は径3.0cmの棒状部材に被せる飾り金具と見る。一端に複雑な加工がされている。46は鋼製の台形錐状の筒形製品であるが、部材の飾り金具と考える。

**石製品** 47はバンドコの蓋であり、側面に半月状の透孔をもつ。48は円形の石盤である。49は斑結品質安山岩製の茶臼である。側面の柄孔の周りに3重の菱形文を陽刻する。径21.7cm、高さ12.7cmを測る。52は径1.8cmの穿孔をもつ提砵と考える。53～58は笏谷石製であり、暗渠などを転用して、穿孔し、錘として使用したと考える。

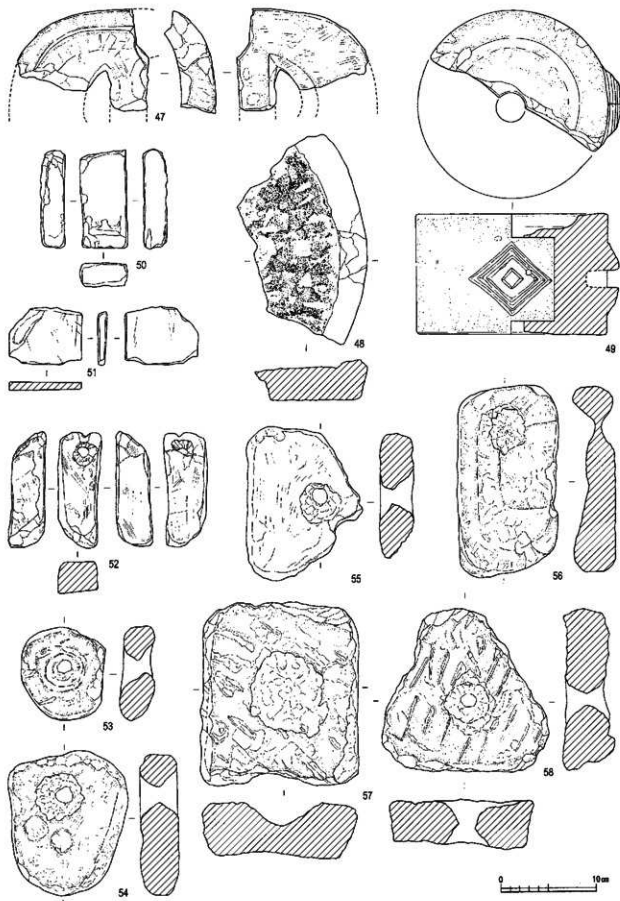


第48図 第106次調査区南北・東西遺構断面図(縮尺1/50)





第49圖 第106次調査出土陶磁器類、金属器(縮尺1/2、1/3、1/4)



第50圖 第106次調査出土石製品(縮尺 1/4)

第6表 第106次調査出土遺物観察表(PL.31 第49・50図)

陶磁器類(PL.31 第49図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調査 / 文様	出土地点 備 考
1	磁前焼 甕	焼: 良好 灰茶色	磁砂粒 白色粒子 積聚 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口 端は高く凹む/口縁部下に尖角状の 稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/ シヤープなつくり	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ	D区/SK4874
2	磁前焼 甕	焼: 良好 淡褐色	磁砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口 端は浅く凹む/口縁部下に尖角状の 稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/ シヤープなつくり	外:二線部ヨコナデ 内:二線部ヨコナデ	A区/遺構面
3	磁前焼 撥鉢	焼: 良好 茶色	磁砂粒 積聚 1/10以下	体部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:平底/尖脚型	外:体部:回転ナデ/底部周縁に溝1 筋 内:回転ナデ 内面に幅2.5cm・9条の節目	A区/表土 B区/表土
4	磁前焼 撥鉢	焼: 良好 赤褐色	磁砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口端部は平直	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ 内面に幅2.5cm・7条の節目	B区/暗褐色土
5	磁前焼 撥鉢	焼: 良好 暗茶色	磁砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口端部に鋭い稜をもつ/口端部内側に 浅い段をもつ	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ 内面に幅2.1cm・10条の節目	A区/表土 D区/表土
6	磁前焼 撥鉢	焼: 不良 橙褐色	磁砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口端部は深く凹む/口端部内側に浅い 段をもつ	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ 内面に幅2.0cm・8条の節目	B区/表土
7	磁前焼 鉢	焼: 良好 赤褐色	磁砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 二筋部で上方へやや屈曲/口唇部は丸 く収める/口端部内側に浅い沈線をも つ	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ 内面に幅2.0cm・8条の節目	C区/表土 片口状に歪む
8	磁前焼 撥鉢	焼: 良好 灰橙褐色	磁砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口端部でやや外反する/口唇部は丸く 収める/口端部内側に浅い沈線をもつ	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ 内面に幅2.5cm・10条の節目	D区/表土
9	磁前焼 撥鉢	焼: 良好 赤茶色	磁砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口端部は浅く凹む	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ 方角の節目不明	C区/遺構面 内:自然物
10	磁前焼 撥鉢	高: 8.8 底: 18.0 焼: 良好 赤茶色	磁砂粒 白色粒子 積聚 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:平底	外:口縁部~体部回転ナデ/底部未調 整 内:回転ナデ 内面に幅2.4cm・7条の節目	C区/黄灰色土 C区/遺構面
11	磁前焼 甕	焼: 良好 黒茶色	磁砂粒 積聚 1/10以下	胴部:胴上位の破片/ヘラ記号あり	外:胴部ナデ 内:胴部ナデ	C区/黄灰色土
12	磁前焼 甕	口: 15.8 高: 6.7 底: 22.6 焼: 良好 茶色	磁砂粒 白色粒子 積聚 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口 端部は平直/口端部上位に沈線がめぐる 胴部:中位でゆる	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:二線部ヨコナデ/胴部上位部破損	C区/遺構面
13	磁前焼 甕	口: 12.6 高: 6.0 焼: 良好 茶色	磁砂粒 白色粒子 積聚 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口 端部は丸みをもつ/口端部外端は三線 状に把平 胴部:頸部下に沈線2条	外:二線部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:二線部ヨコナデ/胴部上位部破損	B区/暗褐色土 胴部上段:自然物
14	土師器 小甕	口: 6.4 高: 1.5 底: 2.0 焼: 良好 褐色	磁砂粒 軟質 1/4	口縁部:やや内傾して外方へ立ち上 がる/口端部はやや外傾する/口唇部は 丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/底部無調整 内:口縁部~底部ナデ	表土
15	土師器 小甕	口: 9.0 高: 1.0 焼: 良好 褐色	磁砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ナデ 内:口縁部ナデ	A区/遺構面
16	土師器 小甕	口: 13.0 高: 2.4 焼: 良好 淡褐色	磁砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:やや内傾して外方へ立ち上 がる/口唇部はやや外傾する/口唇部は 丸く収める	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ	表土
17	土師器 小甕	口: 10.0 高: 2.0 底: 5.0 焼: 良好 淡褐色	磁砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:二線部ヨコナデ/底部無調整 内:二線部ヨコナデ/底部ナデ 型作り	B区/黄灰色土

## 2. 遺物

単位:cm

No.	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
18	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 良好 色: 暗褐色	磁砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部ヨコナゲ 内:口縁部ヨコナゲ	C区/遺構面
19	土師器 小皿	口: 8.5 高: 1.6 底: 良好 色: 暗褐色	磁砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部～底部未調整 内:口縁部～底部ナゲ	表十 外:口縁部ス付着
20	鉄胎 大月鏡	高: 1.3 底: 4.3 底: 良好 色: 黒灰色	磁砂粒 堅粒 1/10以下	底部:削り出し高台/端面外縁面取り		C区/黄灰色土 扉戸・矢鏝 外:底部縁ヘゲ
21	鉄釜 釜	高: 1.3 底: 6.3 底: 良好 色: 暗灰色	磁砂粒 軟質 1/10以下	底部:平坦	外:体部下位回転ヘラケズリ 内:体部下位回転ナゲ	B区/暗褐色土 扉戸・矢鏝 内:鉄輪
22	鉄胎 大月鏡	口: 10.4 高: 4.0 底: 良好 色: 黒灰色	磁砂粒 堅粒 1/10	口縁部:直線状に外方へ立ち上 がり、口縁部は丸く外縁し丸く収める	外:口縁部～体部下位回転ナゲ 内:口縁部～体部下位回転ナゲ	C区/遺構面 扉戸・矢鏝 外:底部縁ヘゲ
23	灰胎 小皿	口: 11.0 高: 1.5 底: 良好 色: 灰緑色	磁砂粒 精粒 1/10以下	口縁部:外反して立ち上がる/口唇 部は丸く収める	外:口縁部～体部下位回転ナゲ 内:口縁部～体部下位回転ナゲ	C区/遺構面
24	灰胎 小皿	口: 10.0 高: 1.7 底: 不良 色: 灰緑色	磁砂粒 精粒 1/8	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立 ち上がる/口唇部は鋭く外縁する/口唇 部は丸く収める	外:口縁部回転ナゲ 内:口縁部ヨコナゲ	C区/遺構面
25	青磁 輪花蓋	高: 2.0 底: 良好 色: 透灰青褐色	精粒 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口唇部は表 反/外縁は花弁状に彫り込みをもつ	外:無文 内:無文	C区/遺構面
26	青磁 蓋	底: 良好 色: 透灰青褐色	精粒 1/10以下	口縁部:緩やかに外反して外方へ立 ち上がる/口唇部は丸く収める	内:無文	C区/遺構面
27	青磁 碗	底: 良好 色: 透灰青褐色	精粒 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立 ち上がる/口唇部は丸く収める	内:無文	B区/暗褐色土
28	青磁 碗	底: 良好 色: 透灰青褐色	精粒 1/10以下	底部:高台はハの字に騎ん張る/口唇 部は平坦/端面内側で接地		表十
29	青磁 碗	底: 良好 色: 透灰青褐色	精粒 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立 ち上がる/口唇部は丸く収める	外:無文	表十
30	青磁 碗	底: 良好 色: 透灰青褐色	精粒 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立 ち上がる/口唇部は丸く収める	外:無文	表十
31	青磁 碗	底: 良好 色: 透灰青褐色	精粒 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立 ち上がる/口唇部は丸く収める	外:無文	D区/SR4874
32	青磁 碗	高: 1.3 底: 5.4 底: 良好 色: 透灰青褐色	精粒 1/10以下	底部:高台端面は平坦/端面外縁は面 取り		表十 外:近端面ヘゲ
33	白磁 皿	口: 10.0 高: 2.0 底: 良好 色: 透灰白色	精粒 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く外縁する/口唇部は 丸く収める		表十
34	白磁 皿	高: 1.2 底: 8.0 底: 良好 色: 透灰白色	精粒 1/6	底部:高台端面は鋭角		表十 外:高台端面縁ヘゲ
35	白磁 皿	高: 0.9 底: 5.9 底: 良好 色: 透灰白色	精粒 1/6	底部:高台端面は鋭角		B区/黄灰色土 外:高台端面縁ヘゲ
36	染付 皿	口: 8.8 高: 2.0 底: 良好 色: 透灰白色	精粒 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は外反し口唇部は丸く収める	外:口縁部:員数圓縁1/真須縁 内:口縁部:員数圓縁	表十
37	染付 皿	高: 1.2 底: 4.6 底: 良好 色: 透灰白色	精粒 1/10以下	底部:高台端面は鋭角	外:高台1位:員数圓縁2/底面に「長」 内:底部に員数縁	B区/暗褐色土 外:高台端面縁ヘゲ
38	染付 皿	高: 0.8 底: 7.7 底: 良好 色: 透灰白色	精粒 1/10以下	底部:高台端面は鋭角	外:高台上位に員数圓縁2 内:底部に員数縁	B区/暗褐色土 外:高台端面縁ヘゲ

## VI. 第106次調査

単位:cm

No.	器種	比重/地色/色調	胎土		形状	調整 / 文様	出土地点	
			残存				備考	
107	胎付皿	重: 1.0 地: 7.4 色: 良好 透白色	精練 1/10以下		底面:高台端面は鋭角	外:底面に貝須絵	表土	
108	鉄軸 中国 天目碗	重: 1.8 地: 4.4 色: 良好 濃黒茶色	精練 1/6		底面:高台端面は平圧/端面内側で接地		表土 外:体部下位へ高台一部種ハゲ/底面種ハゲ	

## 金属器(Pl. 31 第49図)

単位:cm/g

No.	器種	法量(最大値)				残存	材質 色調	調整・特徴	備考	出土地点
		長	幅	厚	重					
109	鉄釘	2.5	0.3	0.3	0.5	1/1	鉄製品 暗茶色	釘頭は折り曲げて平圧		C区/遺構面
110	鉄釘	5.6	0.9	0.6	9.9	4/5	鉄製品 暗茶色	釘頭は折り曲げた後平圧		C区/遺構面
111	小柄	14.4	1.6	0.3	41.4	1/10	鉄製品 黄褐色			C区/黄褐色土
112	釘隠し 金具	6.3	6.3	1.3	53.0	1/1	鋼製品 青銅色	表面:鉄地鉄板張り/2面の突起で、中心凹 裏面:中央に径0.5cmの金属製の棒を通す	裏面に木質付着	C区/黄褐色土
113	鍔り金具	5.5	3.3	0.05	10.1	1/2	鋼製品 青銅色	厚約3.0cmの鍔状部材に嵌せる鍔り金具と推定/ 上位に突起1条/下位に3mm×6mmの板状の突起出し/ 厚1.5mmの釘頭孔を設ける/下位に1.1cm×0.6 cmの長方形の切込みあり		表土
114	鍔り金具	7.0	6.0	0.05	19.1	1/2	鋼製品 青銅色	台形鍔状の筒形金具		表土

## 石製品(Pl. 31 第50図)

単位:cm/g

No.	器種	法量(最大値)				残存	石材 色調	調整・特徴	備考	出土地点
		長径	短径	厚	重					
115	バンドコ	13.8	10.7	3.6	-	1/4	砺谷石 赤緑色 軟質	バンドコの壺/表面:笠状に成形/平滑/側面に平 月状の溝を入れる/中央に長方形の透孔を入 れると推定/裏面:溝縁に段をつける	外:平面凹 内:スス付着	B区/黄褐色土
116	石盤	22.5	13.7	4.3	-	1/8	砺谷石 赤緑色 軟質	形状:円形/二縁部欠損/口縁部幅3.0cm 外:底面平滑 内:底面タガキ状		C区
117	赤白 上臼	21.7	20.0	12.7	-	1/2	産品 山崎 灰白色 硬質	上端面:径14.2cm×高さ1.7cmの凹みの中央に径 3.1cmの円形穿孔を入れる/周縁幅3.0cm 側面:3處設け溝縁/長軸8.8cm×短軸7.9cm/中央 に1辺1.7cm×高さ3.3cmの方形穿孔 下部面:8分型主軸/1分型内に調整15~16条	全体平滑	地区不明
118	砥石	10.3	5.0	2.6	220.6	4/5	砥石 白褐色 硬質	形状:板状立方体/上部一部欠損/裏表面、左右 側面、下部面は平滑な砥面	砥面5 粒度:滑 中砥(静敷石砥)	表土
119	砥石	7.6	6.0	0.7	83.9	-	砥石 灰白色 硬質	形状:板状/下部面欠損/裏表面、左右側面、上部 面一部は平滑な砥面	砥面6 粒度:密 中砥	B区/暗褐色土
120	砥石	12.3	4.5	3.8	295.2	4/5	砥石 赤褐色 硬質	形状:柱状立方体/上部面欠損/裏表面、左右側 面は平滑な砥面/上位に外径1.8cmの孔を両面穿 孔し磨削に成形	砥面4 粒度:滑 中砥	地区不明
121	有孔 石製品	9.9	8.5	3.2	297.1	1/1	砺谷石 赤緑色 軟質	形状:不整形/1端部右側、下部面に砥面/表 面凹増/中央に外径4.2cmの孔を両面穿孔/面は 平滑		C区/黄褐色土
122	有孔 石製品	15.3	12.4	4.1	-	1/1	砺谷石 赤緑色 軟質	形状:不整形/上部面中央、表の一部、右側面、 に砥面/裏面平滑/右側面上位、下部面縦打/牛 尖に外径4.2cmの孔を両面穿孔		地区不明
123	有孔 石製品	15.3	11.6	3.9	-	1/2	砺谷石 赤緑色 軟質	形状:板状/右側面欠損/裏表面、左側面一部は平滑 /上部面タガキ状/下部面縦打/中央に 外径4.5cmの孔を両面穿孔/穿孔面は縦打	準備素材の転用品	表土
124	有孔 石製品	20.2	10.5	4.6	-	1/1	砺谷石 赤緑色 軟質	形状:板状/表面滑く可巾/裏面平圧/左端面一部 磨削/上位に外径5.8cmの孔を両面に入れるが貫 通せず/穿孔面は縦打		表土
125	有孔 石製品	19.2	16.4	5.9	-	1/1	砺谷石 灰緑色 軟質	形状:板状/上下端面欠損/表面平圧、タガキ状、 縦打/裏面:縦打/左右両面タガキ状/表面中央に 外径8.2cm×高さ2.5cmの凹み/面は縦打	準備素材の転用品	地区不明
126	有孔 石製品	17.2	17.6	5.0	-	4/5	砺谷石 赤緑色 軟質	形状:三角板状/左右両面欠損/裏表面、下部面タ ガキ状/中央に外径4.5cmの孔を両面穿孔/穿孔面 は縦打	調整素材の転用品	B区/暗褐色土

## VII. 第109次調査【城ノ内町新御殿】

### 1. 遺構 (PL.18~20 第51図)

第109次調査は、城ノ内町新御殿に位置し、朝倉館跡の外濠を挟んだ南西の平地に立地する。標高は53mを測る。周辺には、東に湯殿跡や中の御殿跡、南に諏訪館跡といった重要施設が集中する(PL.18 第3区)。調査面積は2,000㎡であり、調査期間は平成12年(2000)11月2日～同年12月20日である(文15)。調査グリッドは1辺3.0mのグリッドを西東方向に4~16、北南方向にA~Sを設定した。以下、概要を述べる。

**SA4952** (PL.19 第52図) A~P4に位置。屋敷を区画する西側土塁石垣であり、延長47.3m、幅2.0mを測る。北端では朝倉館跡の南濠に接続する。

**SI4953** (PL.19 第51図) M1に位置。門跡であり、北側は土塁石垣SA4952、南は土塁石垣SA4954が接続する。

**SA4954** (PL.19 第51図) S4に位置。SA4952に接続する土塁石垣であり、幅3.0mを測る。

**SA4960** (PL.20 第51図) P5に位置。南側で検出された土塁石垣である。延長1.8m、幅1.1mを測る。SA4952より主軸方向を45°東へ向け、下層遺構の土塁と考える。

**SS4951** (PL.19 第51区) 屋敷跡西側を通る道路である。石敷遺構であるが規模は不明である。旧一乗谷川に並行していたと考えられる。

**SK4967** (PL.20 第51区) E~H11~12に位置。不定形の大型土坑である。長軸11.0m、短軸約7.0m、深さ約0.6mを測る。覆上は炭化物を多く含み、土師器小皿を主体とした陶磁器類に加え、サザエの貝殻が多く検出された。宴席もしくは火災後の整理に伴う廃棄土坑と考える。

その他、朝倉館跡に接続する門跡を確認するため、調査区北東隅に2~4トレンチを設定したが、土塁石垣の残骸を検出したただけにとどまった。屋敷跡の建物自体は広く削平されたと考える。

### 2. 遺物 (PL.32~34 第52~56図 第7表)

遺物は、陶磁器類として越前焼播鉢・甕、土師器小皿・耳皿、鉄釉犬目碗、灰釉碗・皿・壺・香炉・卸皿、青磁碗・皿・香炉、白磁碗・皿、染付碗・皿等が出土し、その他、金属器、石製品、銭貨が出土した。詳細は第7表に記す。以下、主要な陶磁器類の概要を述べる。

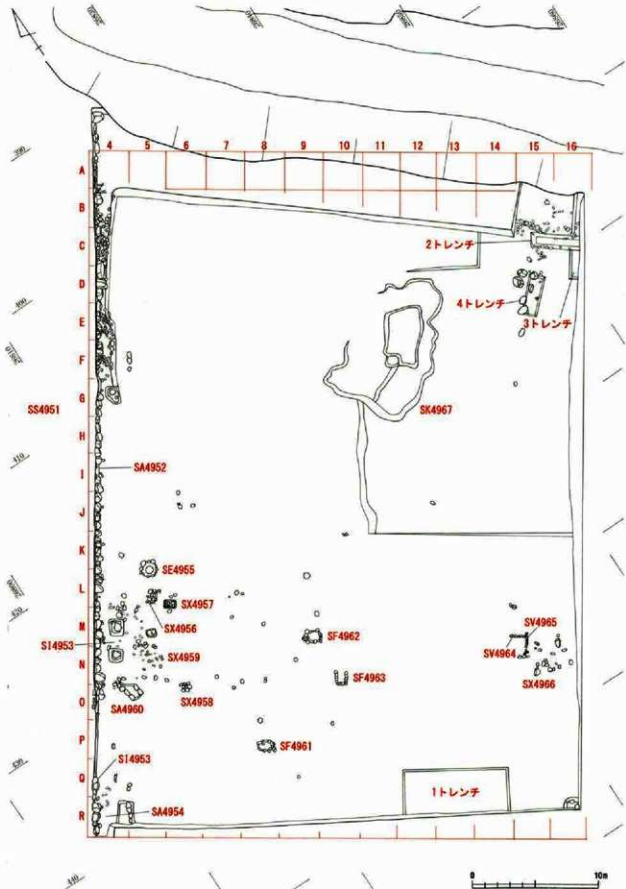
#### 包含層出土陶磁器類 (PL.32 第52~54図 第7表)

越前焼は播鉢が多く、7~12・15~19が検出された。7・9の内面には曲線の釘目がある。19の内面にはヘラ記号の一部が見える。土師器は小皿20~33を検出した。B・C類が中心であり、35は底部中央が凹むヘソ皿である。羽釜37は外面にススが付着する。瀬戸・美濃製品は、鉄釉犬目碗38~43、瓶44、灰釉陶器45~53を検出した。50は水注、51は香炉であり、3つの脚部は形骸化して接地しない。52・53は卸皿であり、52は見込みで釘目を施し、53は52の2倍の口径を測る。中国製陶磁器には、青磁碗56~69を検出した。56~58・67には線描きの蓮弁文を施す。59は蓮弁文を施す。70は香炉である。白磁皿72~75・77・78は内湾する小型品である。77・78は割高台をもつ。染付皿88・89は底部中央を削り込んでいる。

#### 遺構出土陶磁器類 (PL.33・34 第54・55図 第7表)

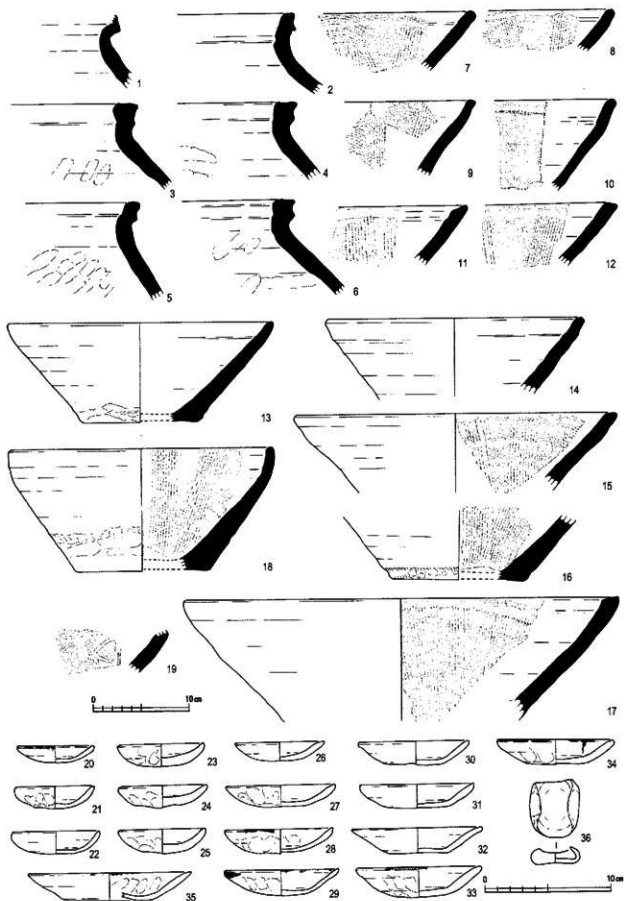
**SK4967 出土** (PL.33・34 第54・56図) 越前焼は播鉢98~101と鉄鉢形の鉢95・96などを検出した。土師器は圧倒的量を占め、小皿102~142、耳皿143を検出した。A~D類がほぼ出土している。瀬戸・美濃製品では犬目碗144~154、茶入れ155、灰釉碗156・157がある。

**SE4955 出土** (PL.34 第56図) 越前焼播鉢163が検出され、土師器小皿164・165、羽釜166にはススが付着していた。調理具、供膳具、煮沸具をセットにした祭祀具の可能性はある。



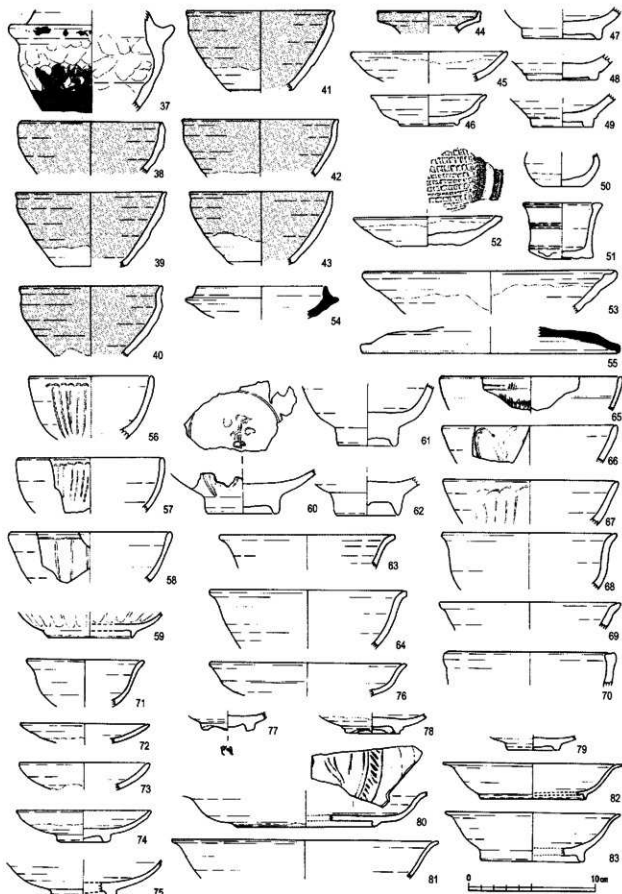
第51図 第109次調査区遺構全体図(縮尺 1/300)

2. 遺物

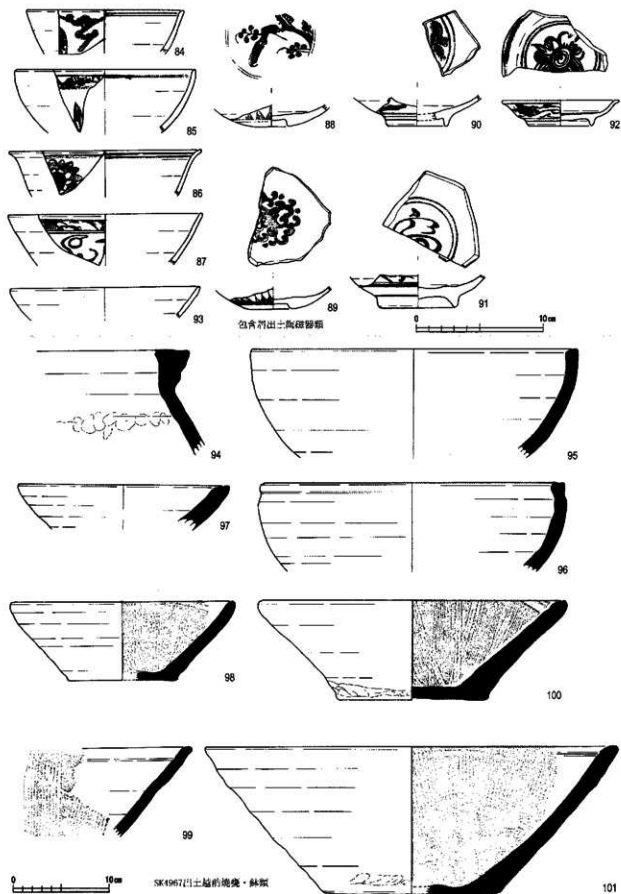


第 52 圖 第 109 次調査包含層出土陶磁器類 (縮尺 1/3、1/4)

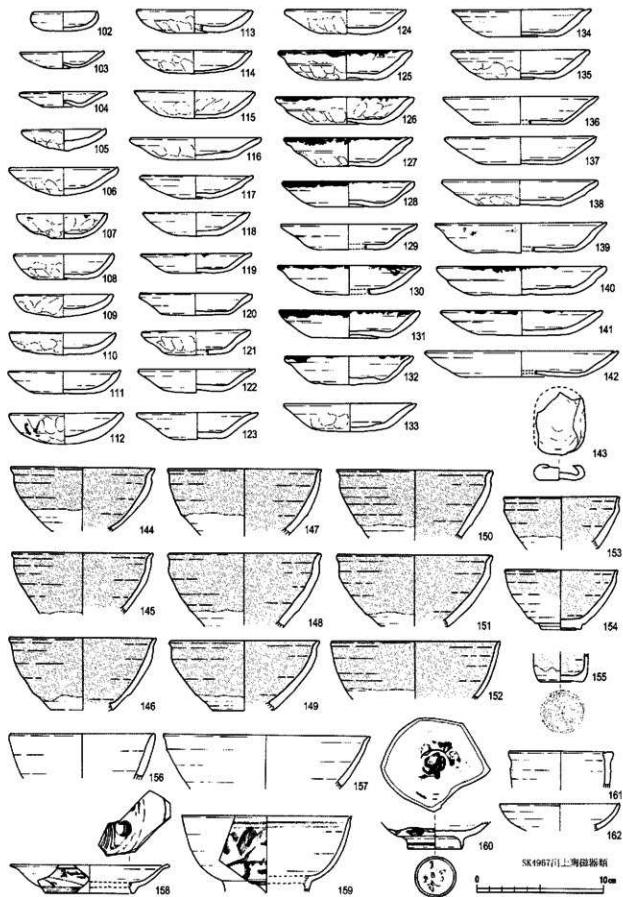




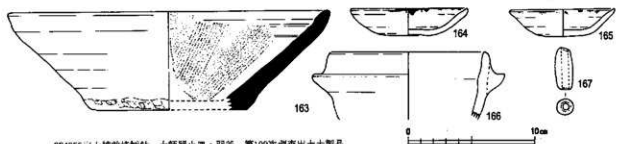
第53圖 第109次調査包含層出土陶磁器類(縮尺1/3)



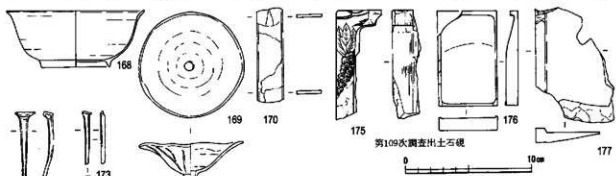
第54圖 第109次調査包含層・遺構出土陶磁器類(縮尺1/3、1/4)



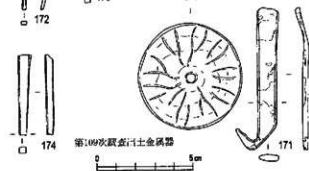
第55圖 第109次調査遺構出土陶磁器類(縮尺1/3)



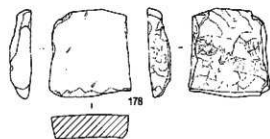
SE4955出土の焼酎鉢、土師器小皿・羽蓋、第109次調査出土土製品



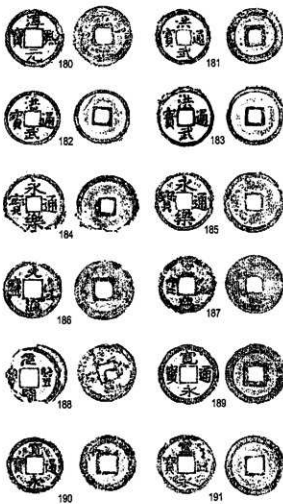
第109次調査出土石鏡



第109次調査出土金属器



第109次調査出土磁石



第109次調査出土銭貨

第56圖 第109次調査遺構出土陶磁器類、金属器、石製品、銭貨(縮尺1/2、1/3、2/3)

第7表 第109次調査出土遺物観察表(PL.32~34 第52~56頁)

包含層出土陶磁器類(PL.32 第52~54頁)

単位:cm

No.	器種	法華/地成/色画	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	磁前成 盤	施: 良好 色: 赤灰色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口 端部は平直/口唇部欠損	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	遺構面
2	磁前成 盤	施: 良好 色: 淡茶灰色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口 端部は平直/口縁部中央に突弁状の稜 線をもつ/口唇部内側に凹線がめぐる /シャープなつくり	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	H~J4/遺構面
3	磁前成 鉢	施: 良好 色: 灰色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端 部はよく凹む/口縁部中央に突弁状の 稜線をもつ/口唇部内側に凹線をもつ	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	D~M13/遺構面
4	磁前成 鉢	施: 良好 色: 淡茶色	磁砂粒 粒数 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端 部は平直/口唇部中央に突弁状の稜 線をもつ/口唇部内側に凹線をもつ	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	SA4952埋土
5	磁前成 鉢	施: 良好 色: 赤紫色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口唇部下位に突弁 状の稜線をもつ/口唇部内側に凹線をもつ	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	SA4952埋土 埋土中 外:口縁部~胴部上位 自然崩
6	磁前成 鉢	施: 良好 色: 赤紫色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端 部は平直/口唇部下位に突弁状の稜 線をもつ/口唇部内側に凹線をもつ	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	D~M13/遺構面
7	磁前成 深鉢	施: 不十分 色: 白褐色	磁砂粒 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に凹 線をもつ	外:口縁部凹転ナデ 内:口縁部凹転ナデ 穴面に幅2.5cm・9条の節目	G15・H15/遺構面
8	磁前成 深鉢	施: 良好/土画 色: 淡茶灰色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に凹 線をもつ	外:口縁部凹転ナデ 内:口縁部凹転ナデ 穴面に幅3.6cm・15条の節目	H~J4/遺構面
9	磁前成 深鉢	施: 良好 色: 赤紫色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部でやや膨 らみをもつ	外:口縁部凹転ナデ 内:口縁部凹転ナデ 穴面に幅不明・7条以上の節目	H~J4/遺構面 片Hをもつ
10	磁前成 深鉢	施: 良好/土画 色: 淡褐色	磁砂粒 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平直/口唇部中央に凹線がめ ぐる/口唇部内側に凹線をもつ	外:口縁部凹転ナデ 内:口縁部凹転ナデ 穴面に幅3.1cm・6条の節目	遺構面
11	磁前成 深鉢	施: 良好 色: 白褐色	磁砂粒 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に平直面をもつ/口唇部内 側に凹線をもつ	外:口縁部凹転ナデ 内:口縁部凹転ナデ 穴面に幅2.8cm・9条の節目	遺構面
12	磁前成 深鉢	施: 良好 色: 淡褐色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平直/口唇部内側に凹線がめ ぐる/口唇部でシャープなつくり	外:口縁部凹転ナデ 内:口縁部凹転ナデ 穴面に幅2.7cm・11条の節目	遺構面
13	磁前成 深鉢	H: 28.0 高: 10.5 底: 2.0 施: 良好 色: 赤紫色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平直/口唇部内側に凹線がめ ぐる/口唇部で丸く収める/口唇部内 側に凹線をもつ	外:口縁部~体部凹転ナデ/底部稜 線に磁前成埋土 穴:口縁部~体部凹転ナデ	H10~J10/遺構面 19・J9/遺構面 外:口縁部ヤキムラ
14	磁前成 深鉢	H: 27.2 高: 8.3 底: 良好 色: 赤紫色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に凹 線をもつ	外:口縁部~体部凹転ナデ 穴:口縁部~体部凹転ナデ後ヘラナデ	遺構面 外:口縁部埋土
15	磁前成 深鉢	H: 34.0 高: 8.3 底: 良好 色: 赤紫色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部はよく凹む/口唇部中央に凹 線をもつ	外:口縁部凹転ナデ/体部ナデ 内:口縁部凹転ナデ 穴面に幅2.8cm・10条の節目	耕作土
16	磁前成 深鉢	H: 7.0 高: 14.0 底: 良好 色: 赤紫色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる 口唇部:半環	外:体部凹転ナデ/底部に施成前の 備目痕/底部内側 内:体部凹転ナデ/底部厚残 穴面に幅2.9cm・11条の節目	SA4952埋土
17	磁前成 深鉢	H: 43.6 高: 13.2 底: 良好/土画 色: 淡褐色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/8	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は平直/口唇部内側に凹線がめ ぐる/口唇部でシャープなつくり	外:口縁部~体部凹転ナデ 穴:口縁部凹転ナデ 穴面に幅2.9cm・10条の節目	H10~J10/遺構面
18	磁前成 深鉢	H: 28.0 高: 13.0 底: 良好 色: 淡褐色	磁砂粒 白色粒子 粒数 1/4	口縁部:やや内湾して立ち上がる/口 唇部で上方へ立ち上がる/口唇部は丸 く収める	外:口縁部~体部凹転ナデ/底部最 下に施成前の備目痕/底部内側 内:口縁部~体部凹転ナデ 穴面に幅2.8cm・10条の節目	H10~J11/遺構面

## 2. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/施成/色類	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
19	部前旋 環鉢	施: 良好/土師質 色: 櫻褐色	輪砂粒 白色砂子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる	外:口縁部へ底部凹部ナゲ 内:口縁部へ底部凹部ナゲ 内面に幅3.4cm・14葉の節目/ヘラ記号	遺構面 片口状に凸む
20	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.9 底: 4.6 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナゲ/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	D15・16/2・3トレンチ 片口状に凸む
21	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.7 底: 2.0 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 4/5	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ナゲ/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	D15・16/2・3トレンチ 片口状に凸む
22	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.8 底: 2.0 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ナゲ/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	D15・16/2・3トレンチ 片口状に凸む
23	土師器 小皿	口: 7.0 高: 2.1 底: 3.0 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/1	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ナゲ・指頭痕/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	遺構面 片口状に凸む
24	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.8 底: 4.0 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/1	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部へ底部ナゲ・指頭痕 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	遺構面 凸みあり
25	土師器 小皿	口: 7.0 高: 2.0 底: 3.0 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 2/2	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部へ底部ナゲ・指頭痕 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	遺構面 凸みあり
26	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.5 底: 3.5 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナゲ/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	遺構面 凸みあり
27	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.7 底: 3.8 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/2	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部へ底部ナゲ・指頭痕 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	遺構面
28	土師器 小皿	口: 8.0 高: 2.0 底: 3.5 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 4/4	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナゲ/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	遺構面 外:口縁部スス付着
29	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.1 底: 3.3 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ナゲ・指頭痕/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	D15・16/2・3トレンチ 外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
30	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.6 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ナゲ/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	D15・16/2・3トレンチ 片口状に凸む
31	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.0 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は二方へツマミ出し丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ナゲ/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	遺構面 片口状に凸む
32	土師器 小皿	口: 10.4 高: 2.0 底: 4.4 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや外反して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナゲ/底部ナゲ 内:口縁部ヨコナゲ/底部ナゲ 型作り	遺構面
33	土師器 小皿	口: 9.9 高: 2.5 底: 5.3 施: 良好 色: 櫻褐色	輪砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ナゲ/底部無調整 内:口縁部へ底部ナゲ 型作り	遺構面

単位:cm

No	器種	法量/施色/色調	胎土 残存	形 状	調査 / 文様	出土地点 備 考
34	土師器 小皿	口: 9.1 高: 2.0 底: 4.7 施: 良好 色: 緑褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口縁部内側に高直をもつ/口唇部は上 方へ外反し出し丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作リ	遺構面
		口: 12.8 高: 2.2 底: 8.5 施: 良好 色: 緑褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 製作リ	遺構面 底部付着 外: 口縁部スチ付着 内: 口縁部スチ付着
35	土師器 小皿	口: 12.8 高: 2.2 底: 8.5 施: 良好 色: 緑褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 製作リ	遺構面 底部付着 外: 口縁部スチ付着 内: 口縁部スチ付着
36	土師器 耳皿	長: 4.6 幅: 4.0 高: 4.7 底: 1.1 施: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 左右口縁部を内側に曲げる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部～底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	G14～15/遺構面 H44～15/遺構面
37	土師器 羽釜	高: 8.0 幅: 13.0 底: 1.5 施: 良好 色: 緑褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部: 短く内傾して立ち上がる/受 部は平直	外: 口縁部～受部ヨコナデ/体部指 頭痕 内: 口縁部～受部ヨコナデ/体部指 頭痕	D15・16/2・3トレンチ 外: 原部スチ付着
38	瀬戸美濃 敷板 天目碗	口: 11.0 高: 4.2 底: 4.3 施: 良好 色: 茶色	極砂粒 精粒 1/10以下	口縁部: 緩やかに内傾して斜め外方へ 立ち上がる/口唇部で上方へ屈曲/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位同転ナデ 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	遺構面 外: 口縁部～体部下位 同転ナデ 内: 敷板
		口: 11.2 高: 6.9 底: 1.8 施: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精粒 1/8	口縁部: 緩やかに内傾して斜め外方へ 立ち上がる/口唇部で上方へ屈曲/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位同転ナデ 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	D15・16/2・3トレンチ 外: 口縁部～体部下位 同転ナデ 内: 敷板
39	瀬戸美濃 敷板 天目碗	口: 11.8 高: 6.9 底: 1.8 施: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精粒 1/8	口縁部: 緩やかに内傾して斜め外方へ 立ち上がる/口唇部で上方へ屈曲/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位同転ナデ 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	D15・16/2・3トレンチ 外: 口縁部～体部下位 同転ナデ 内: 敷板
40	瀬戸美濃 敷板 天目碗	口: 11.2 高: 8.5 底: 1.8 施: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精粒 1/6	口縁部: 緩やかに内傾して斜め外方へ 立ち上がる/口唇部で上方へ屈曲/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位同転ナデ 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	H10～10/遺構面 外: 口縁部～体部下位 同転ナデ 内: 敷板
41	瀬戸美濃 敷板 天目碗	口: 11.8 高: (7.0) 底: (4.3) 施: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精粒 1/8	口縁部: 緩やかに内傾して斜め外方へ 立ち上がる/口唇部で上方へ屈曲/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位同転ナデ 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	H10～10/遺構面 外: 口縁部～体部下位 同転ナデ 内: 敷板
42	瀬戸美濃 敷板 天目碗	口: 12.2 高: 4.5 底: 1.8 施: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精粒 1/5	口縁部: 緩やかに内傾して斜め外方へ 立ち上がる/口唇部で上方へ屈曲/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位同転ナデ 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	H10～11/2/遺構面 外: 口縁部～体部中位 同転ナデ 内: 敷板
43	瀬戸美濃 敷板 天目碗	口: 11.0 高: 5.7 底: 4.3 施: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精粒 1/6	口縁部: 緩やかに内傾して斜め外方へ 立ち上がる/口唇部で上方へ屈曲/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位同転ナデ 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	D15・16/2・3トレンチ 外: 口縁部～体部中位 同転ナデ 内: 敷板
44	瀬戸美濃 敷板 瓶	口: 8.0 高: 2.8 底: 1.8 施: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 精粒 1/10以下	口縁部: 外反して外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方へ屈曲/口唇部は丸く収 める	外: 口縁部同転ナデ 内: 口縁部同転ナデ	遺構上 外: 敷板 内: 敷板
45	灰釉 皿	口: 12.0 高: 2.4 底: 2.4 施: 良好 色: 灰色	極砂粒 堅粒 1/5	口縁部: 緩やかに内傾して斜め外方へ 立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部下位同転ナデ 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	H10～11/1/遺構面 外: 口縁部同転ナデ 内: 口縁部同転ナデ
46	灰釉 皿	口: 9.1 高: 2.5 底: 4.3 施: 良好 色: 黄緑色	極砂粒 明粒 1/5	口縁部: 緩やかに内傾して外方へ立ち 上がる/口唇部は弱く外反する/口唇 部は丸く収める 底部: 削り出し高台	外: 口縁部同転ナデ/体部下位同転 ナデ 内: 口縁部～底部同転ナデ	D15・16/2・3トレンチ 外: 口縁部～底部同 転ナデ 内: 敷板
47	灰釉 碗	高: 2.2 底: 6.2 施: 良好 色: 透緑黄色	極砂粒 精粒 1/8	底部: 削り出し高台/高台縁面は平直/ 断面で接地	外: 体部下位同転ナデ 内: 体部下位同転ナデ	D～H3/16/遺構面 外: 口縁部～高台灰釉 /底部トレン重 内: 灰釉
48	灰釉 碗	高: 2.3 底: 5.4 施: 良好 色: 透緑黄色	極砂粒 精粒 1/8	底部: 削り出し高台/高台縁面は平直/ 断面で接地	外: 体部下位同転ナデ/高台同 転ナデ 内: 体部下位同転ナデ	G15/13/遺構面 内: 灰釉
49	灰釉 碗	高: 2.3 底: 5.0 施: 良好 色: 透緑黄色	極砂粒 精粒 1/10以下	底部: 削り出し高台/高台縁面は平直/ 断面で接地	外: 体部下位同転ナデ/高台同 転ナデ 内: 体部下位同転ナデ	遺構面 内: 灰釉
50	灰釉 蓋	高: 2.7 底: 3.0 施: 良好 色: 透緑黄色	極砂粒 精粒 1/4	側部: 扁球形 底部: 凹皿	外: 側部同転ナデ/底部同転ナデ 内: 側部同転ナデ	H～16/遺構面 外: 側部下位同転 内: 灰釉
51	灰釉 香炉	口: 6.1 高: 5.0 底: 5.0 施: 良好 色: 黄緑・灰色	極砂粒 精粒 4/5以下	二層部: やや外反して立ち上がる/ 口縁部は平直/ 体部: 凹形/断面で接出 体部: 凹形/断面で接出 底部: 首状の脚が3方向に付く	外: 口縁部～体部下位同転ナデ/ 底部同転ナデ/高台同転ナデ 内: 体部最下段(2・3条)の条部 内: 口縁部～体部下位同転ナデ	遺構面 外: 灰釉 内: 灰釉

## 2. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/法成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
52	灰釉細耳	口: 11.8 高: 2.0 底: 5.0 施: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 型痕 1/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は深く収める	外:口縁部同転ナデ後田畠ハケクスリ/ 底部同転糸切り痕 内:口縁部同転ナデ	遺構面 外:口縁部同転ナデ 内:口縁部同転ナデ
53	灰釉細耳	口: 20.0 高: 3.3 底: 良好 色: 濃緑黄色	極砂粒 細粒 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は受口状に深く収める	外:口縁部同転ナデ 内:口縁部同転ナデ	H10~J11/遺構面 外:口縁部へ体部中央位 灰釉 内:口縁部同転ナデ
54	須恵器杯	口: 10.0 高: 2.6 底: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色砂子 細粒 1/10以下	口縁部:内湾して短く上方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める/受部は平滑	外:口縁部へ体部同転ナデ 内:口縁部へ体部同転ナデ	耕作土
55	須恵器盤	口: 20.2 高: 2.0 底: 良好 色: 緑灰色	極砂粒 型痕 1/5	大弁部:直線状に外方へのびる/口縁部は 下方へ唇状/口縁部は丸く収める	外:口縁部同転ナデ 内:口縁部同転ナデ	炭土
56	青磁碗	口: 10.0 高: 5.0 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/ 二唇部は丸く収める	外:体部に蓮華文	19/遺構面 J9/遺構面
57	青磁碗	口: 11.8 高: 4.3 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/ 二唇部は丸く収める	外:体部に蓮華文	遺構面
58	青磁碗	口: 13.0 高: 4.0 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/ 二唇部は丸く収める	外:体部に蓮華文	遺構面
59	青磁碗	高: 2.0 底: 6.6 施: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:高台部面は鋭角	外:体部に蓮華文 内:体部に蓮華文陰刻	D15・16/2・3トレンチ 外:高台部同転ハゲ
60	青磁碗	高: 3.5 底: 2.6 施: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/6	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:高台部面は平坦/端部内側で接	外:体部に蓮華文 内:底部中央に蓮華・陰刻花文	耕作土 外:底部・タン底/轉 ハゲ
61	青磁碗	高: 5.0 底: 4.6 施: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/8	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる 底部:高台部面は丸く収める	外:黒文 内:黒文	遺構面 外:底面轉ハゲ
62	青磁碗	高: 3.0 底: 4.8 施: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	底部:高台は高い/底部は鋭角	内:放射状に陰刻	遺構面 外:底面轉ハゲ
63	青磁碗	口: 13.8 高: 2.7 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部で外反する/口唇部はやや平	外:黒文 内:黒文	遺構面
64	青磁碗	口: 15.4 高: 4.6 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部で外反する/二唇部は丸く収 める	外:黒文 内:黒文	遺構面
65	青磁碗	口: 14.0 高: 2.5 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外:陰刻文 内:体部中央に条線1	D~M13~16/遺構面
66	青磁碗	口: 13.9 高: 3.0 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:陰刻花文 内:無文	G15/遺構面 H16/遺構面
67	青磁碗	口: 13.9 高: 3.5 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:蓮華文陰刻 内:黒文	H10~J11/遺構面
68	青磁碗	口: 13.8 高: 4.4 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/ 口縁部は外反/口唇部は丸く収める	外:黒文 内:黒文	G15/遺構面 E15/遺構面
69	青磁碗	口: 14.0 高: 2.2 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は外反/口唇部は丸く収める	外:黒文 内:黒文	遺構面
70	青磁音叉	口: 13.6 高: 2.6 底: 良好 色: 青緑 / 紺	粗粒 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/ 口縁部は深く収める/口唇部内側突出 体部:円筒形	外:口縁部同転ナデ 内:口縁部同転ナデ	遺構面



No	陶種	土肌/地色/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
71	白磁 焼	口: 9.2 底: 4.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	H~J14/遺構面
72	白磁 皿	口: 10.0 底: 1.6 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ平く/口 唇部は丸く収める		I9/遺構面 J9/遺構面 外:底部下位軸ハゲ
73	白磁 皿	口: 10.1 底: 2.1 焼: 良好 色: 灰白色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ平く/口 唇部は丸く収める		H~J14/遺構面 外:底部下位軸ハゲ
74	白磁 皿	口: 10.4 底: 2.5 焼: 良好 色: 灰茶色	精緻 1/2	口縁部:やや内湾して外方へ平く/口 唇部は丸く収める 底部:削り出し高台/高台端面は平切/ 端面内側で接地	外:口縁部回転ナデ/底部下位回転 ヘラクズリ 内:口縁部回転ナデ	H~J14/遺構面 外:底部下位軸ハゲ
75	白磁 皿	口: 3.0 底: 4.8 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ平く/ 口唇部は丸く収める 底部:削り出し高台/高台端面は平切/ 端面外側は直取り/端面で接地	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	SA492埋土 外:高台軸ハゲ
76	白磁 皿	口: 15.4 底: 2.6 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ平く/口唇部 で外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	遺構面
77	白磁 皿	口: 1.5 底: 4.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:削り出し高台/高台端面は3分割の 割高台		H~J6/遺構面 外:底部に文字; 内:底部にトナン痕
78	白磁 皿	口: 1.5 底: 4.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:削り出し高台/高台端面割高台		不明
79	白磁 皿	口: 1.2 底: 4.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:削り出し高台/高台端面平切/ 端面で接地		遺構面 外:高台軸ハゲ 内:底面軸ハゲ
80	白磁 皿	口: 10.6 底: 2.6 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外反/口唇部は丸く収める	外:無文 内:口縁部で底部に2重周縁内に斜行 文を施す/周縁内にさらに周縁を施 す。文様を入れる	跡付 外:高台軸ハゲ
81	白磁 皿	口: 21.0 底: 3.0 焼: 良好 色: 透灰白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める	外:無文 内:無文	D15・16/2・3トレンテ
82	白磁 皿	口: 14.0 底: 2.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部で強く外反/口唇部は丸く収める 底部:削り出し高台	外:無文 内:無文	G15/遺構面 H15/遺構面 外:高台端面軸ハゲ
83	白磁 鉢	口: 13.6 底: 4.8 焼: 良好 色: 透灰白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部で外反/口唇部は丸く収める 底部:削り出し高台	外:無文 内:無文	I11/遺構面 J11/遺構面 外:高台端面軸ハゲ
84	染付 鉢	口: 11.2 底: 3.5 焼: 良好 色: 透白白色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外反して立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部に具象胎 内:口縁部上位に具象周縁2	遺構面 標榜
85	染付 鉢	口: 14.0 底: 5.0 焼: 良好 色: 透灰白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部に具象胎 内:口縁部に具象周縁1	遺構面
86	染付 鉢	口: 18.2 底: 3.5 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反/口唇部は丸く収め る	外:口縁部に周縁1/口縁部に具象花 文 内:口縁部に具象周縁2	I11/遺構面 J11/遺構面 外:高台端面軸ハゲ
87	染付 鉢	口: 15.4 底: 4.0 焼: 良好 色: 透白白色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部に具象胎 内:口縁部に具象周縁1	I・J:1/遺構面 G・H:4/遺構面
88	染付 皿	口: 1.6 底: 3.0 焼: 良好 色: 透白白色	精緻 1/5	底部:中央凹む	外:底部下位に割製文 内:底部中央に周縁2・具象草花文	不明 外:底部軸ハゲ

## 2. 漬物

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土		形状	調整 / 文様	出土地点 備考
			残存	残存			
90	発付皿	高: 1.5 底: 3.6 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/4		底部:中央凹む	外: 腰部下に曲線文 内: 底部中央に蓮輪2・呉須絵	平冚 外: 底部輪ハゲ
91	発付皿	高: 2.5 底: 4.8 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/8		口縁部: やや内湾して外方へ開く 底部: 削り出し高台/高台端面は平坦 胎土: 硬地	外: 腰部下に呉須絵・高台に蓮輪2 内: 底部に蓮輪2・呉須絵	D15・16/2・3トレンチ
92	発付皿	高: 2.3 底: 6.0 焼: 良好 色: 透灰白色	精緻 1/4		口縁部: やや内湾して外方へ開く 底部: 削り出し高台/高台端面は平坦 取り/端面内側で傾地	外: 腰部下に呉須絵・高台に蓮輪2 内: 底部に蓮輪2・呉須絵	遺構跡 外: 高台端面部へ底部輪ハゲ
93	発付皿	口: 7.2 高: 2.0 底: 5.0 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/2		口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反し口唇部は丸く収める 底部: 削り出し高台	外: 口縁部上位に蓮輪1・呉須絵文 高台に蓮輪1 内: 口縁部に蓮輪1/底部に呉須絵輪2・呉須蓮華文	耕作上 外: 高台端面輪ハゲ
94	磁器白磁碗	口: 15.0 高: 2.5 底: 良好 色: 灰色	精緻 1/10以下		口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 無文 内: 無文	耕作上

遺構出土陶磁器類 (PL. 33 第54~56図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土		形状	調整 / 文様	出土地点 備考
			残存	残存			
94	越前焼 燗	焼: 良好/土質 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		口縁部: 短く外傾して立ち上がる/ 口唇部は平坦/口縁部中央に突帯状の條をもつ/シャープなつくり	外: 口縁部ヨコナデ/胴筋上位ナデ/ 胴筋上位にヘラ記号「大」 内: 口縁部ヨコナデ/胴筋上位指環 筋	D~H10~12/SK4967
95	越前焼 燗鉢	口: 34.5 高: 11.5 底: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は平直	外: 口縁部へ腰部ナデ 内: 口縁部へ腰部回転ナデ後ハゲ	D~H10~12/SK4967
96	越前焼 燗鉢	口: 32.0 高: 9.5 底: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は平直/口唇部外側はやや内湾	外: 口縁部回転ナデ/腰部上位へ下 位回転ヘラケズリ 内: 口縁部回転ナデ	D~H10~12/SK4967 外: 口唇部底灰
97	越前焼 燗鉢	口: 22.4 高: 4.8 底: 良好/土質 色: 淡茶灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや内湾	外: 口縁部へ腰部回転ナデ 内: 口縁部ヨコナデ	D~H10~12/SK4967
98	越前焼 燗鉢	口: 23.6 高: 8.3 底: 11.0 焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/4		口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部へ腰部上位回転ナデ/腰部上位 ヨコナデ/腰部上位ヨコナデ/腰部上位 ヨコナデ/腰部上位ヨコナデ/腰部上位 ヨコナデ 内: 口縁部へ腰部回転ナデ/腰部上位 ヨコナデ	D~H10~12/SK4967 外: ヤキムラ
99	越前焼 燗鉢	焼: 良好/土質 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反し口唇部は丸く収める/ 口唇部内側に此線1	外: 口縁部へ腰部回転ナデ 内: 口縁部へ腰部回転ナデ 内面に幅3.6cm・12条の筋目	D~H10~12/SK4967
100	越前焼 燗鉢	口: 32.8 高: 10.5 底: 16.0 焼: 良好/土質 色: 暗褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 2/3		口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収まる/口唇部内側に此線をもつ	外: 口縁部へ腰部回転ナデ/腰部上位 ヨコナデ/腰部上位ヨコナデ/腰部上位 ヨコナデ 内: 口縁部へ腰部回転ナデ/腰部上位 ヨコナデ 内面に幅3.2cm・10条の筋目	D~H10~12/SK4967 外: 腰部ヤキムラ 内: 腰部中央ヤキムラ
101	越前焼 燗鉢	口: 43.4 高: 18.0 底: 良好/土質 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/3		口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち 上がる/ 口唇部内側に此線をもつ/ 口唇部内側に此線が入る	外: 口縁部へ腰部回転ナデ/腰部上位 ヨコナデ/腰部上位ヨコナデ/腰部上位 ヨコナデ 内: 口縁部へ腰部回転ナデ/腰部上位 ヨコナデ/腰部上位ヨコナデ/腰部上位 ヨコナデ 内面に幅3.3cm・8条の筋目	D~H10~12/SK4967
102	土師器 小皿	口: 5.3 高: 1.6 底: 3.3 焼: 良好 色: 白色	極砂粒 軟質 1/1		口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部へ底部ナデ 内: 口縁部へ底部ナデ	D~H10~12/SK4967
103	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.3 底: 2.5 焼: 良好 色: 灰白色	極砂粒 軟質 3/4		口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 凹底	外: 口縁部へ底部ナデ 内: 口縁部へ底部ナデ	D~H10~12/SK4967
104	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.2 底: 3.0 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/2		口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 凹底	外: 口縁部ナデ/底部無調整 内: 口縁部へ底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土	形 状	調整 / 文様	出土地点
			残存			備 考
105	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.7 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ	D～H10～12/SK4967 ※付
			極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
107	土師器 小皿	口: 7.2 高: 2.0 底: 2.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 製作	D～H10～12/SK4967 外: 口縁部スチ付着 内: 口縁部スチ付着
			極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
108	土師器 小皿	口: 8.0 高: 2.0 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
			極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
109	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.8 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
			極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 片口状に※付
110	土師器 耳皿	口: 8.4 高: 1.7 底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 片口状に※付
			極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部内湾に深く凹む口縁面をもつ 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
111	土師器 短京瓦	口: 8.8 高: 1.9 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部内湾に深く凹む口縁面をもつ 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
			極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 外: 口縁部スチ付着 ※付
112	土師器 小皿	口: 8.9 高: 2.5 底: 4.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 外: 口縁部スチ付着 ※付
			極砂粒 軟質 1/2	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 団底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
113	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 団底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
			極砂粒 軟質 1/5	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部内湾に深く凹む口縁面をもつ 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ・体形指頭痕/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
114	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.4 底: 4.0 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部内湾に深く凹む口縁面をもつ 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ・体形指頭痕/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
			極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ・体形指頭痕/底部無調整 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
115	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.2 底: 4.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ・体形指頭痕/底部無調整 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
			極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
116	土師器 小皿	口: 10.2 高: 1.8 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
			極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 外: キキムラ
117	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 2.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 外: キキムラ
			極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
118	土師器 小皿	口: 8.4 高: 2.0 底: 3.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967
			極砂粒 軟質 1/4	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外反/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 外: 口縁部スチ付着 内: 口縁部スチ付着
119	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.6 底: 4.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外反/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 外: 口縁部スチ付着 内: 口縁部スチ付着
			極砂粒 軟質 1/4	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外反/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整 内: 口縁部～底部ナデ 製作	D～H10～12/SK4967 外: 口縁部スチ付着 内: 口縁部スチ付着

## 2 遺物

単位:cm

No	器種	寸量/硬さ/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備 考	
120	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.7 底: 5.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底的無調整 内:口縁部ヨコナデ/底的ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	
	土師器 小皿	口: 8.4 高: 1.9 底: 4.9 径: 良好 焼色: 深褐色	硬砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや外反して外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へフツミ出し丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ、指頭痕 内:口縁部~底部ナデ 型作り		
122	土師器 小皿	口: 9.2 高: 1.8 底: 4.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に浅く凹む口縁部をもつ 底部:平底	外:口縁部~底部無調整 内:口縁部~底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	
	土師器 小皿	口: 9.6 高: 2.1 底: 4.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや外反/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 型作り		
124	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.0 底: 4.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:二線部ヨコナデ/底部指頭痕/底 部無調整 内:二線部~底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	
	土師器 小皿	口: 10.5 高: 2.3 底: 4.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 4/8	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/体部中に段をもつ 底部:平底	外:二線部ヨコナデ/底部指頭痕/底 部無調整 内:口縁部~底部ナデ 型作り		
126	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.2 底: 5.4 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 2/3	二線部:直線状に外方へ立ち上がる/ 二線部でやや外反/口唇部は丸く収める/ 体部中に段をもつ 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部指頭痕/底 部無調整 内:口縁部~底部ナデ、指頭痕 型作り	D~H10~12/SK4967	外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.3 底: 4.8 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/体部中に段をもつ 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 型作り		
128	土師器 小皿	口: 10.2 高: 2.0 底: 5.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ナデ/底的無調整 内:口縁部~底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
	土師器 小皿	口: 10.8 高: 2.0 底: 4.8 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へフツミ出し丸く収める/ 体部中に段をもつ 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部無調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 型作り		
130	土師器 小皿	口: 11.2 高: 2.3 底: 5.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へフツミ出し丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.1 底: 6.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/体部中に段をもつ 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ/底部 無調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 型作り		
132	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.0 底: 6.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外反/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底的無調整 内:口縁部~底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	外:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
	土師器 小皿	口: 10.2 高: 2.2 底: 6.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/2	二線部:直線状に外方へ立ち上がる/ 二線部は丸く収める 底部:平底	外:二線部ヨコナデ/底部指頭痕/底 部無調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 型作り		
134	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.1 底: 5.0 径: 良好 焼色: 橙褐色	硬砂粒 軟質 1/2	二線部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外反/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/底部無調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	

単位: cm

No	器種	寸法/径/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
						備考	
135	土師器 小皿	口: 10.8 高: 2.3 底: 3.2 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外反/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整/ 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	
		口: 12.0 高: 2.2 底: 7.0 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に浅く 凹む/口唇部をもつ 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り		
137	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.2 底: 5.4 径: 良好 色: 橙褐色	粗砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整 内:口縁部コナデ/底部厚残 型作り	D~H10~12/SK4967	
		口: 12.0 高: 2.0 底: 6.6 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める/ 体部中に段をもつ 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り		
139	土師器 小皿	口: 13.4 高: 2.3 底: 8.0 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へツマミ出し丸く収める 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	内:底部スス付着
		口: 13.2 高: 2.3 底: 8.0 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/体部中に段をもつ 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り		
140	土師器 小皿	口: 13.2 高: 2.3 底: 8.0 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外反/口唇部は丸く収める/ 体部中に段をもつ 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	内:口縁部スス付着 内:口縁部スス付着
		口: 12.6 高: 2.0 底: 7.0 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/体部中に段をもつ 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り		
142	土師器 小皿	口: 15.0 高: 2.0 底: 9.0 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部無調整 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り	D~H10~12/SK4967	内:底部スス付着 内:底部スス付着
		長: 5.3 幅: 4.0 高: 1.3 径: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:左右二縁部を内側に曲げる/ 口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部コナデ/底部ナデ 内:口縁部コナデ/底部ナデ 型作り		
144	瀬戸美濃 鉄地 天目碗	口: 11.2 高: 5.0 底: 良好 色: 濃茶褐色	軟質 1/8	二縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方へ屈曲/口唇部は短く 外傾し丸く収める	外:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ 内:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967	外:底部下位無施 外:底部下位無施
		口: 11.0 高: 4.9 底: 良好 色: 濃茶褐色	精練 1/6	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方へ屈曲/口唇部は短く 外傾し丸く収める	外:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ 内:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ		
146	瀬戸美濃 鉄地 天目碗	口: 11.6 高: 5.9 底: 良好 色: 濃茶褐色	精練 1/4	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部でやや外傾して凹曲/口唇部は丸く 収める	外:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ 内:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967	外:底部下位無施一部 刺痕/底部下位無施
		口: 12.0 高: 3.3 底: 良好 色: 淡茶褐色	中練 1/8	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は外傾して丸く収める	外:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ 内:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ		
148	瀬戸美濃 鉄地 天目碗	口: 12.0 高: 5.9 底: 良好 色: 濃茶褐色	中練 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方へ屈曲/口唇部は短く 外傾し丸く収める	外:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ 内:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967	外:底部下位無施
		口: 11.8 高: 6.1 底: 良好 色: 濃茶褐色	中練 1/4	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方へ屈曲/口唇部は短く 外傾し丸く収める	外:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ 内:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ		
150	瀬戸美濃 鉄地 水筒	口: 12.2 高: 5.5 底: 良好 色: 橙褐色	中練 1/6	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は上方へ屈曲/口唇部は短く 外傾し丸く収める	外:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ 内:口縁部コナデ/底部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967	外:底部下位無施

## 2. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/造成/色感 残存	胎土	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
151	瀬戸美濃 鉄胎 大目碗	口: 12.2 高: 6.5 底: 良好 色: 濃黒褐色	精緻 1/8	二輪部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部は上方へ屈曲/口唇部は強く 外側に丸く収める	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967 外: 体部下位輪無し
152	瀬戸美濃 鉄胎 小鉢	口: 13.2 高: 4.6 底: 良好 色: 黒茶色	精緻 1/8	口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967 外: 体部下位輪無し
153	瀬戸美濃 鉄胎 大目碗	口: 9.0 高: 4.2 底: 良好 色: 褐色	軟質 1/8	口縁部は直線状にかめ外方へ立ち上 がる/口端部で上方へ屈曲。口唇部は 強く外反して丸く収める	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967 外: 体部下位鬼様
154	瀬戸美濃 鉄胎 大目碗	口: 8.8 高: 4.7 底: 3.1 底: 良好 色: 濃黒茶色	精緻 1/4	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上 がる/口端部で上方へ屈曲/口唇部は外 反して丸く収める 底部: 削り出し高台	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/体 部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967 外: 体部下位輪無し
155	瀬戸美濃 鉄胎 赤入れ	高: 2.2 底: 3.0 底: 良好 色: 茶色	精緻 1/4	胴部: 寸胴形 底部: 平直	外: 口縁部~胴部下位回転ナデ/底 部回転赤切り皿 内: 口縁部~胴部下位回転ナデ	D~H10~12/SK4967 外: 体部下位輪無し
156	灰輪 碗	口: 11.4 高: 3.5 底: 良好 色: 灰緑色	精緻 1/8	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	D~H10~12/SK4967
157	灰輪 碗	口: 16.0 高: 4.3 底: 良好 色: 淡緑黄色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち 上がる/口端部は強く外反する/口唇 部は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	D~H10~12/SK4967
158	染付 皿	口: 12.4 高: 4.0 底: 7.0 底: 良好 色: 透青灰白	精緻 1/6	口縁部: やや小に内湾して外方へ立ち 上がる/口端部は外反し口唇部は丸く 収める 底部: 削り出し高台	外: 二輪部上位に黒須輪1・呉須輪 内: 二輪部上位に黒須輪1/底部中央に 呉須輪	D~H10~12/SK4967
159	染付 碗	口: 13.2 高: 4.0 底: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/8	二輪部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 二輪部は丸く収める 底部: 削り出し高台	外: 口唇部に黒須輪2/体部に黒須輪 内: 口唇部に黒須輪2/底部に呉須輪	D~H10~12/SK4967
160	染付 碗	高: 2.2 底: 4.2 底: 良好 色: 透青白色	精緻 1/3	底部: 削り出し高台	外: 体部下位に呉須輪・黒須輪1/底部 に黒須輪1/底部に黒須輪2(長命富貴) 内: 底部に黒須輪2・呉須輪	D~H10~12/SK4967 外: 底部平直
161	青磁 香炉	口: 8.1 高: 3.0 底: 良好 色: 青-17号	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/ 口端部は平直/口唇部内側突出 体部: 円筒形	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	D~H10~12/SK4967
162	白磁 皿	口: 9.4 高: 2.0 底: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口端部は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	D~H10~12/SK4967
163	磁胎施 捺線	口: 34.0 高: 10.6 底: 16.0 底: 良好 色: 赤茶色	磁胎軟 質 1/8	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に 浅い凹線	外: 口縁部~体部下位回転ナデ/底 部黒須輪低台/底部黒須輪 内: 口縁部~体部下位回転ナデ 内面: 幅3.1cm・11本の捺目	L5/SE4955
164	土胎器 小皿	口: 9.0 高: 2.2 底: 4.0 底: 良好 色: 橙褐色	磁胎軟 質 4/5	二輪部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 二輪部は丸く収める 底部: 平直	外: 口縁部ナデ/底部黒須輪 内: 口縁部~底部ナデ 型作り	L5/SB4955 外: 口縁部スス付着 内: 口縁部スス付着
165	土胎器 小皿	口: 8.4 高: 2.2 底: 4.0 底: 良好 色: 橙褐色	磁胎軟 質 4/5	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平直	外: 口縁部~底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	L5/SE4955 外: 口縁部スス付着 内: 口縁部スス付着
166	土胎器 羽釜	高: 12.0 底: 5.4 底: 良好 色: 橙褐色	磁胎軟 質 1/2	口縁部: 近く上方へ立ち上がる/底部 は平直	外: 口縁部~底部コゴナデ/体部ナデ 内: 口縁部~体部ナデ	L5/SC4955 外: 口縁部スス付着 内: 口縁部スス付着

上製品(PL. 34 第56図)

単位:cm/g

No	器種	法量(最大値)				残存	色調	調整・特徴	備考	出土地点
		長	幅	上径	下径					
167	十罐	3.3	1.4	0.7	0.8	1/1	緑褐色	形状:円筒形/孔径0.5cm/棒書き付け 残欠		遺構面

金属器(PL. 34 第56図)

単位:cm/g

No	器種	法量(最大値)				残存	材質 色調	調整・特徴	備考	出土地点
		径	高	厚	重					
168	銅製 銅	7.2	3.0	0.1		1/6	銅製品 青銅色	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は外反/口縁部は丸く収める 底部:釜台痕付		遺構面
169	銅製 銅弁	5.6	1.8	0.12	34.1	1/1	銅製品 青銅色	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は外反/口縁部は丸く収める 底部:径0.5cmの孔		遺構面
No	器種	法量(最大値)				残存	材質 色調	調整・特徴	備考	出土地点
		長	幅	厚	重					
170	鉄製 小柄	5.0	1.4	0.2	-		鉄製品 錆色	形状:板状	木質付着	G・H15/遺構面
171	鉄製 小柄	7.5	1.1	0.3	-		鉄製品 錆色	形状:板状/端部は鉤状	木質付着	D15・16/2・3トレンチ
172	鉄釘	4.0	1.0	0.3	1.6	1/1	鉄製品 錆色	釘頭は折り曲げた後平出		表土
173	鉄釘	2.8	0.6	0.2	1.4	1/1	鉄製品 錆色	釘頭は折り曲げた後平出		H~J6/遺構面
174	鉄釘	4.3	0.6	0.4	3.7	2/3	鉄製品 錆色	釘頭欠損		H~J6/遺構面

石製品(PL. 34 第56図)

単位:cm/g

No	器種	法量(最大値)				残存	石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長	幅	厚	重					
175	石碇	8.6	3.6	2.2	-	1/8	粘板岩 黒色 硬質	形状:板状/厚縁幅1.3cm×高さ2.0cm/ 草花文彫刻	全体平滑	不明
176	石碇	7.6	4.6	1.1		4/5	粘板岩 暗灰色 硬質	形状:板状/厚縁幅0.3cm×高さ0.1cm/ 上端部左側欠損	全体平滑	耕作上
177	石碇	9.3	6.1	1.1	-	1/2	粘板岩 明灰色 硬質	形状:板状/厚縁幅0.7cm×高さ0.3cm/ 上下端部・右側欠損	全体平滑	D15・16/2・3トレンチ
178	鉄石	6.6	6.4	1.8	106.3	4/5	凝灰岩 白色 硬質	形状:板状/立方体/上部一部欠損 縁部:表面・裏面下縁部・左側面 破折:右側面	鉄屑3 粒度:密 中砥(淨数寺砥石)	H~H10~12/SK4967
179	鉄石	8.3	4.7	2.3	113.5	4/5	凝灰岩 白色 硬質	形状:板状/立方体/上下端部一部欠損 縁部:表面・裏面・左右側面	砥面4 粒度:密 中砥(淨数寺砥石)	遺構面

銭貨(PL. 34 第56図)

単位:cm/g

No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点 備考	No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点 備考
		径	厚	重						径	厚	重			
180	揮形元寶 3279	2.3	1.2	2.9	1/1	北宋 初鑄:1174年	遺構面	186	元豐通寶 3283	2.2	1.0	2.9	1/1	北宋 初鑄:1078年	遺構面
181	漢式通寶 3282	2.1	1.8	3.6	1/1	明 初鑄:1368年	遺構面	187	元豐通寶 3283-2	2.2	1.0	2.2	1/1	極稀銭 中世末~近世初	遺構面
182	漢式通寶 3280	2.1	1.2	3.2	1/1	明 初鑄:1368年	遺構面	188	元豐通寶 16600	2.3	3.2	4.5	1/3	上記 初鑄:1078年	遺構面 2次密着
183	漢式通寶 3281	2.6	1.4	3.4	1/1	明 初鑄:1368年	遺構面	189	寛永通寶 16107	2.3	1.2	2.9	1/1	1636~ 1655年	遺構面 古瓦水
184	水東通寶 3278	2.4	1.4	3.0	4/5	明 初鑄:1408年	遺構面	190	寛永通寶 16108	2.1	1.0	2.0	1/1	1697~1781年 3期新造水	遺構面 3行
185	水東通寶 3277	2.3	1.2	2.7	1/1	明 初鑄:1408年	遺構面	191	寛永通寶 1169	2.3	1.0	2.8	1/1	1739年~	遺構面

## Ⅷ. まとめ

**第60次調査** 諏訪館は、本来、土塁石垣で区画した館であったが、その後、庭園を作庭する際に上土石垣を完全に埋め、築山の中を暗渠で導水したとことがあきらかになった。土塁石垣が諏訪館の区画に伴うものとした場合、館跡の区画の一部を改変して導水路を通していたことになる。

まず、上下2段で構成される諏訪館跡の地形をみると、南北70m、東西25mを測る山林中腹の段差をもつ平坦地に、北に下段庭園、南に上段庭園が配置されている。西側は崖面となり、東側は北に向かって舌状に等高線が延びてゆく。この等高線部分が下段庭園の築山となっているが、今回の調査によって、下層に館構築時の土塁石垣が同方向に存在している可能性が強まった。導水路は標高75~77m付近の等高線に沿って東に向かい、谷の水を分水して引き込んでいたと考える。館の構築時には、上土石垣を東側に配置し、上段・下段に屋敷を構え、上段にも小規模な庭園が存在したのかもしれないが、下段に本格的な庭園を築く段階になると、かつての屋敷を廃し、土塁石垣を盛土して築山にしたと考える。その際、上段の庭園も下段に水が流れるように、石の配置等を、一部改変したのではないかと考える。

**第67次調査** 朝倉館跡の外濠は、既に昭和48年(1973)の第9次調査によって、北濠の断面規模については上幅8.5m、底幅3.6m、深さ3.4mを測ることが判明し、館跡の土塁石垣の一部と全長8.7m、幅0.7m、高さ0.7mの暗渠が確認されている。第67次調査は、さらなる外濠の規模を把握するために実施し、外濠の四隅と唐門前に1~5区の調査区を設定した。第9次調査では北濠中層の腐植土層から榊根の駒をはじめとする多種多様な遺物が出土したが、第67次調査は外濠規模を確認することを目的としたため、濠内の包含層中心部の掘削は避けて行った。第9次調査区の東に隣接する1区では北門付近で館跡の土塁石垣を検出した。3区では西濠外側の岸を部分的に確認できたが、整備工事中、西濠外側断面で 乗谷川に向かって幅5.0mの濠が確認され、外濠の導水路が確認できたことは大きな成果だった。4区では館跡南門前の土塁石垣と南門に架かる橋脚柱を2本検出し、橋脚は6.0m以上の規模と想定できた。5区では底面が館跡西門(御門)に対応する橋脚の石列らしき遺構を確認し、外濠幅は8.0mと推定された。

**第100次調査** 北から土塁石垣で区画された武家屋敷A~C群が確認され、第31次調査の成果と照合すると、武家屋敷A・B群門外の屋敷跡についての状況も把握することができた。A群は全体的に大きな削平を受けていたため、屋敷内の建物構造や配置に不明な部分を残すことが、屋敷内において5間×3間の掘立柱建物1と門跡1、石積遺構7、井戸3、石敷遺構7等が検出された。また屋敷外では門跡から川に向かう道路を検出し、道路を境に北側屋敷跡、南側屋敷跡が下層に配置されていることが明らかになった。B群は、比較的遺構の残存状況が良く、礎石建物3が検出され、1つは土蔵と考えられる。その他、石積遺構3、井戸1、石敷遺構5が検出され、南越前焼大甕を複数据えた埋篋遺構が検出された。C群は第31次調査で検出した土塁石垣が東西に延び、B群との境になると考えた。この土塁石垣に並行する石垣は東西道路に相当する可能性がある。遺構は、5間×3間以上の礎石建物1、石積遺構1、井戸1、石敷遺構2が検出され、遺構の配置方向は地形の制約を受け、A・B群より10°南東へ傾いていた。遺構はほぼ石組で構成されているため、切り合い関係が明瞭であり、上層を朝倉滅亡期とすると、下層に遺構面が2時期存在することが明らかになった。

**第106次調査** 南陽寺関連、瓜割清水関連の遺構が想定されたが、一面に大きく擾乱を受けていた。礎石建物をはじめ検出された遺構は、検出状況から近世~近代に属するが、朝倉期の遺物も出土し、屋敷跡や清水に関連する施設が存在した可能性は否定できない。



**第109次調査** 北に朝倉館跡、東の段丘上に中の御殿跡が存在し、検山された西側の土塁石垣の規模から朝倉家の中核部にふさわしい、大型の武家屋敷跡が存在したことが想定されるが、地畑として大きく削れており、屋敷の規模や建物配置は確認できなかった。炭化物を多く含む不定形の大型土坑からは土師器小皿を主体とした大量の陶磁器類やサザエの貝殻が検出され、屋敷跡に関連する遺構と見れば、喜劇もしくは火災後の片付けに伴う廃棄土坑と考える。北東側に位置する朝倉館跡に接続する門跡については確認できなかった。

今回の報告書は、遺構については事実記載を重視し、遺物も木炭表となっている資料をなるべく掲載するようにした。これは、既に発掘調査から20～30年以上経過した、大量の遺物や未整理の遺構図を眼前にして、最初に決めた方針である。ただ、遺構図は全体測量図のみで、検出した井戸、石積遺構、土塁の実測図等は皆無に等しく、戦国期の遺構を研究する資料として、本書でその責務を果たせていない点があれば、関係者は批判を受けねばならない。第100次調査では、一乗谷川左岸の武家屋敷の全貌を示したが、調査の成果を踏まえた考察や展望については今後の研究で輪郭を与えていきたい。

参考文献

Ⅲ. 第60次調査関連

- 1 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館【特別展 戦国城下町研究の最前線】福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成13年7月
- 2 朝倉氏遺跡調査研究が編【特別史跡・乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告】Ⅰ-朝倉館跡の調査- 福井県教育委員会 昭和59年3月
- 3 福井県立朝倉氏遺跡資料館編【特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡】XIX-昭和62年度発掘調査整備事業概報- 福井県立朝倉氏遺跡資料館 昭和63年3月
- 4 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編【第19回特別展 戦国一乗谷の庭園】-伝統と革新の庭園デザイン- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成24年8月
- 5 朝倉氏遺跡調査研究が編【特別史跡 乗谷朝倉氏遺跡】Ⅰ-発掘整備10周年記念展- 岡島美術記念館 昭和51年10月

Ⅳ. 第67次関連

- 6 朝倉氏遺跡調査研究所編【特別史跡 乗谷朝倉氏遺跡】V-昭和48年度発掘調査整備事業概報- 昭和49年3月
- 7 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編【特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告】Ⅳ-第15・24次調査- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成5年3月

Ⅴ. 第100次関連

- 8 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編【特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡】-平成9年度発掘調査環境整備事業概報(29)- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成10年3月
- 9 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編【発掘調査開始30周年 特別史跡指定25周年記念特別展 張りからさめた戦国の城下町】福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成9年7月
- 10 福井県立朝倉氏遺跡資料館編【特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 異道鯖江・美川線改良工事に伴う発掘調査報告】福井県教育委員会 昭和58年3月
- 11 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編【特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告】Ⅵ-第29・30次 第57・58次 第83次- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成9年3月

Ⅵ. 第106次関連

- 12 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター編【特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告】12 第64・65次調査(南陽守) 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 平成28年3月
- 13 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編【特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡】平成11年度発掘調査環境整備事業概報(31) 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成12年3月
- 14 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編【特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡】33 平成13年度発掘調査・環境整備事業概報 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成14年3月

Ⅶ. 第109次関連

- 15 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編【特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡】32 平成12年度発掘調査・環境整備事業概報 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成13年3月

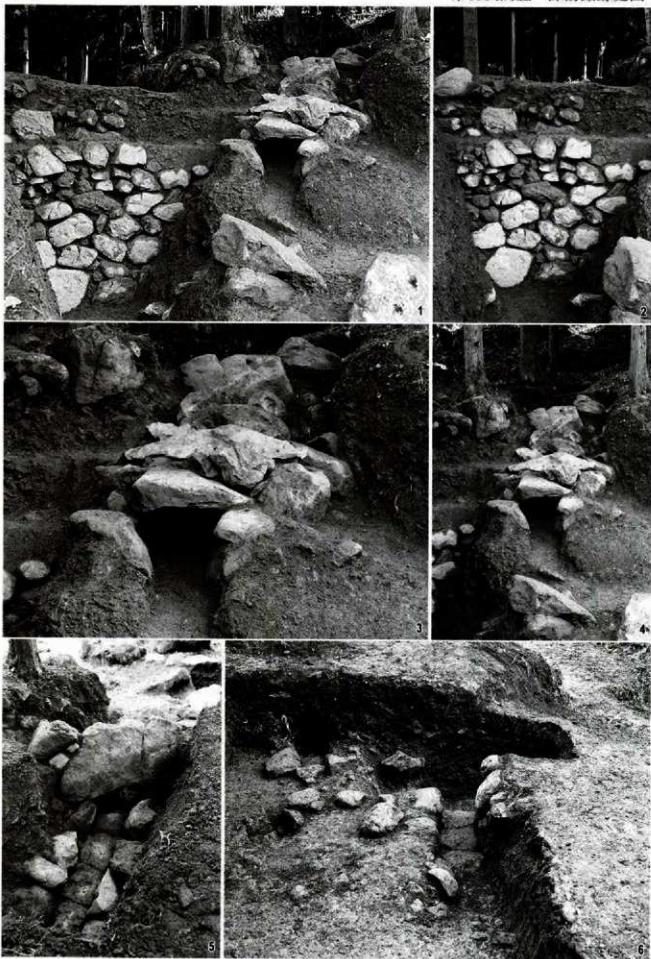
# 写 真 图 版



(1)第60次調査1区 諏訪館跡庭園下段(北東から)



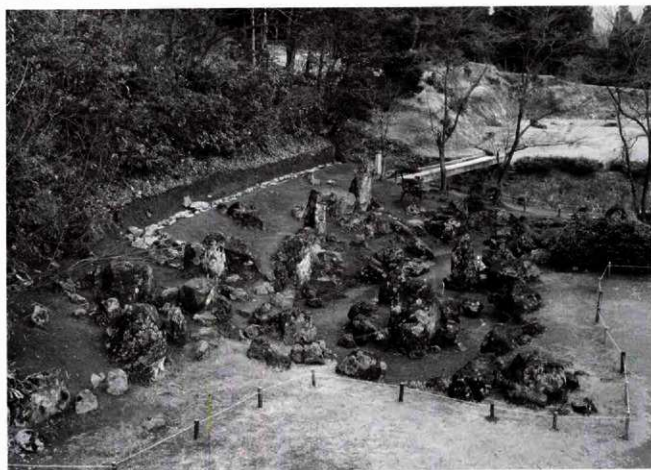
(2)第60次調査1区 諏訪館跡庭園上段(東から)



(1)庭園上段導水路(北東から) (2)庭園上段土塁石垣(西から) (3)庭園上段導水路(北西から)  
 (4)庭園上段導水路(北西から) (5)庭園上段導水路(南東から) (6)庭園上段導水路(南東から)



(1) 第60次調査2区 湯殿跡庭園(南から)



(2) 第60次調査2区遺構全景(北東から)



(1)庭園導水路(北から) (2)庭園導水路(北東から) (3)庭園導水路(北東から)  
 (4)庭園導水路手前屈曲部(東から) (5)庭園導水路(北東から)



(1) 第67次調査区 朝倉館跡外濠遠景(北西から)



(2) 館跡外濠1区(南東から)

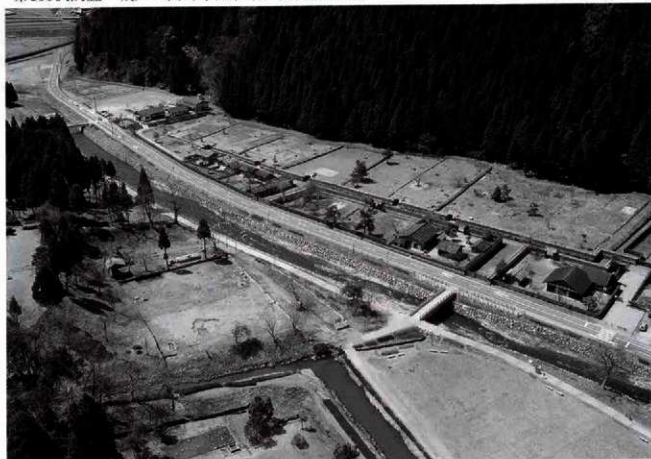


(3) 館跡外濠1区(南東から)



(1)館跡外濠2区(北東から) (2)館跡外濠3区石垣(北東から) (3)館跡外濠4区(東から)  
 (4)館跡外濠4区石垣(南西から) (5)館跡外濠4区出土笏谷石(南から) (6)館跡外濠5区唐門前石垣(北西から)  
 (7)館跡外濠5区唐門前石垣(北西から)





(1)第100次調査区遠景(北東から)



(2)第100次調査区遺構全景(南東から)



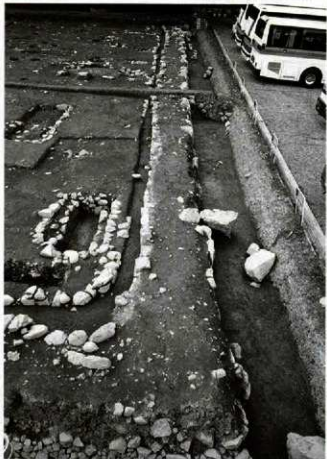
(1) 第100次調査区東側遺構全景(北東から)



(2) 第100次調査区西側遺構全景(北東から)



(1)SB4634(南西から) (2)武家屋敷A群北端遺構全景(南東から) (3)武家屋敷A群北東隅遺構全景(南西から)  
 (4)武家屋敷A群南東隅遺構全景(北西から) (5)SD4644、SS4684、SX4692(南東から) (6)SE4648(南東から)



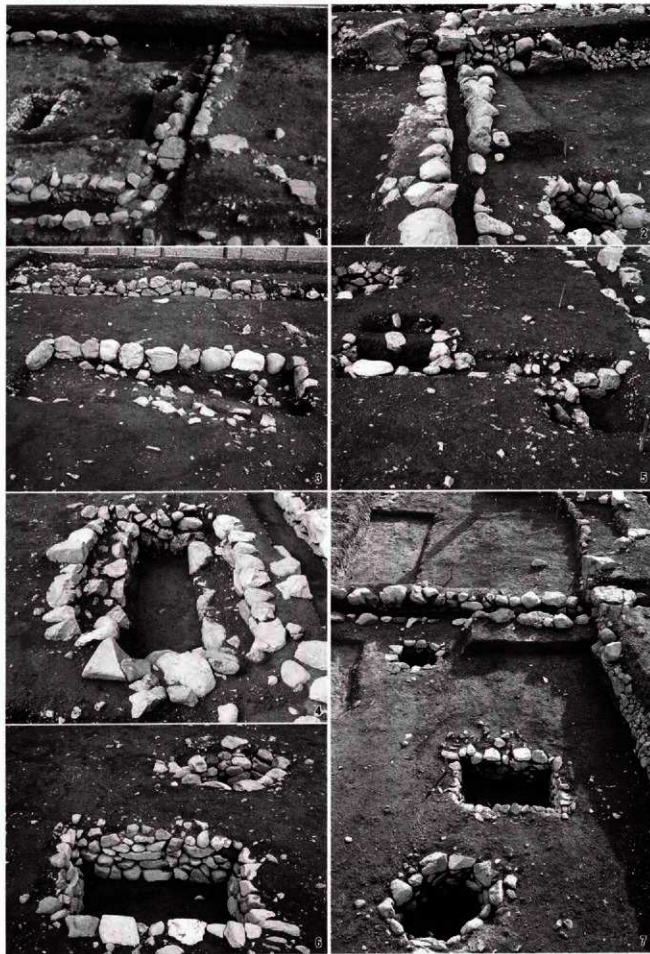
(1)北側土塁石垣SA4631(南東から)



(2)南側土塁石垣SA4633(南東から)



(3)東側土塁石垣SA4632内ST4668(北西から)



(1) 東側土塁石垣SA4633、SD1439(北西から) (2)SD1439(南東から) (3)SF4652(南西から) (4)SF4653(南東から)  
 (5)SF4654・4656(南東から) (6)SE4651、SF4657(南西から) (7)SS1425、SD1439、SE1455・4651、SF4657(北東から)



(1) 東側土塁石垣SA4632下層遺構SF4662・1474(南から)



(3) SF4658～4661(南から)



(2) 東側土塁石垣SA4632下層遺構SF4663(南西から)



(4) 東側土塁石垣SA4632下層遺構SF4663・1475(南東から)



(1) 武家屋敷B群遺構全景(北東から)



(2) 武家屋敷B群遺構全景(南西から)



(1)SB4635、SX4697(南東から)



(2)SB4636、SX4699(南東から)





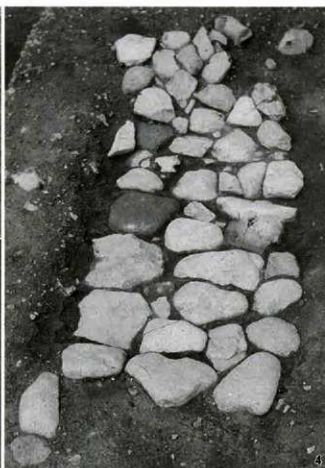
(1)SB4637、SE4649(南東から)



(2)SB4637、SF4666、SX4708(北東から) (3)SK4672(東から) (4)SF4666(北東から) (5)SE4649(南東から)



(1) 武家屋敷C群遺構全景(南西から)



(2)SE4650(南東から) (3)SX4707(南東から) (4)SX4706(南東から)



(1) 第106次調査区遺構全景(北西から)



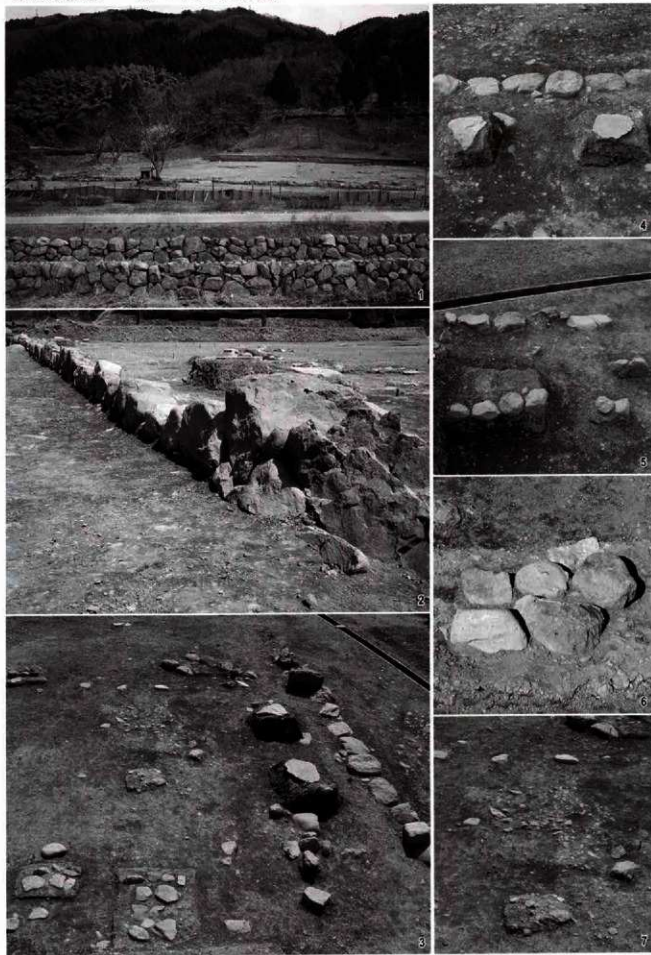
(2) 調査区遺構全景(南から) (3) 調査区北東隅遺構全景(西から) (4) 調査区南西隅遺構全景(西から)



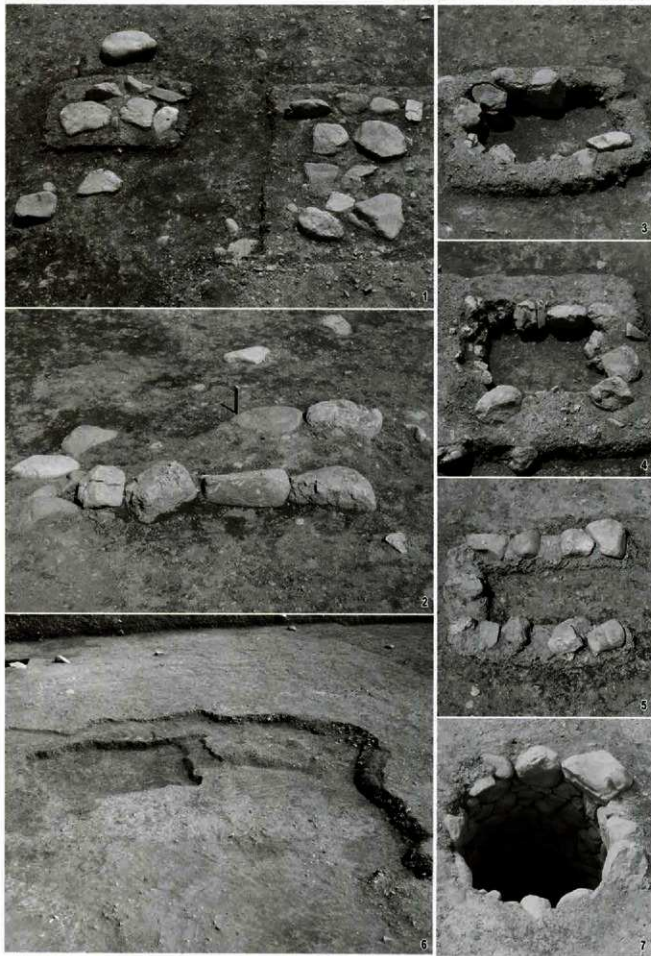
(1) 第109次調査区遠景(南西から)



(2) 第109次調査区遺構全景(南東から)



(1)第109次調査区遺構遠景(北西から) (2)SA4952(南西から) (3)調査区南西側遺構全景(南東から)  
(4)SI4953(南東から) (5)SA4954(南東から) (6)SX4958(北東から) (7)SX4959(北東から)



(1)SX4956・4957(北東から) (2)SA4960(西から) (3)SF4961(北東から) (4)SF4962(北東から)  
 (5)SF4963(南東から) (6)SK4967(北西から) (7)SE4955(南東から)



(1) 第60次調査出土陶磁器類、石製品

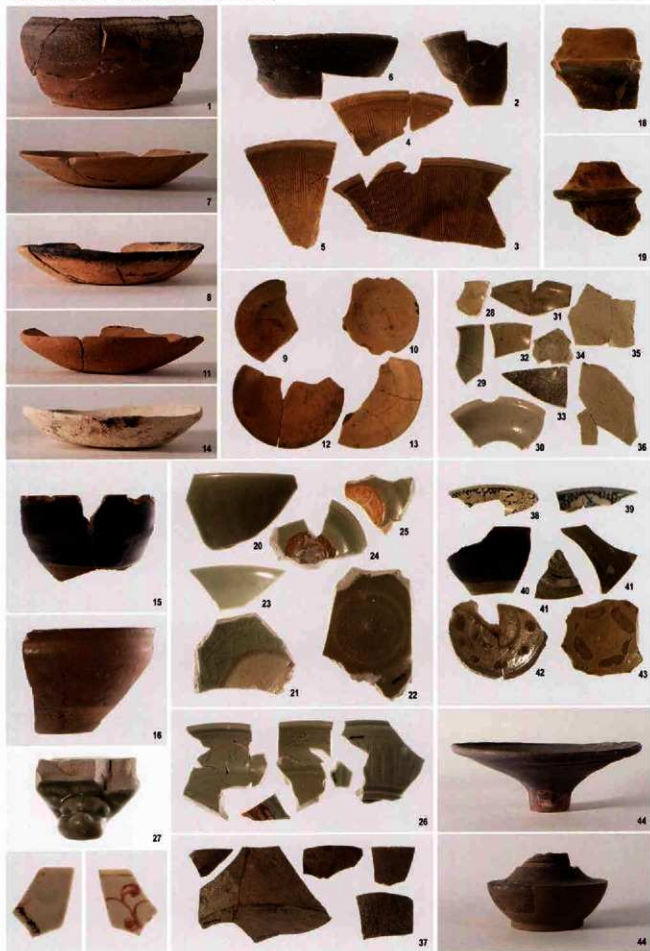


(2) 第67次調査出土陶磁器類、石製品



(1)第67次調査出土木製品





(1) 武家屋敷A群包含層出土陶磁器類



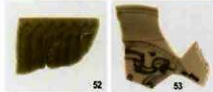
(1)SA4631出土越前焼播鉢他



50



51



52

53

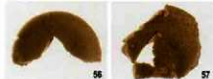
(2)SA4632出土陶磁器類



54



55



56

57

(3)SF4653・4658出土陶磁器類



58

59

(4)SS4684出土土師器小皿



60

60



61

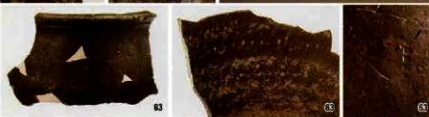
61



61

61

62



63

63

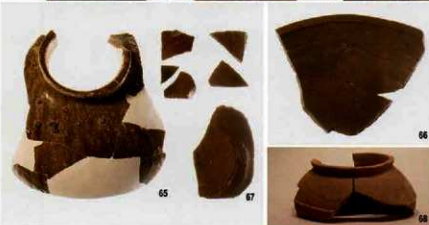
63



64

64

64



65

67

66

68

(5)SK4669出土越前焼大甕・壺・捏鉢

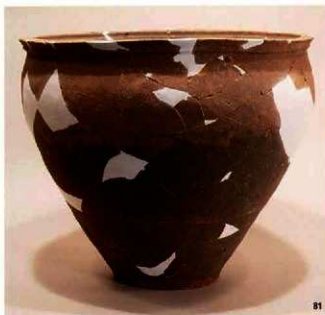


(1)SF4660出土  
越前焼罎鉢

(4)武家屋敷B郡SE4649出土  
越前焼罎鉢



75



81

(2)SK4683出土越前焼大甕



76

79



78

80



72

73

74



80

(3)SK4678出土陶磁器類



77

78



79

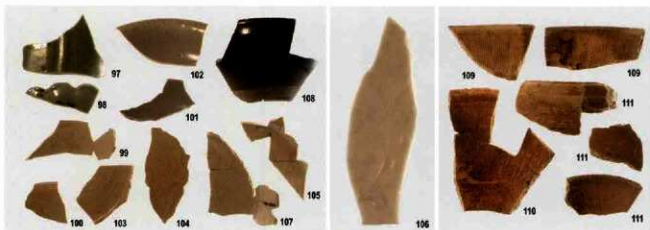
(5)武家屋敷B郡SK4672出土陶磁器類



(1)SE4646出土青磁輪花皿

(2)SD4644出土土師器小皿

(4)SX4692出土土師器小皿・4695出土朝鮮白磁碗



(3)SD4642出土青磁盤・輪花皿、白磁碗・皿・中国製天目碗

(5)武家屋敷B群包含層出土越前焼鉄類



(6)武家屋敷B群包含層出土土師器小皿



(1) 武家屋敷B群包含層出土陶磁器類



(1) 武家屋敷B群包含層出土陶磁器類



(2) SB4635出土越前焼大甕、白磁皿、染付皿

(3) SA4632出土染付皿

(4) SF4663出土土師器小皿

(5) SF4664出土陶磁器類

(6) SK4671出土灰釉小皿



(1)SK4672出土越前焼大甕



(1)SK4672出土越前焼壺

224



(3)SK4672出土越前焼壺、武家屋敷C群出土陶磁器類、土製品



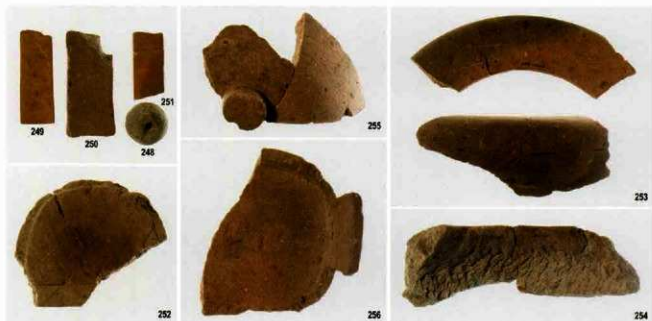
(2)224押印文

(5)第100次調査出土勾玉

247



(4)第100次調査出土金属器



(6)第100次調査出土石製品

249

250

248

251

255

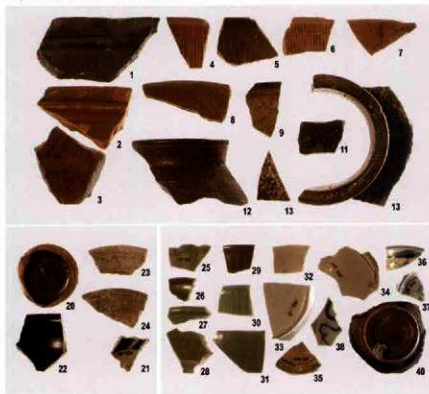
252

256

253

254

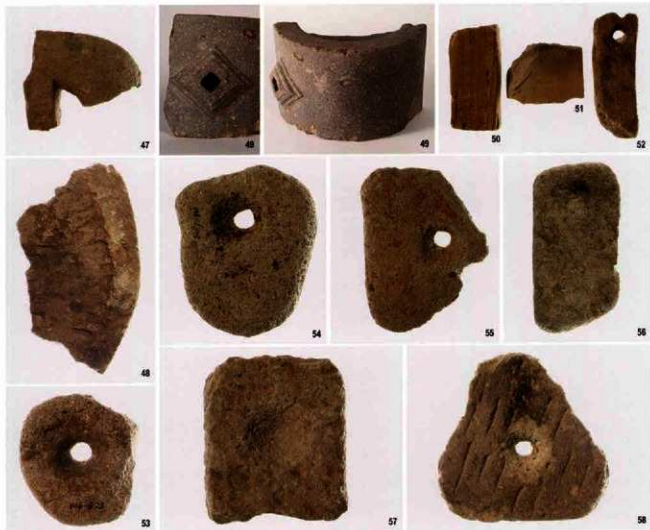




(1) 第106次調査出土陶磁器類土器



(2) 第106次調査出土金属器



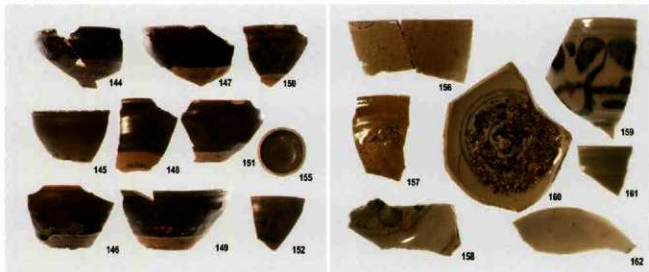
(3) 第106次調査出土石製品



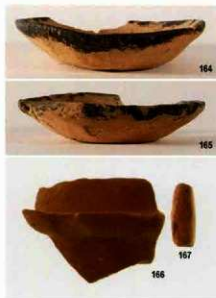
(1) 包含層出土陶磁器類



(1)SK4967出土越前碗・鉢類・土師器小皿



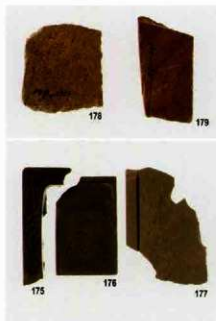
(1)SK4967出土陶磁器類



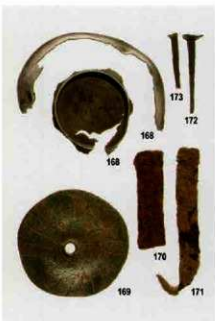
(2)SF4955出土土師器小皿・羽釜



(3)SK4967出土貝殻



(4)第109次調査出土石製品



(5)第109次調査出土金属器



(6)第109次調査出土銭貨

## 報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき いちじょうだにあさくらしいせきはつくつちょうさほうこく
書名	特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 18
副書名	第60・67・100・106・109次発掘調査
シリーズ番号	18
編著者名	鈴木篤英 川越光洋
編集機関	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
所在地	〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 TEL.0776-41-2301
発行年月日	令和2年3月25日

調査地区	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
第60次 1区	福井県福井市城戸ノ内町 【諏訪館跡庭園】	18210	史-31	36度 00分 07秒	136度 17分 50秒	19871208～ 19871224 (1・2区)	70㎡ (1・2区)	堀成整備に伴う 発掘調査
" 2区	福井県福井市城戸ノ内町 【湯殿跡庭園】	"	"	36度 00分 07秒	36度 00分 07秒	"	"	"
第67次 1～5区	福井県福井市城戸ノ内町 字新御殿 【朝倉館跡外濠】	"	"	35度 59分 58秒	136度 17分 42秒	19890908～ 19891007 19900110～ 19900111	300㎡ (1～4区) 30㎡ (5区)	"
第100次	福井県福井市城戸ノ内町 宇川台地、藤兵衛河原	"	"	36度 59分 37秒	136度 17分 44秒	19970401～ 19971221	2,600㎡	"
第106次	福井県福井市城戸ノ内町 字瓜割庭	"	"	36度 00分 03秒	136度 17分 48秒	19991102～ 19991201	225㎡	"
第109次	福井県福井市城戸ノ内町 字新御殿	"	"	35度 56分 40秒	136度 17分 42秒	20000815～ 20001220	2,000㎡	"

調査地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第60次 第1区 第2区	近畿跡	室町・戦国 15・16世紀	庭園導水路、石垣 施園導水路 排水路	第1区…雄簡槍、土師質皿、青磁盤、白磁皿、石盤、バンドロ	1区…諏訪館庭園作庭以前の 石垣確認 2区…導水路確認 概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』X IX 昭和63年3月
第67次 第1～5区	館跡	"	外濠、土塁石垣	雄簡槍、土師質皿、青磁、染付、朝鮮陶磁器、磁石、不明石製品、木燵、部材、桶材	概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』21 平成2年3月
第100次	武家屋敷跡	"	土塁石垣4、礎石建物5、獨立柱建物1、門1、道終2、煙囪遺構2、溝6、井戸7、石積遺構13、土蔵1	雄簡槍、土師質皿、瀬戸美濃焼、青磁、白磁、染付、外国陶磁器、土鈴、硬玉製勾玉	3区画の武家屋敷A～C群を 確認。 概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』29 平成10年3月
第106次	屋敷跡	"	礎石建物2、石敷遺構1、道路1、溝1	雄簡槍、土師質皿、青磁、染付、朝鮮陶磁器、磁石、不明石製品	概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』31 平成12年3月
第109次	武家屋敷跡	"	土塁石垣2、門1、道路1、井戸1、廃棄土坑1	雄簡槍、土師質皿、瀬戸美濃焼、青磁、白磁、染付	大型の土台を確認。 概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』32 平成13年3月

令和2年3月18日 印刷

令和2年3月25日 発行

**特別史跡**

**一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 18**

第 60・67・100・106・109 次調査

編 集 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
発 行 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
〒910-2152 福井市安波賀町4-10  
印 刷 白崎印刷株式会社